# 外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業の調査結果

【調査概要】

| | |
|---|---|
| 実施主体 | 大阪市社会福祉協議会（大阪府交付金事業の一環として実施） |
| 調査目的 | 新型コロナウイルス感染症の市民生活や地域福祉活動への影響を把握することで、今後の地域福祉活動の推進の方向性や具体的な方策を検討することを目的に実施した。 |
| 調査区分・対象・<br>有効回答数（有効回答率） | （１）住民対象（事業対象者向け）<br>対象：外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業の利用者<br>４，８００人<br>有効回答数：３，２３３　（67.4%）<br>（２）住民対象（無作為）<br>対象：事業の訪問時等に近隣へポスティング、地域行事や区社協と関りのある居場所等でに配付、老人福祉センター来館者等　２，４００人<br>有効回答数：１，４８８　（62%）<br>（３）小学生対象<br>対象：こども食堂を利用しているこどもたち　８０人<br>有効回答数：２６　（32.5%）<br>（４）活動者（団体）対象<br>対象：地域団体、ボランティア団体、ＮＰＯ等　３９５団体<br>有効回答数：２４０　（60.7%）<br>（５）区社協職員対象　１１９人<br>対象：各区社協 地域支援担当主査またはスタッフ、見守り支援ネットワーカー、包括支援管理者等　（職員ごとに回答）<br>有効回答数：１１９　（100%） |
| 調査期間 | 令和２年１０月～１１月 |

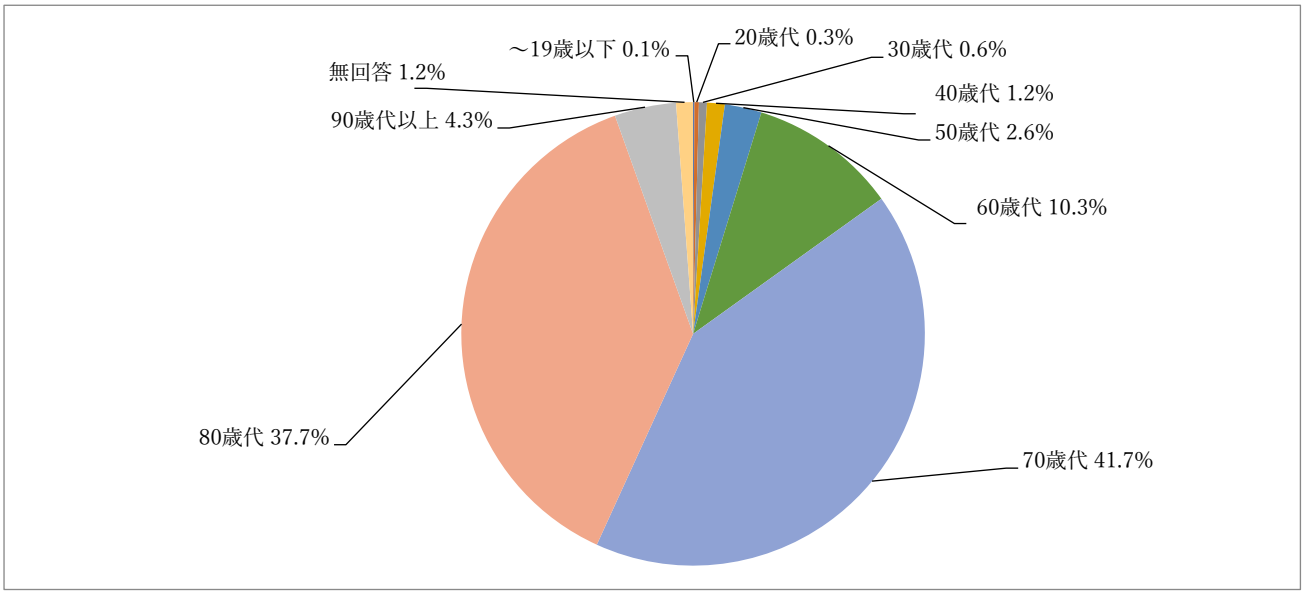
# 住民対象（事業対象者向け）
# 調査結果集計

あなたご自身のことについてお伺いします。

【回答者の属性】

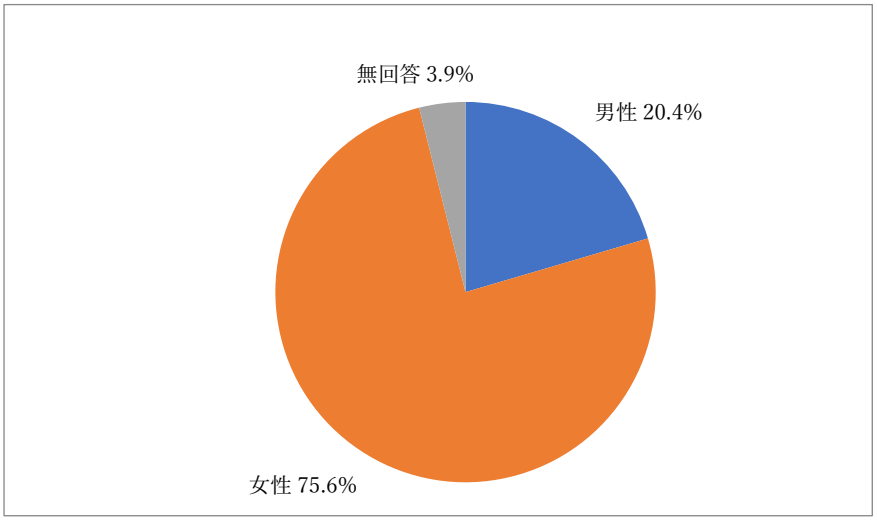
| 職業 | ～19歳以下 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代 | 90歳代以上 | 無回答 | 回答人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学生 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 0 | 0 | 7 |
| 会社員・団体職員・公務員 | 0 | 4 | 12 | 6 | 14 | 39 | 31 | 18 | 0 | 0 | 124 |
| 自営業 | 0 | 0 | 1 | 5 | 16 | 46 | 113 | 47 | 4 | 1 | 233 |
| パート・アルバイト等 | 0 | 2 | 1 | 13 | 29 | 74 | 69 | 12 | 0 | 0 | 200 |
| 専業主婦・主夫 | 0 | 2 | 4 | 9 | 12 | 98 | 483 | 319 | 25 | 9 | 961 |
| 無職 | 0 | 2 | 0 | 3 | 9 | 53 | 551 | 681 | 90 | 8 | 1397 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2 | 13 | 39 | 42 | 6 | 0 | 105 |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 10 | 62 | 98 | 14 | 20 | 206 |
| | | | | | | | | | | | |
| 合　計 | 3 | 10 | 18 | 40 | 83 | 334 | 1349 | 1219 | 139 | 38 | 3233 |

## １．年齢（回答は１つ）




・回答者の年代では、「７０歳代」が４１.７％、「８０歳代」が３７.７％であり、７０歳以上が全体の７９.４％である。

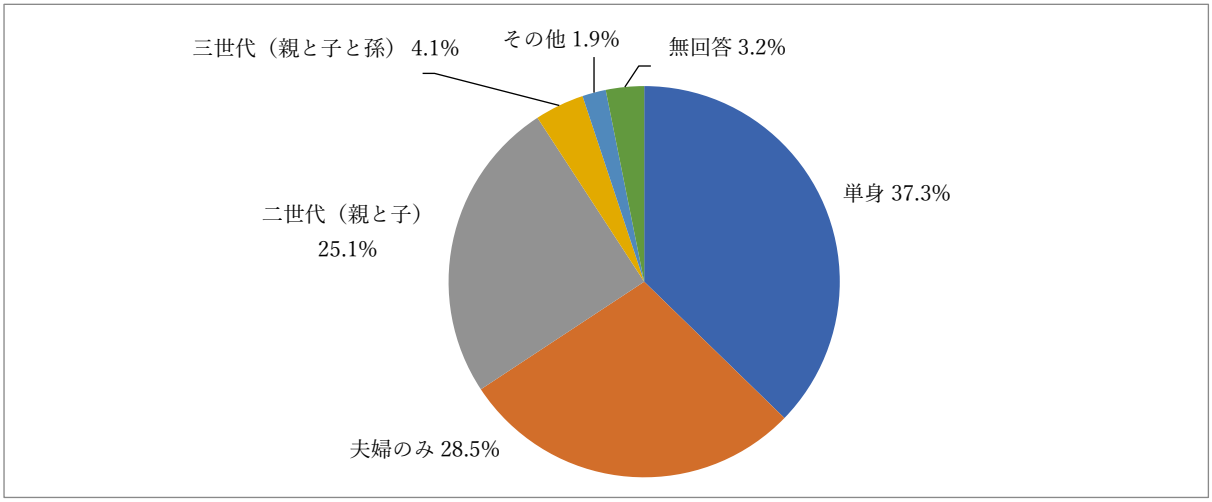
## ２．性別（回答は１つ）



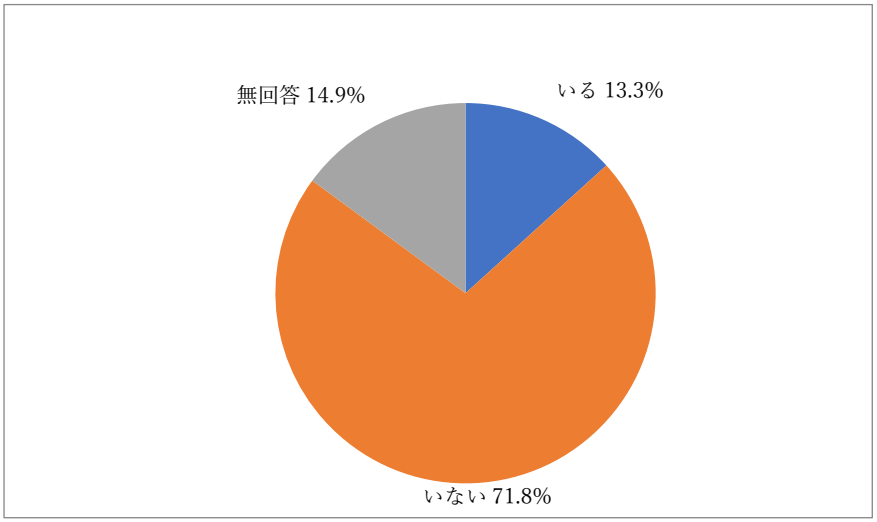
## 3．お住いの区（回答は１つ）

| お住いの区 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 北 | 113 | 3% | 東淀川 | 160 | 5% |
| 都島 | 68 | 2% | 東成 | 43 | 1% |
| 福島 | 137 | 4% | 生野 | 118 | 4% |
| 此花 | 152 | 5% | 旭 | 184 | 6% |
| 中央 | 129 | 4% | 城東 | 126 | 4% |
| 西 | 150 | 5% | 鶴見 | 117 | 4% |
| 港 | 191 | 6% | 阿倍野 | 121 | 4% |
| 大正 | 106 | 3% | 住之江 | 148 | 5% |
| 天王子 | 131 | 4% | 住吉 | 166 | 5% |
| 浪速 | 160 | 5% | 東住吉 | 28 | 1% |
| 西淀川 | 196 | 6% | 平野区 | 141 | 4% |
| 淀川 | 128 | 4% | 西成 | 105 | 3% |
| | | | 無回答 | 115 | 4% |

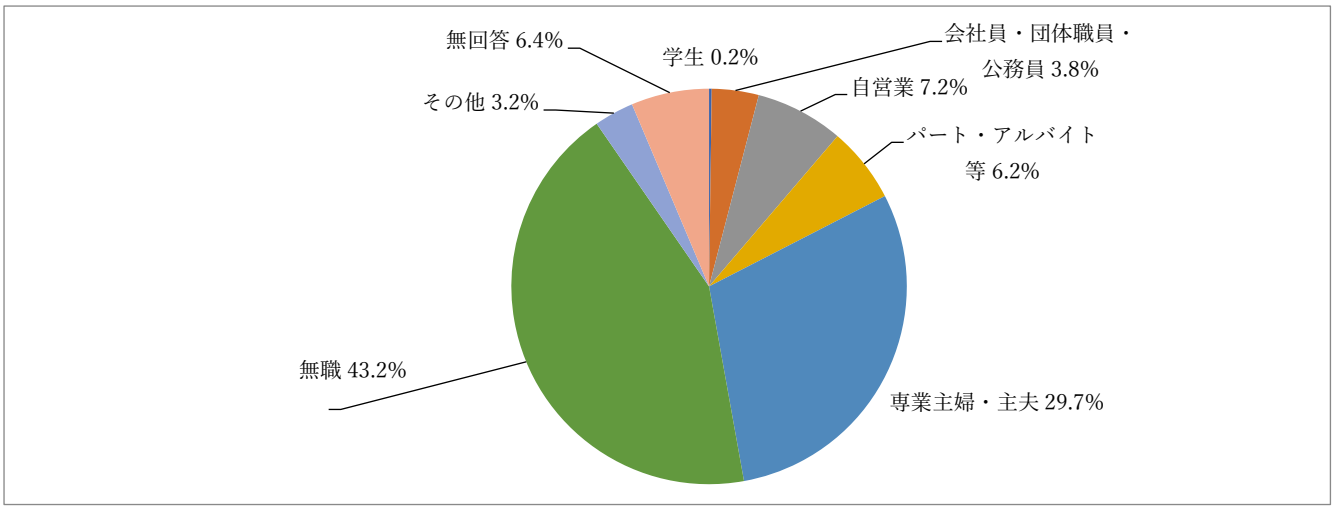
## 4．世帯（回答は１つ）

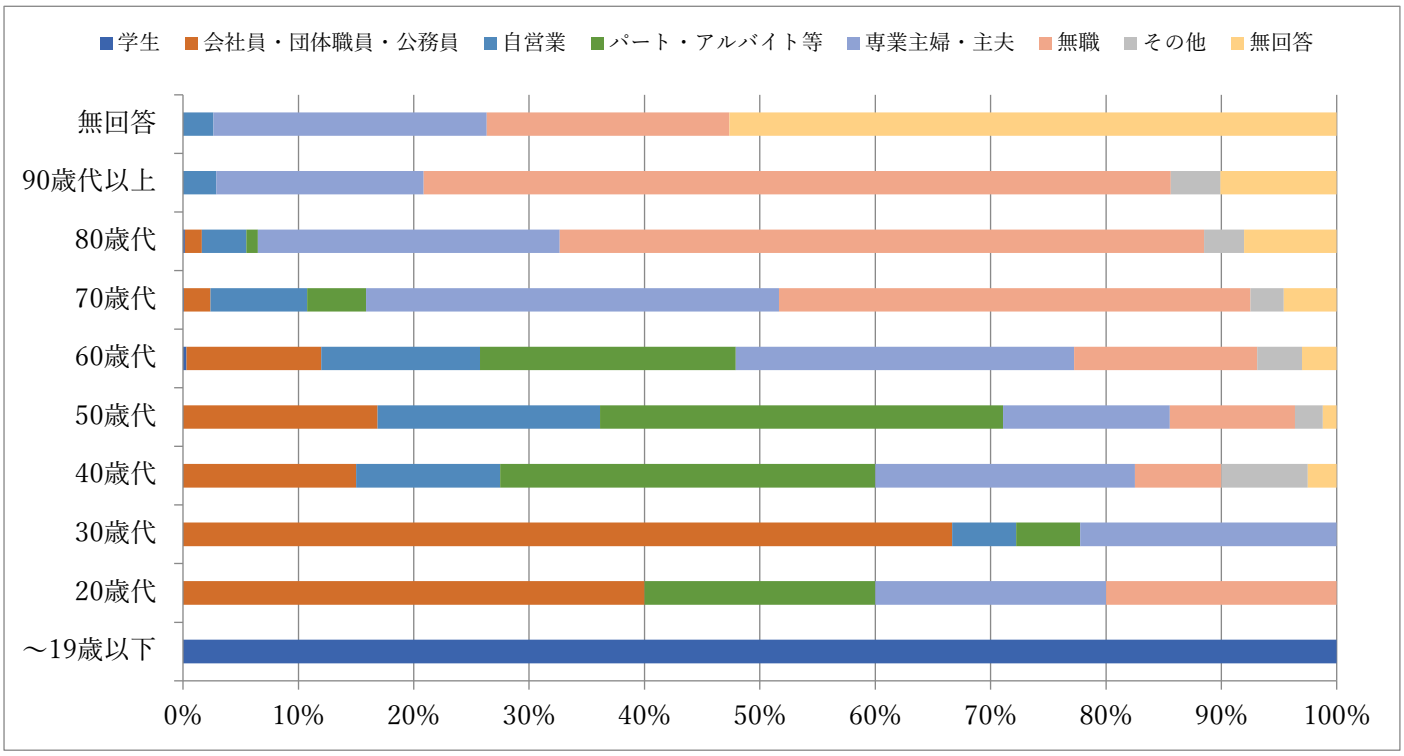



## 5．ご家族の中に日常生活で手助けが必要な方はおられますか（回答は１つ）



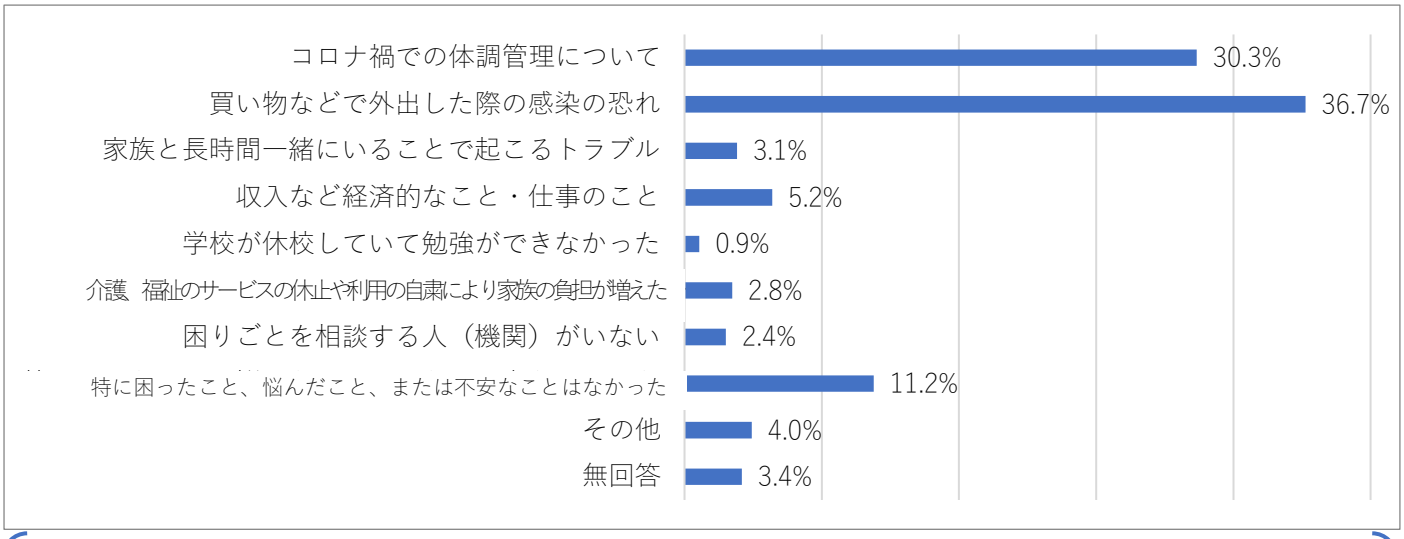
## ６．職業（回答は１つ）


無回答 6.4%
学生 0.2%
会社員・団体職員・公務員 3.8%
自営業 7.2%
その他 3.2%
パート・アルバイト等 6.2%
無職 43.2%
専業主婦・主夫 29.7%


学生
会社員・団体職員・公務員
自営業
パート・アルバイト等
専業主婦・主夫
無職
その他
無回答
無回答
90歳代以上
80歳代
70歳代
60歳代
50歳代
40歳代
30歳代
20歳代
～19歳以下
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%

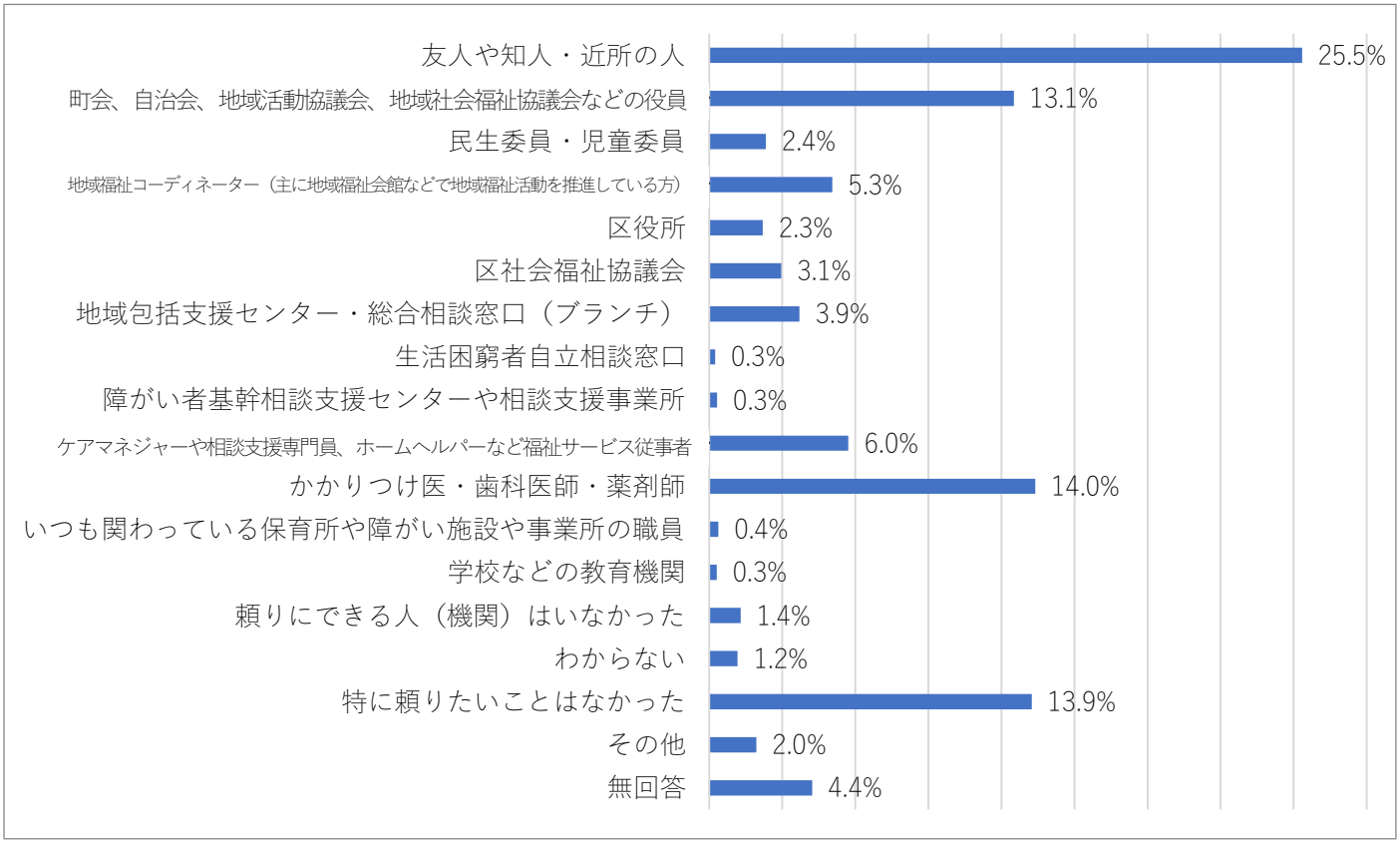
（1）緊急事態宣言下（令和２年４月７日～5 月 21 日　外出自粛期間）の生活についてお伺いします。

**問１　あなたが生活するうえで困ったこと、悩んだこと、または不安に感じていたことはどのようなことですか。（回答はいくつでも可）**



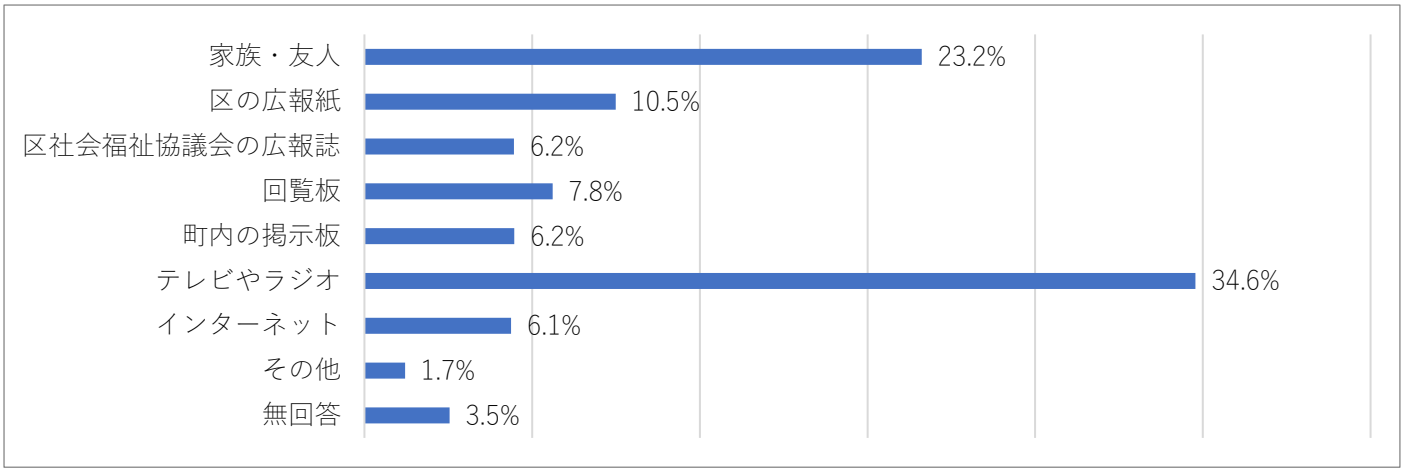

・「買い物などで外出した際の感染の恐れ」が３６.７％で最も多く、次いで「コロナ禍での体調管理について」が３０.３％であった。一方で「特に困ったこと、悩んだこと、または不安なことはなかった」が１１.２％となっている。

**問２　家族や親類以外で頼りにした人（機関）はだれですか。（回答はいくつでも可）**



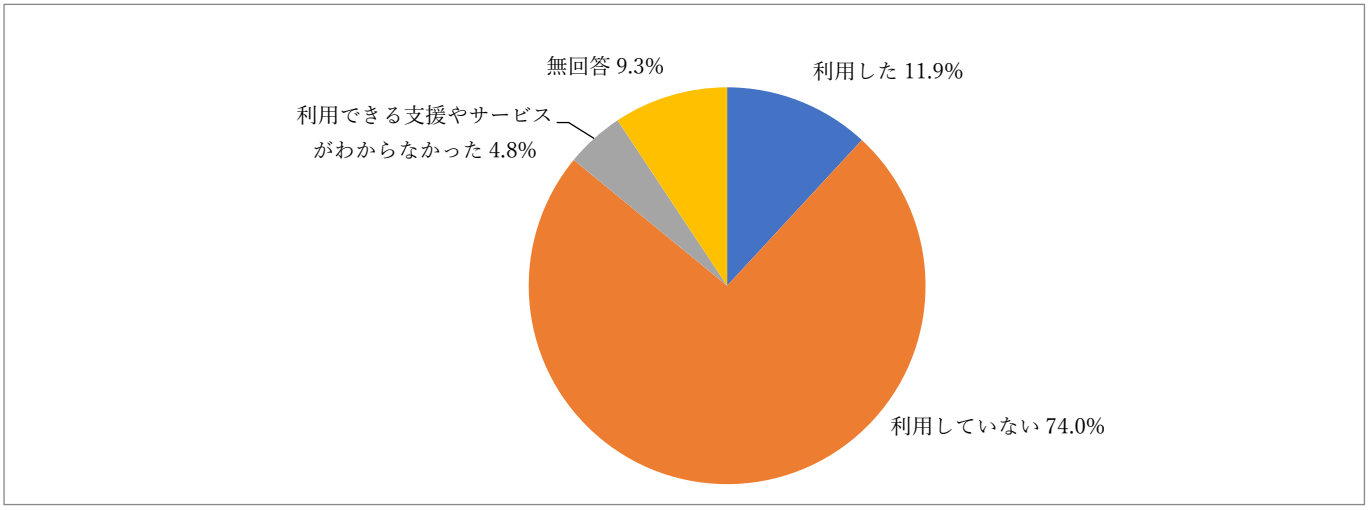

・「友人や知人・近所の人」が２５.５％で最も多く、次いで「かかりつけ医・歯科医師・薬剤師」が１４％「町会・自治会、地域活動協議会、地域社会福祉協議会などの役員」が１３.１％の順になっている。
・一方、「特に頼りたいことはなかった」の回答が約１３.９％となっている。

**問３　外出自粛期間、どのように情報収集をしましたか。（回答はいくつでも可）**



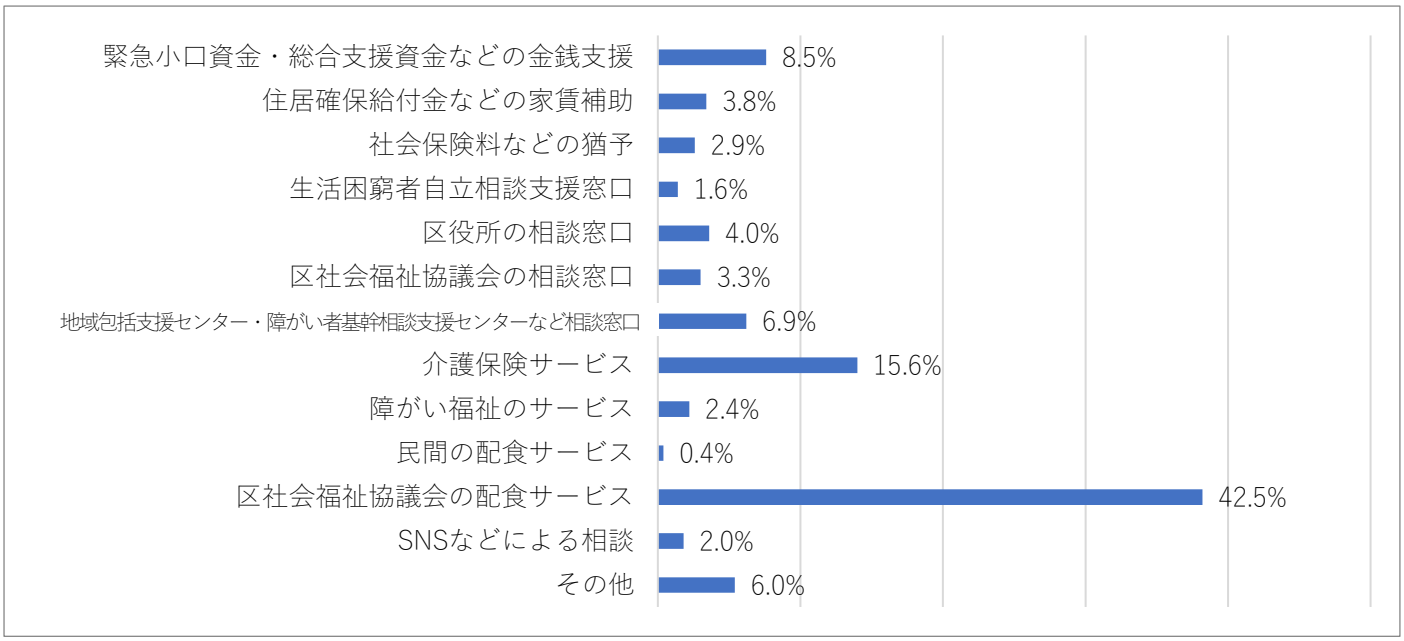

・「テレビやラジオ」が３４.６％で最も多く、次いで「家族・友人」が２３.２％、「区の広報誌」が１０.５％の順になっている。
・一方、「インターネット」の回答が６.１％となっており、本調査の回答者の７９.４％が７０歳以上であることから、高齢者には情報収集のツールとして普及していないことがわかる。

**問４　コロナ禍での困りごとに対して何か新たに支援やサービスを利用しましたか。（回答は１つ）**

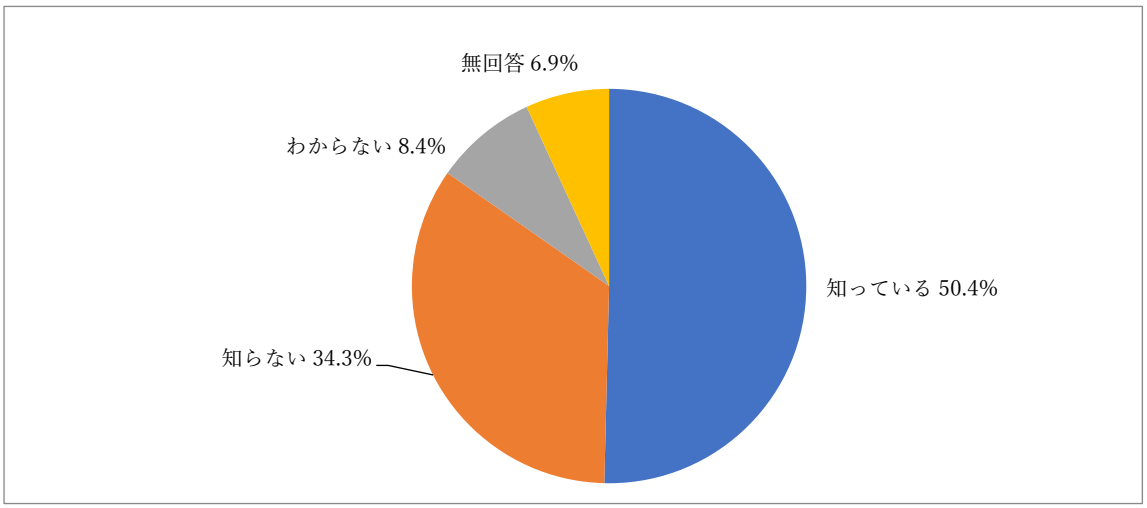



・「利用していない」が７４％となっている。一方、「利用できる支援やサービスがわからなかった」が４.８％であり、情報が届いていない。

**問５　問４で「利用した」と回答された方にお聞きします。どのようなサービスや支援を利用しましたか。（回答はいくつでも可）**



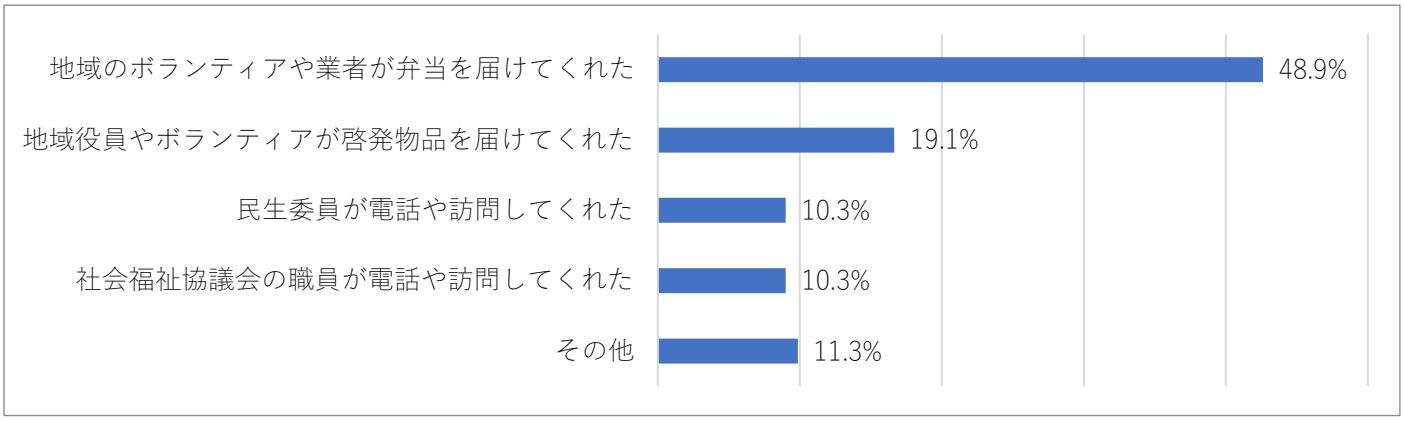

**問６　大阪市社会福祉協議会と各区社会福祉協議会が実施している「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業」を知っていますか。（回答は１つ）**




・５０.４％が「知っている」と回答。

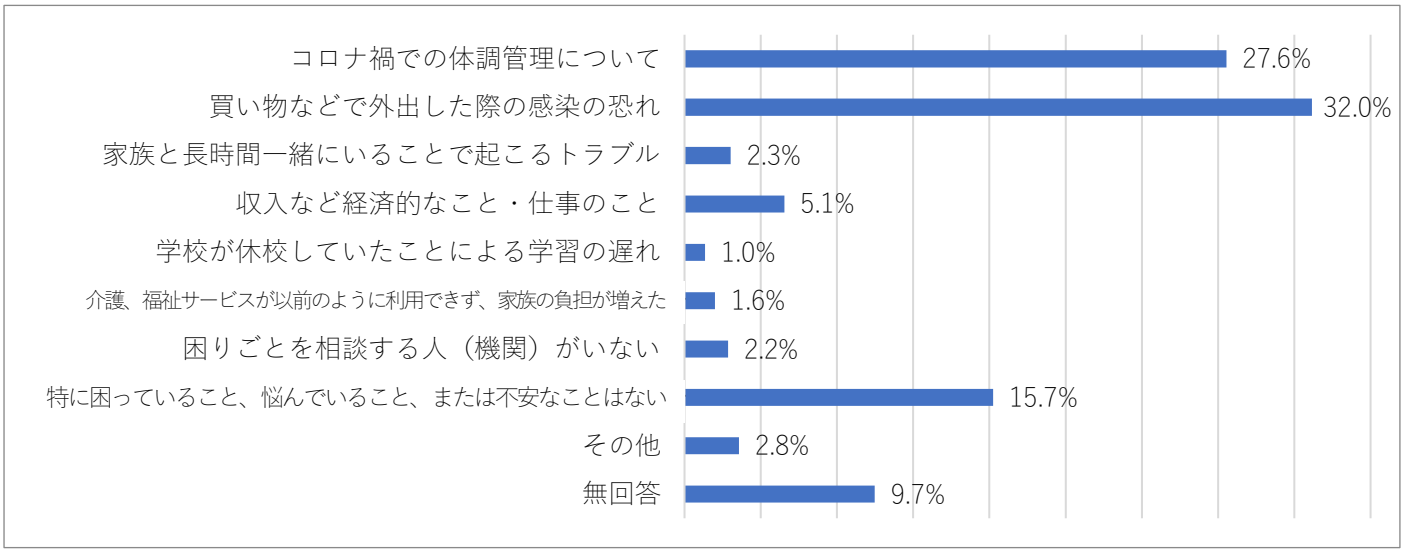
回答者の半数が、外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業を知っており、地域ボランティア等が配食や啓発物品の配付、民生委員や地域福祉コーディネーター等の安否確認の電話や見守り訪問等による、つながりづくりに係る取組みを通して知った方が多いと思われる。

**問７　問６で「知っている」と回答された方にお聞きします。この事業ではさまざまな活動者が対象者への安否確認等の活動を実施しています。ご自身が事業対象者からうれしかったこと等お聞きになった内容はありますか。（ご自身がうれしかった内容についてもご回答ください）（回答はいくつでも可）**




**（２）現在と今後の生活についてお伺いします。**

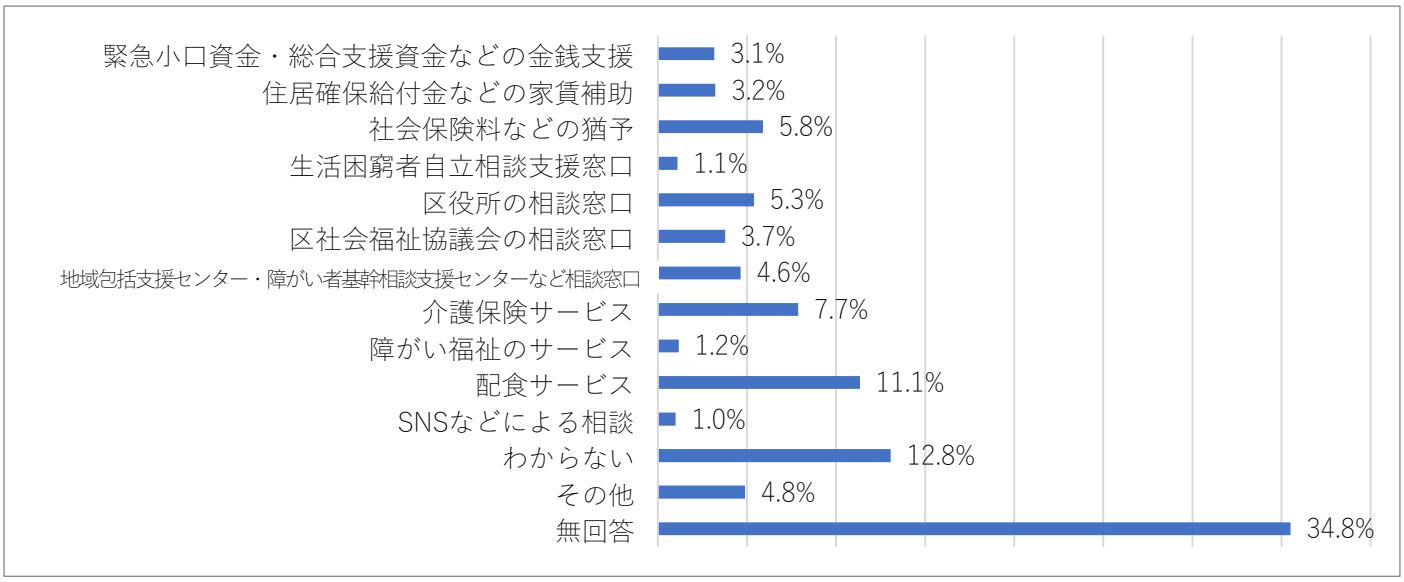
**問１　生活するうえで困っていること、悩んでいること、または不安に感じていることはどのようなことですか。（回答はいくつでも可）**



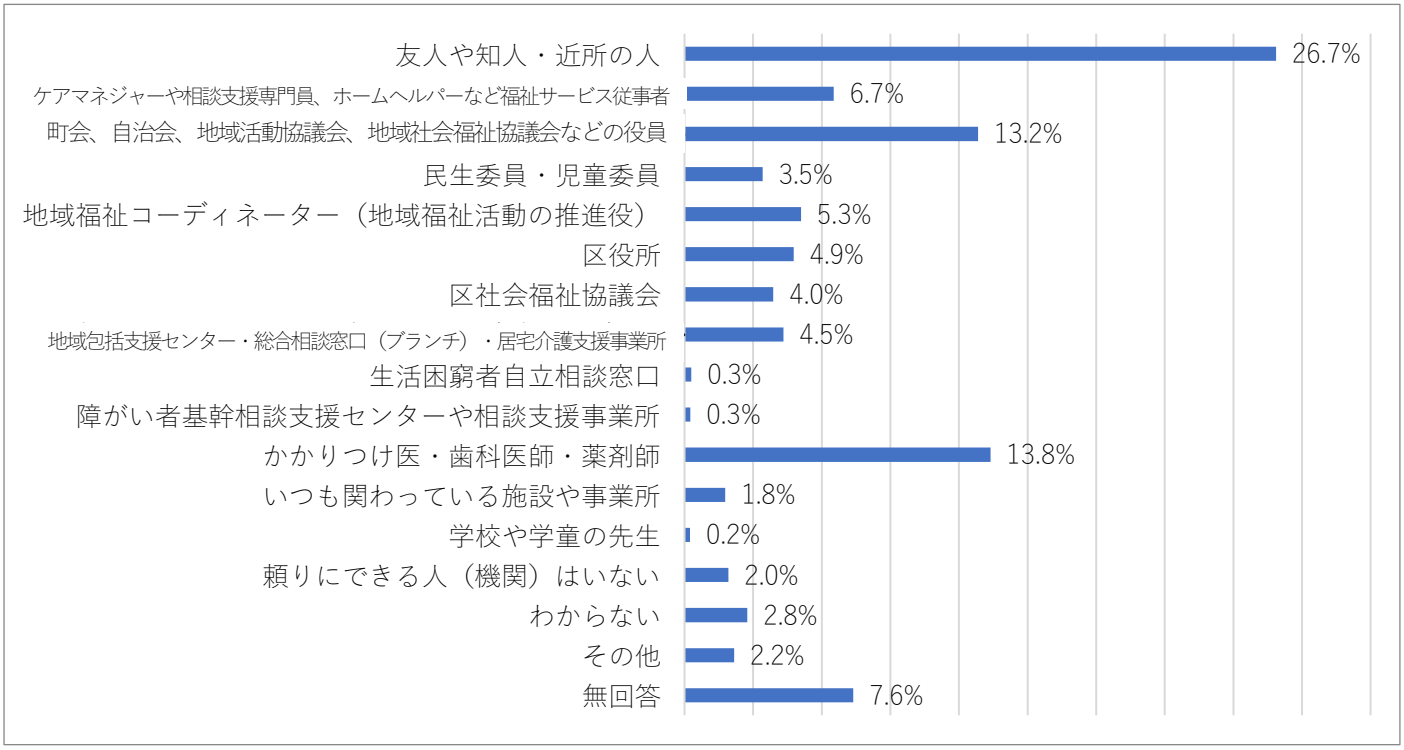

・「買い物などで外出した際の感染の恐れ」が３２％で最も多く、次いで「コロナ禍での体調管理について」が２７.６％、「特に困っていること、悩んでいること、または不安なことはない」が１５.７％となっている。

緊急事態宣言下でもほぼ同じ回答結果であり、身体面・精神面の両面のケア、また孤立を防ぐための関わりや支援が必要であると思われる。

**問２　今後、利用したい支援やサービスはありますか。（回答はいくつでも可）**



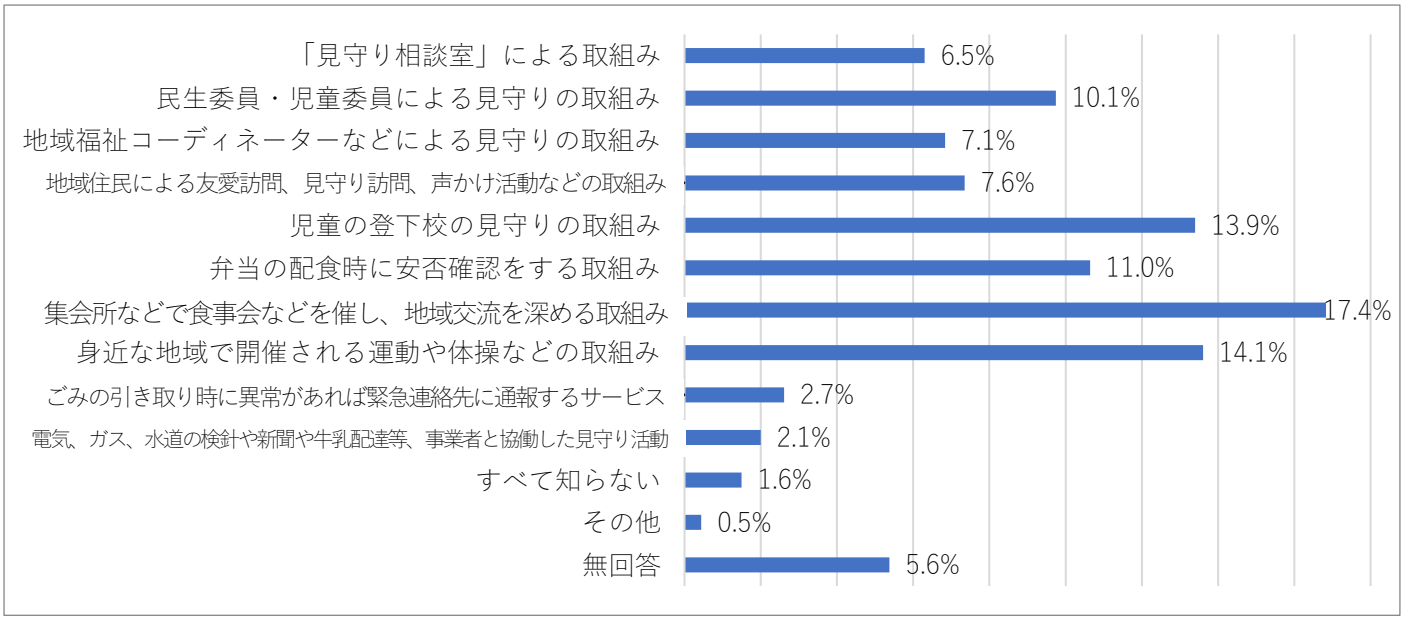

**問３　お住まいの地域で困っていること、悩んでいること、または不安なことを相談できる人（機関）はだれですか。（回答はいくつでも可）**




・「友人や知人・近所の人」が２６.７％で最も多く、次いで「かかりつけ医・歯科医師・薬剤師」が１３.８％「町会・自治会、地域活動協議会、地域社会福祉協議会などの役員」が１３.２％の順になっている。

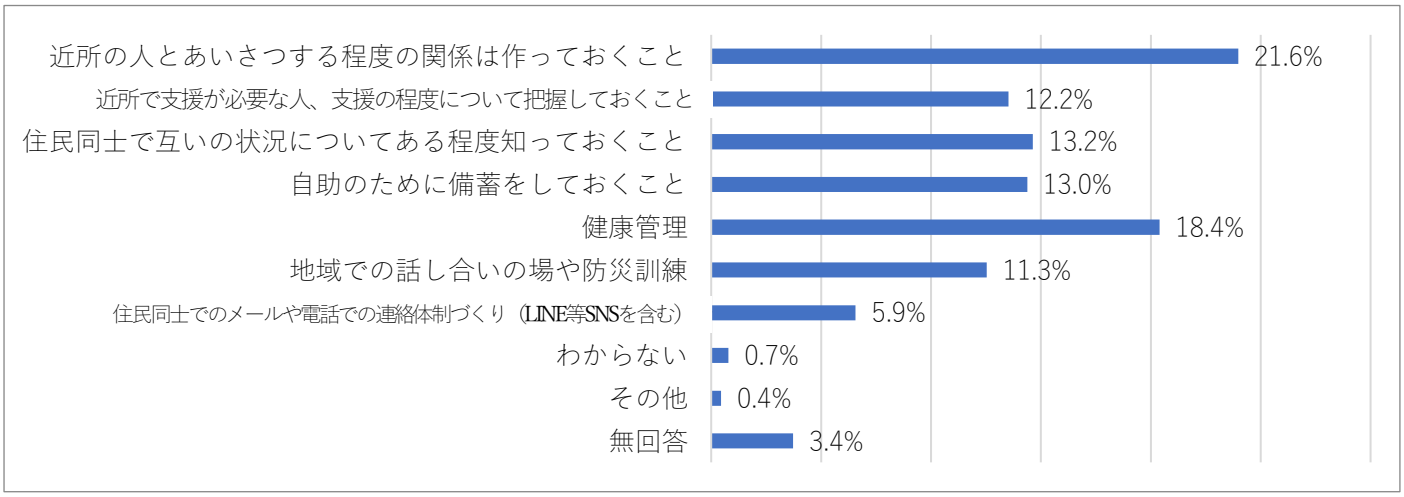
緊急事態宣言下でもほぼ同じ回答結果であり、日常的に身近で気軽に相談ができる地域のつながりづくりが重要であることがわかる。普段の暮らしの中でのつながりの大切さを、改めて感じられる結果であった。

**問４　お住まいの地域においては、様々な形で手助けが必要な人や気がかりな人を対象とした見守り活動等が行われていますが、あなたが知っている取組みはどれですか。（回答はいくつでも可）**




・「集会所などで食事会などを催し、地域交流を深める取組み」が１７.４％で最も多く、次いで「身近な地域で開催される運動や体操などの取組み」が１４.１％、「児童の登下校の見守りの取組み」が１３.９％の順になっている。
・地域での見守り活動について、集会所等での食事会や体操、登下校の見守り、民生委員や地域福祉コーディネーター等による見守り活動の認知度が高いことがわかる。

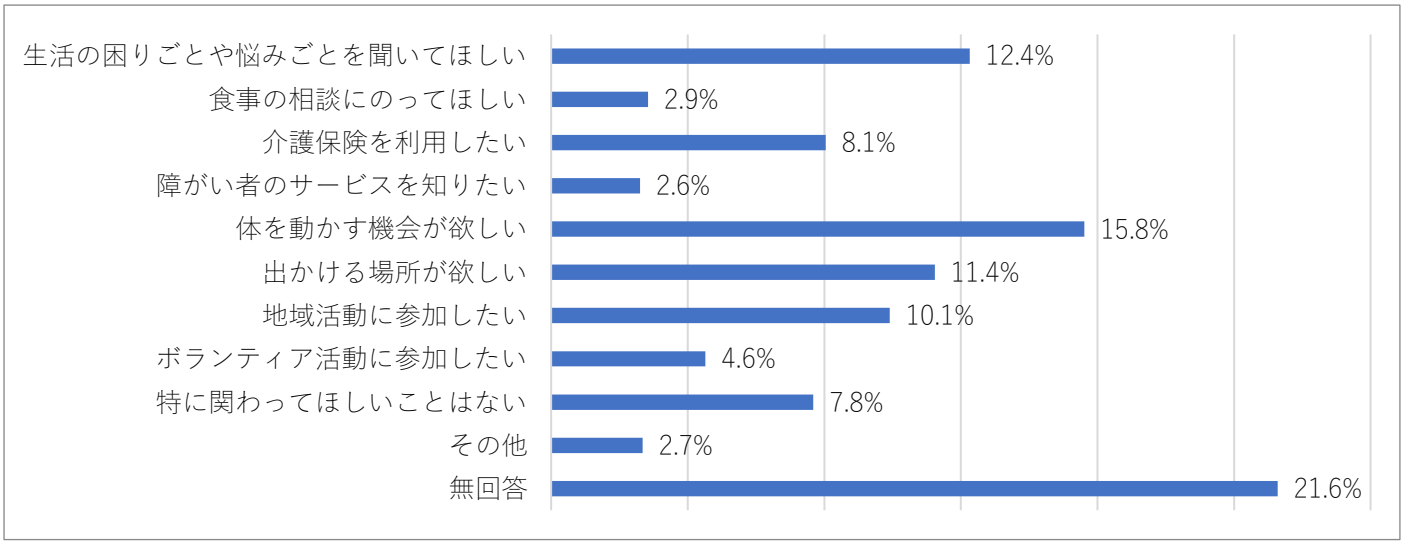
**問５　今回のような感染症や災害などで地域の住民同士で支え合いが求められる場面を想定して、普段からどのようなことが必要であると思いますか。（回答はいくつでも可）**




・「近所の人とあいさつする程度の関係は作っておくこと」が２１.６％で最も多く、次いで「健康管理」が１８.４％「住民同士で互いの状況についてある程度知っておくこと」が１３.２％の順になっている。

今回のような感染症、災害時等に備え、普段から住民同士のつながりが必要と感じている人が約５０％を占めており、地域での住民同士のつながりの場や活動等は大切であると思われる。

**問６　今後、皆さんがお住いの区の社会福祉協議会に関わってほしいことはどんなことですか。**
**（回答はいくつでも可）**




・「体を動かす機会が欲しい」が１５.８％最も多く、次いで「生活の困りごとや悩みごとを聞いてほしい」が１２.４％で、介護予防の場や、社協が気軽に相談できる存在であることを知ってもらうことも必要であることがわかる。

# 住民対象（無作為）

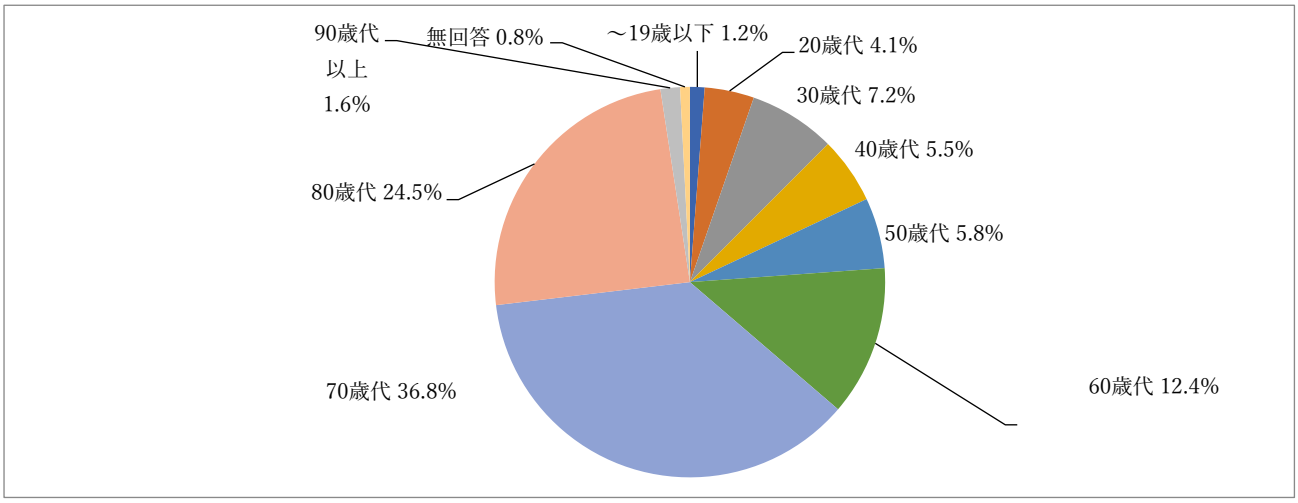
# 調査結果集計

あなたご自身のことについてお伺いします。

【回答者の属性】

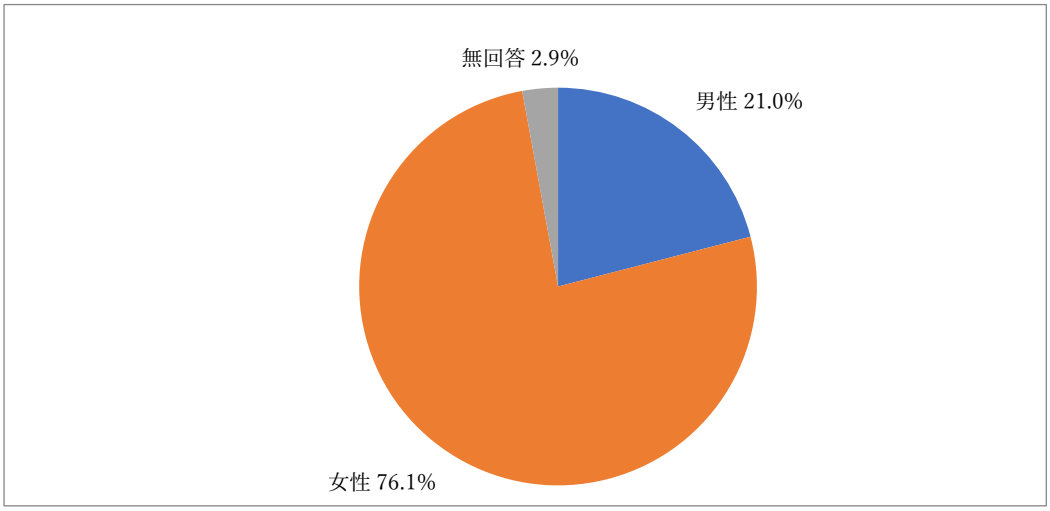
| 職業 | ～19歳以下 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代 | 90歳代以上 | 無回答 | 回答人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学生 | 17 | 26 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 44 |
| 会社員・団体職員・公務員 | 0 | 10 | 35 | 24 | 15 | 21 | 12 | 3 | 0 | 1 | 121 |
| 自営業 | 0 | 1 | 0 | 2 | 9 | 17 | 27 | 10 | 1 | 0 | 67 |
| パート・アルバイト等 | 0 | 2 | 13 | 24 | 35 | 49 | 27 | 3 | 1 | 0 | 154 |
| 専業主婦・主夫 | 0 | 19 | 54 | 24 | 15 | 44 | 213 | 98 | 2 | 3 | 472 |
| 無職 | 0 | 1 | 1 | 2 | 4 | 46 | 235 | 219 | 20 | 0 | 528 |
| その他 | 1 | 2 | 1 | 5 | 5 | 4 | 13 | 11 | 0 | 0 | 42 |
| 無回答 | 0 | 0 | 2 | 1 | 4 | 4 | 21 | 20 | 0 | 8 | 60 |
| | | | | | | | | | | | |
| 合　計 | 18 | 61 | 107 | 82 | 87 | 185 | 548 | 364 | 24 | 12 | 1488 |

## １．年齢（回答は１つ）




・回答者の年代では、「７０歳代」が３６.８％、「８０歳代」が２４.５％、「６０歳代」が１２.４％となっている。
・７０歳以上が全体の６２.９％となっており、住民対象（事業対象者向け）と比較して若い世代の回答が多い。

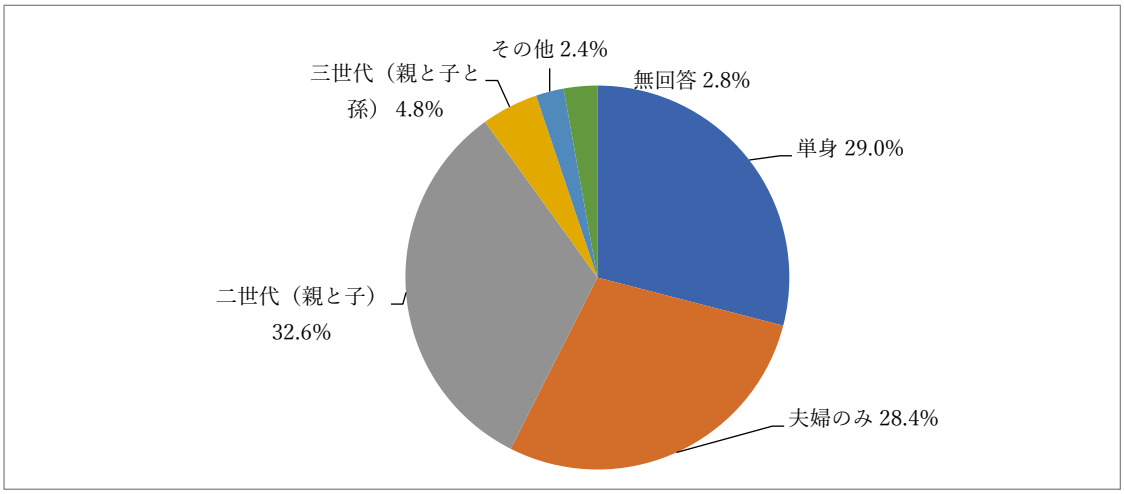
## ２．性別（回答は１つ）



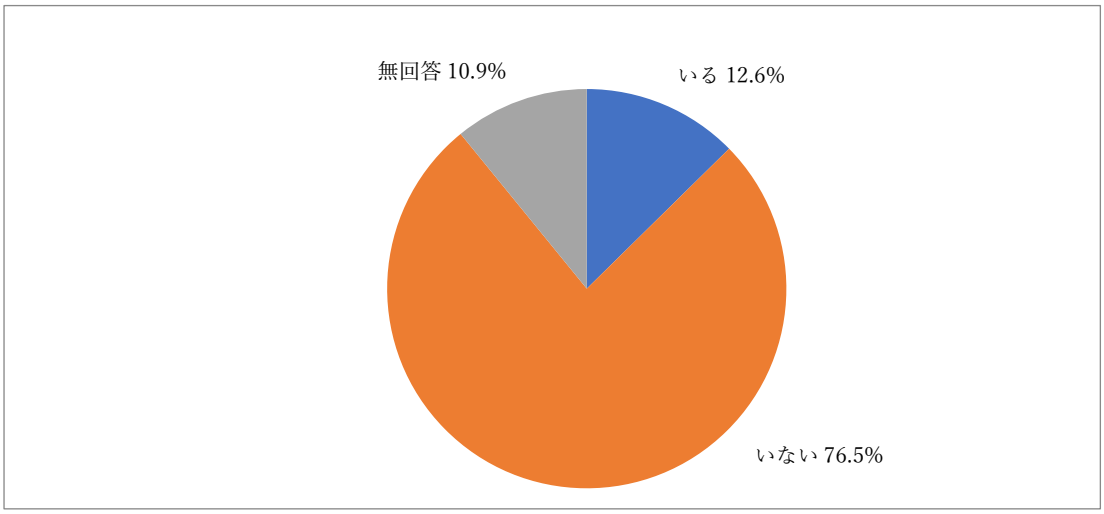
## 3．お住いの区（回答は１つ）

| お住いの区 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 北 | 51 | 3% | 東淀川 | 86 | 6% |
| 都島 | 43 | 3% | 東成 | 49 | 3% |
| 福島 | 67 | 5% | 生野 | 36 | 2% |
| 此花 | 66 | 4% | 旭 | 66 | 4% |
| 中央 | 35 | 2% | 城東 | 17 | 1% |
| 西 | 76 | 5% | 鶴見 | 73 | 5% |
| 港 | 20 | 1% | 阿倍野 | 67 | 5% |
| 大正 | 73 | 5% | 住之江 | 92 | 6% |
| 天王子 | 80 | 5% | 住吉 | 68 | 5% |
| 浪速 | 85 | 6% | 東住吉 | 23 | 2% |
| 西淀川 | 67 | 5% | 平野区 | 73 | 5% |
| 淀川 | 75 | 5% | 西成 | 45 | 3% |
| | | | 無回答 | 55 | 4% |

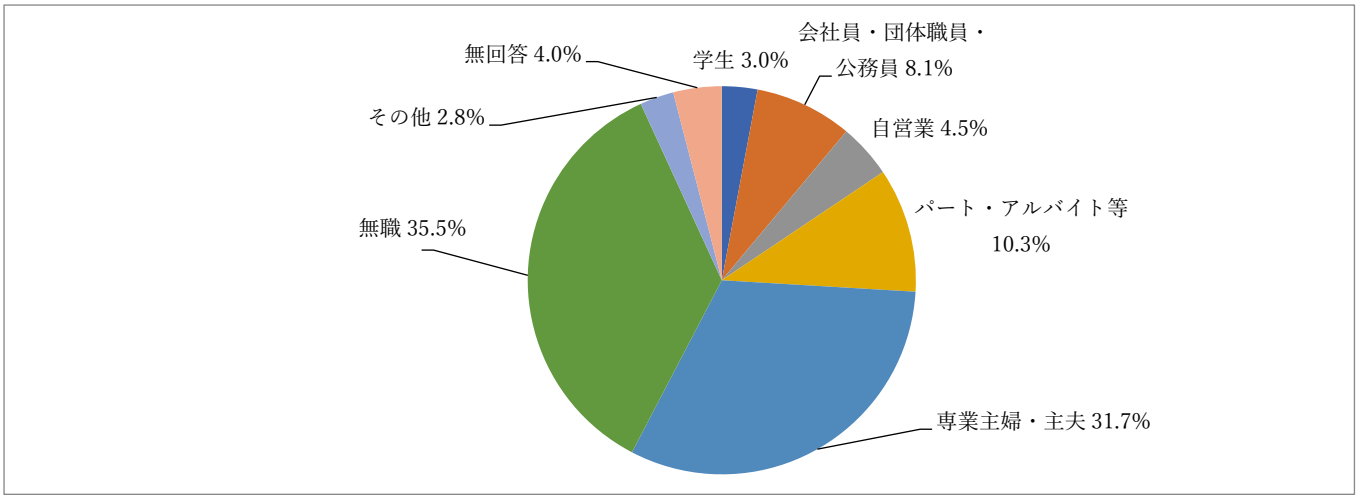
## 4．世帯（回答は１つ）

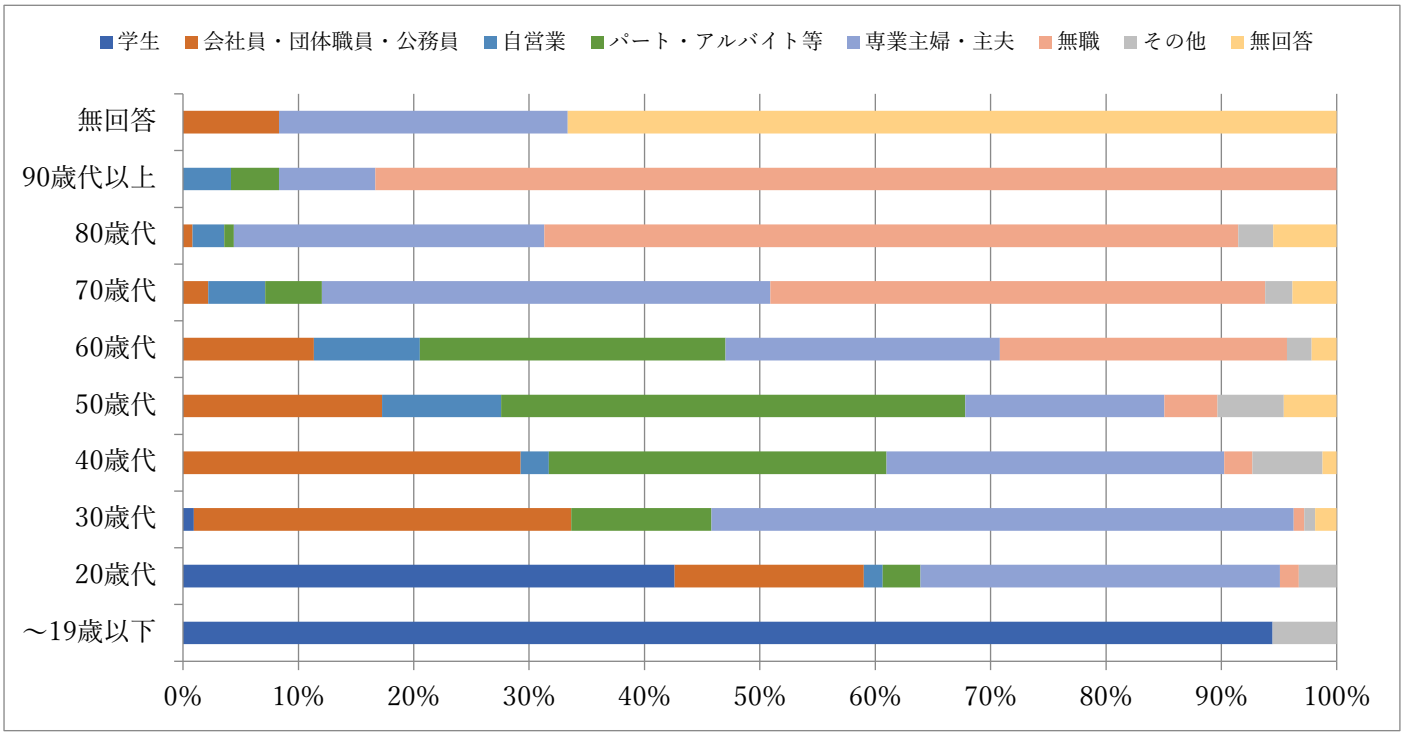



## 5．ご家族の中に日常生活で手助けが必要な方はおられますか（回答は１つ）



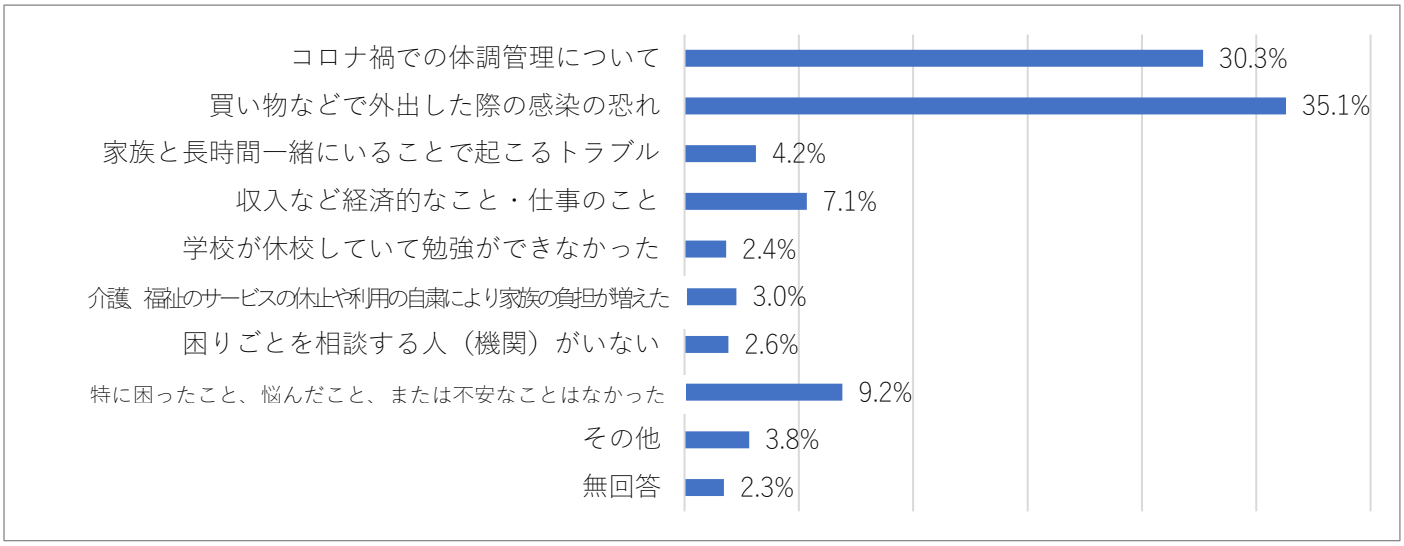
## ６．職業（回答は１つ）


会社員・団体職員・公務員 8.1%
自営業 4.5%
パート・アルバイト等 10.3%
専業主婦・主夫 31.7%
無職 35.5%
その他 2.8%
無回答 4.0%
学生 3.0%


学生
会社員・団体職員・公務員
自営業
パート・アルバイト等
専業主婦・主夫
無職
その他
無回答
無回答
90歳代以上
80歳代
70歳代
60歳代
50歳代
40歳代
30歳代
20歳代
～19歳以下
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%

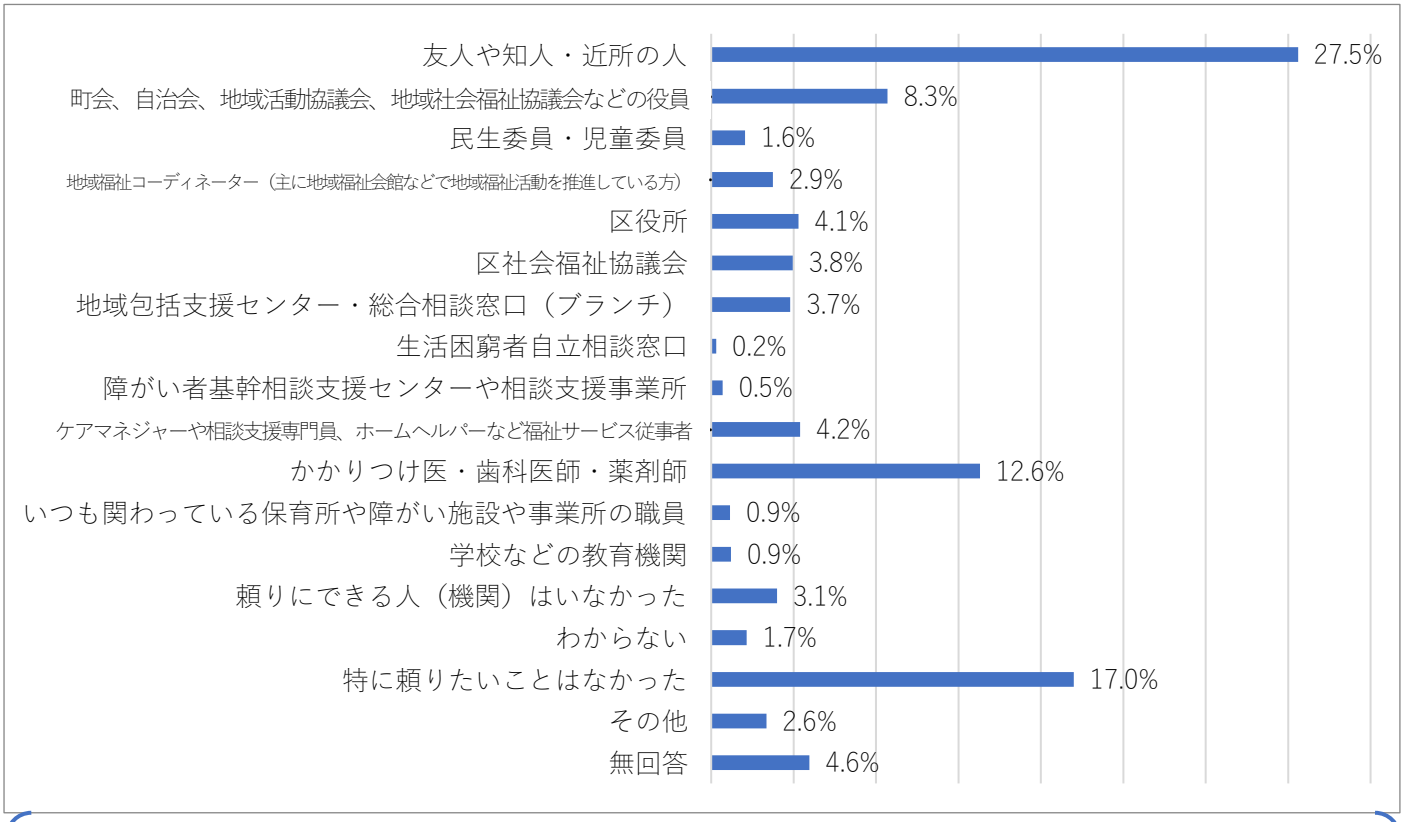
（1）緊急事態宣言下（令和２年４月７日～5 月 21 日　外出自粛期間）の生活についてお伺いします。

**問１　あなたが生活するうえで困ったこと、悩んだこと、または不安に感じていたことはどのようなことですか。（回答はいくつでも可）**



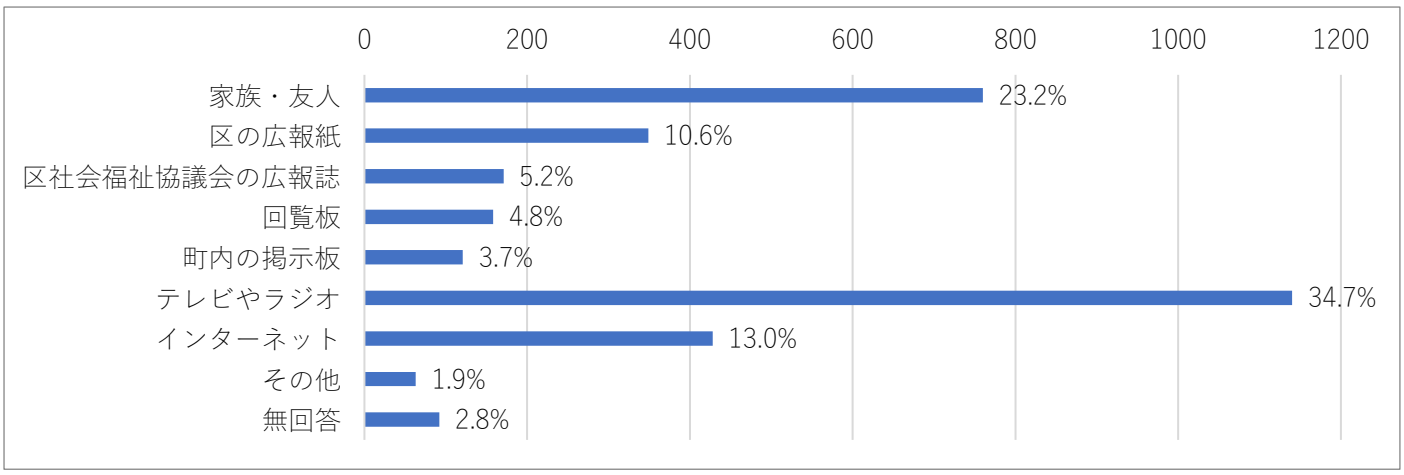

・「買い物などで外出した際の感染の恐れ」が３５.１％で最も多く、次いで「コロナ禍での体調管理について」が３０.３％であった。一方で「特に困ったこと、悩んだこと、または不安なことはなかった」が９.２％となっている。

**問２　家族や親類以外で頼りにした人（機関）はだれですか。（回答はいくつでも可）**




・「友人や知人・近所の人」が２７.５％で最も多く、次いで「かかりつけ医・歯科医師・薬剤師」が１２.６％「町会・自治会、地域活動協議会、地域社会福祉協議会などの役員」が８.３％の順になっている。
・一方、「特に頼りたいことはなかった」の回答が約１７％になっている。

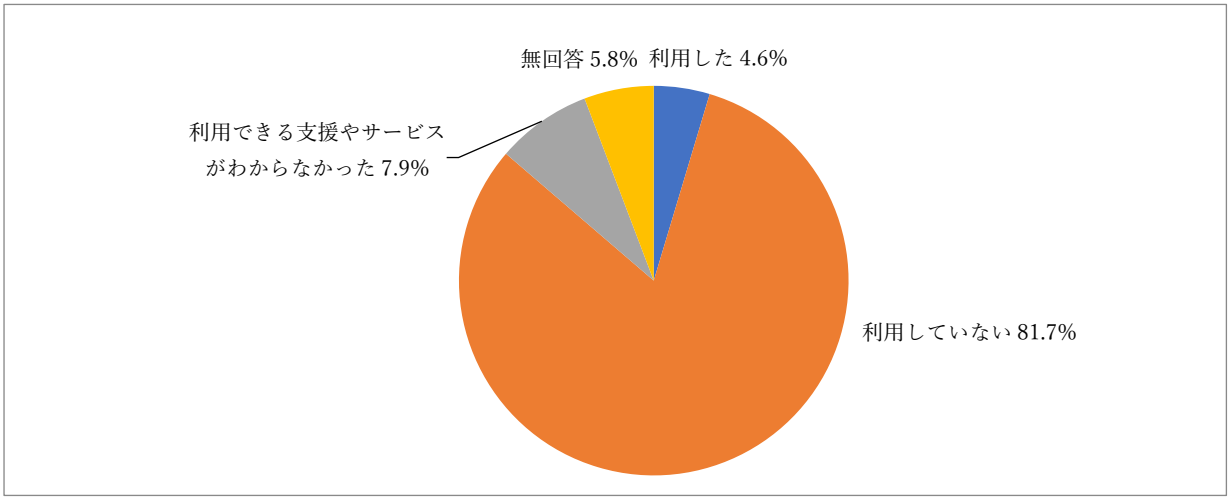
**問３　外出自粛期間、どのように情報収集をしましたか。（回答はいくつでも可）**




・「テレビやラジオ」が３４.７％で最も多く、次いで「家族・友人」が２３.２％、「インターネット」が１３％の順になっている。

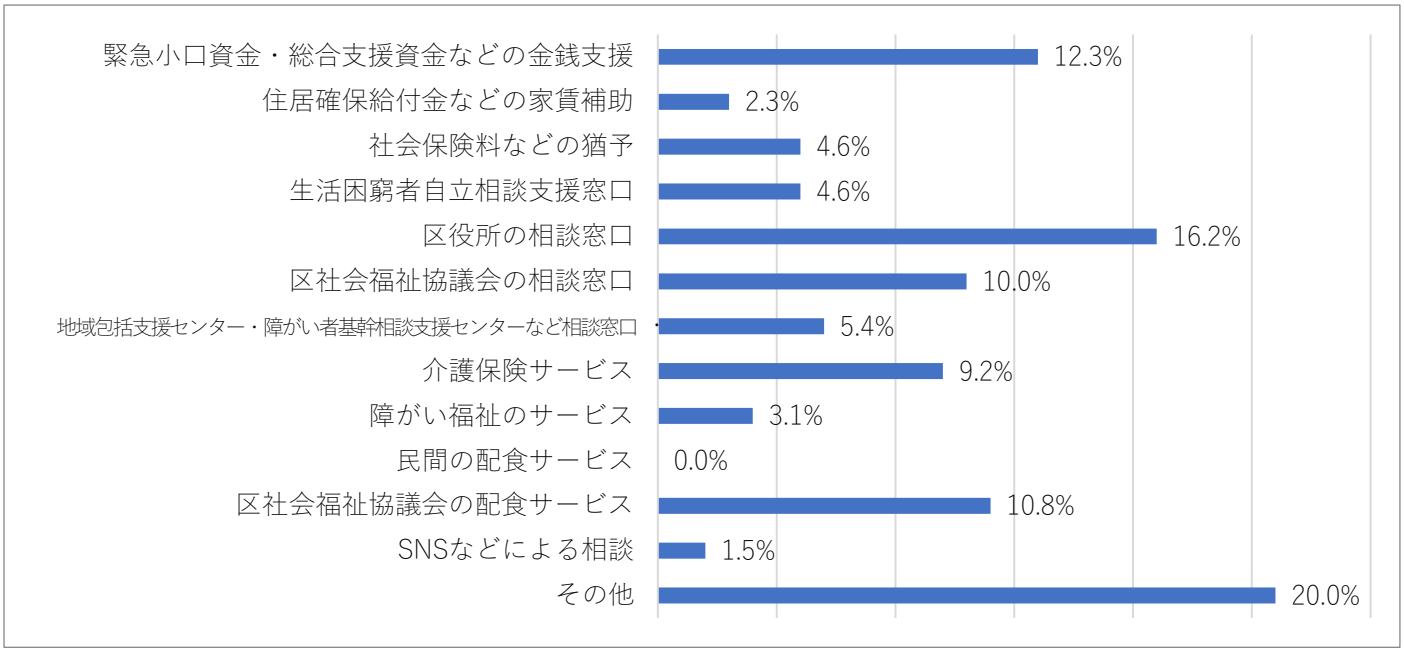
住民対象（事業対象者向け）の調査結果と比較してインターネットの利用率が高く、掲示板や回覧板の利用率が低くなっている。若い世代の回答が住民対象（事業対象者向け）と比較して多かったことが理由として考えられ、幅広く各世代へ伝えていくためには、紙媒体のものからインターネット、ＳＮＳ等、さまざまな媒体を活用して情報発信をしていく必要がある。

**問４　コロナ禍での困りごとに対して何か新たに支援やサービスを利用しましたか。（回答は１つ）**

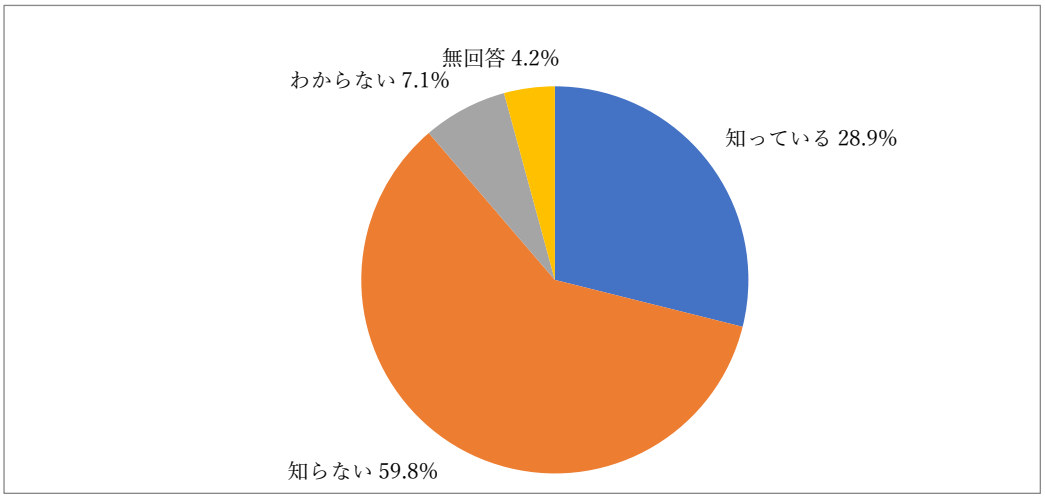



・「利用していない」が８１.７％となっている。一方、「利用できる支援やサービスがわからなかった」が７.９％であり、情報が届いていない。

**問５　問４で「利用した」と回答された方にお聞きします。どのようなサービスや支援を利用しましたか。（回答はいくつでも可）**



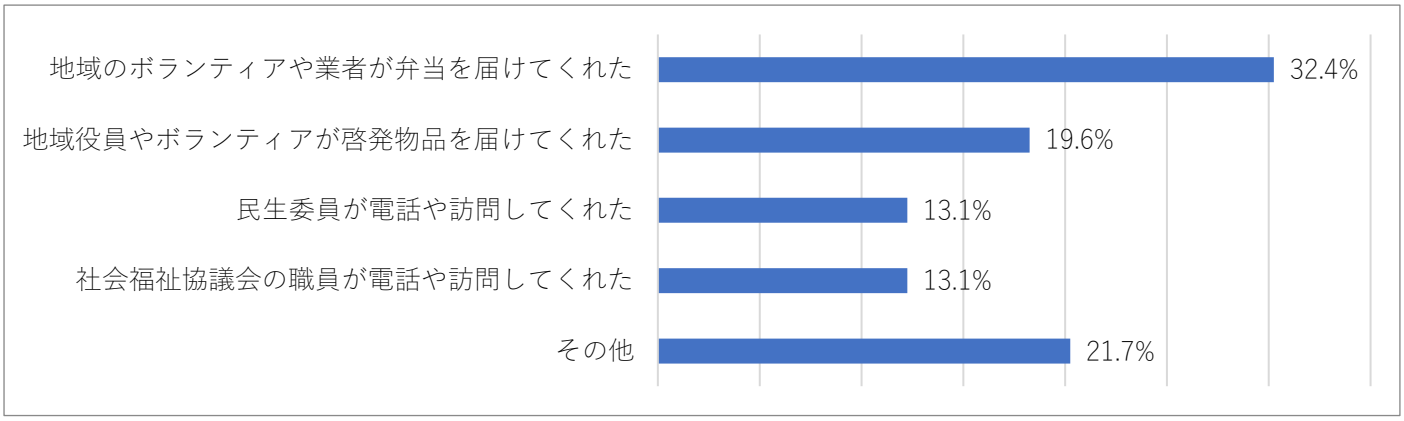

**問６　大阪市社会福祉協議会と各区社会福祉協議会が実施している「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業」を知っていますか。（回答は１つ）**




・「知っている」の回答は２８.９％である一方、「知らない」の回答が５９.８％となっている。

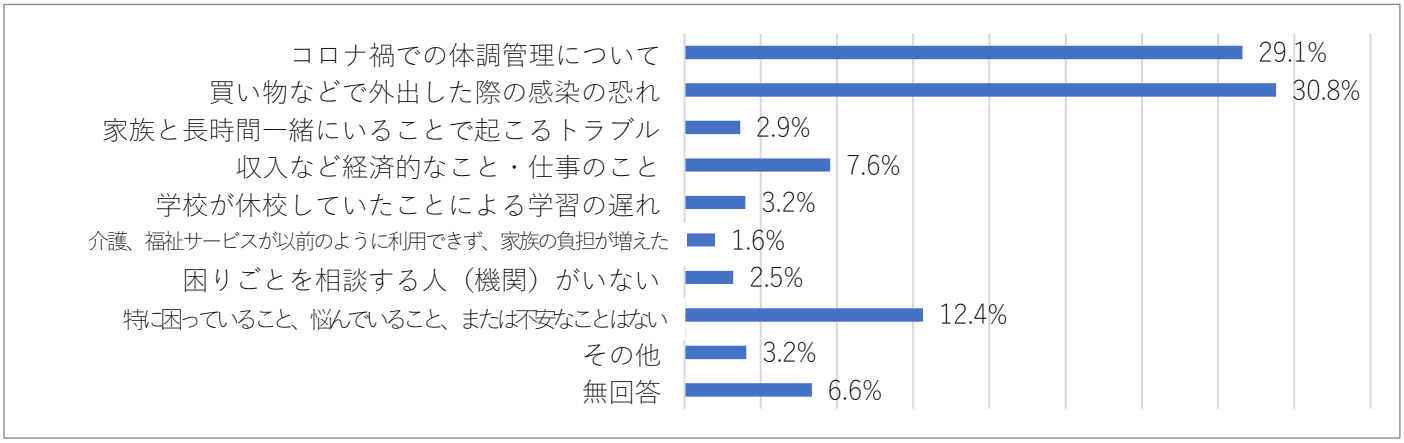
住民対象（事業対象者向け）では、「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業」を知っていると答えた方が５０.４％であったのに対し、本調査では２８.９％となっている。この調査においては、本事業に関わりのなかった方の回答が多いことがわかる。

**問７　問６で「知っている」と回答された方にお聞きします。この事業ではさまざまな活動者が対象者への安否確認等の活動を実施しています。ご自身が事業対象者からうれしかったこと等お聞きになった内容はありますか。（ご自身がうれしかった内容についてもご回答ください）（回答はいくつでも可）**




**（２）現在と今後の生活についてお伺いします。**

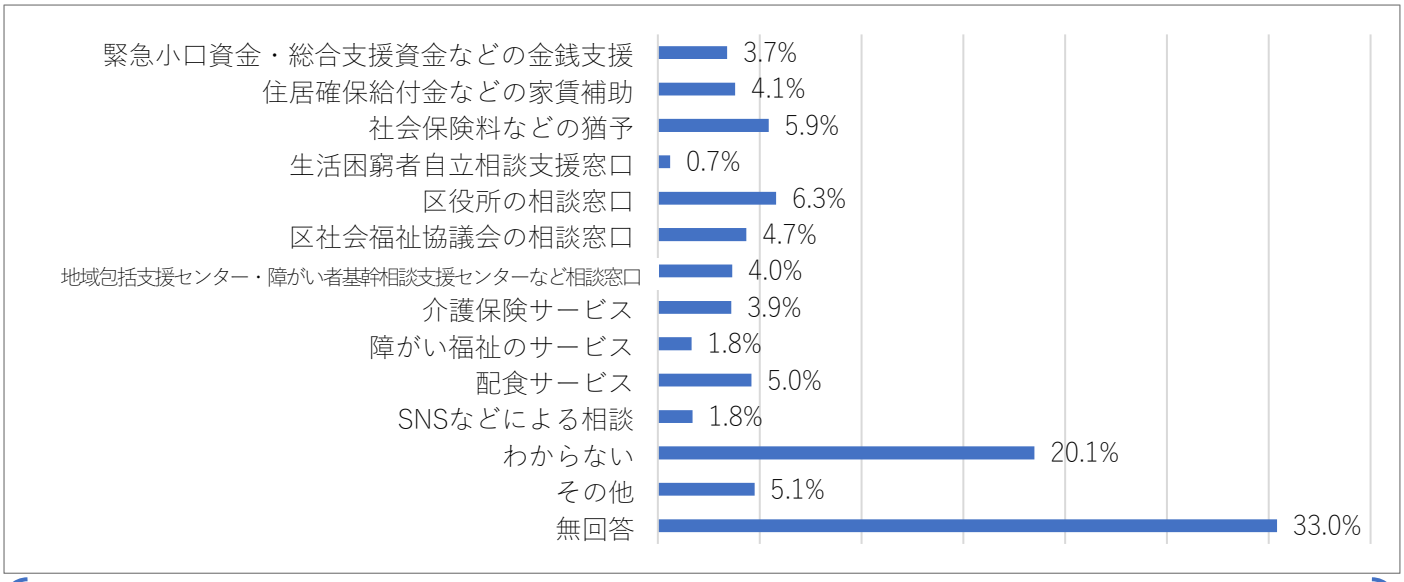
**問１　生活するうえで困っていること、悩んでいること、または不安に感じていることはどのようなことですか。（回答はいくつでも可）**




・「買い物などで外出した際の感染の恐れ」が３０.８％で最も多く、次いで「コロナ禍での体調管理について」が２９.１％、「特に困っていること、悩んでいること、または不安なことはない」が１２.４％となっている。

緊急事態宣言下では「学校が休校していて勉強ができなかった」が２.４％であったが、現在・今後では、「学校が休校していたことによる学習の遅れ」が３.２％となっており、学校休校による学習面の不安が増していることがうかがえる。

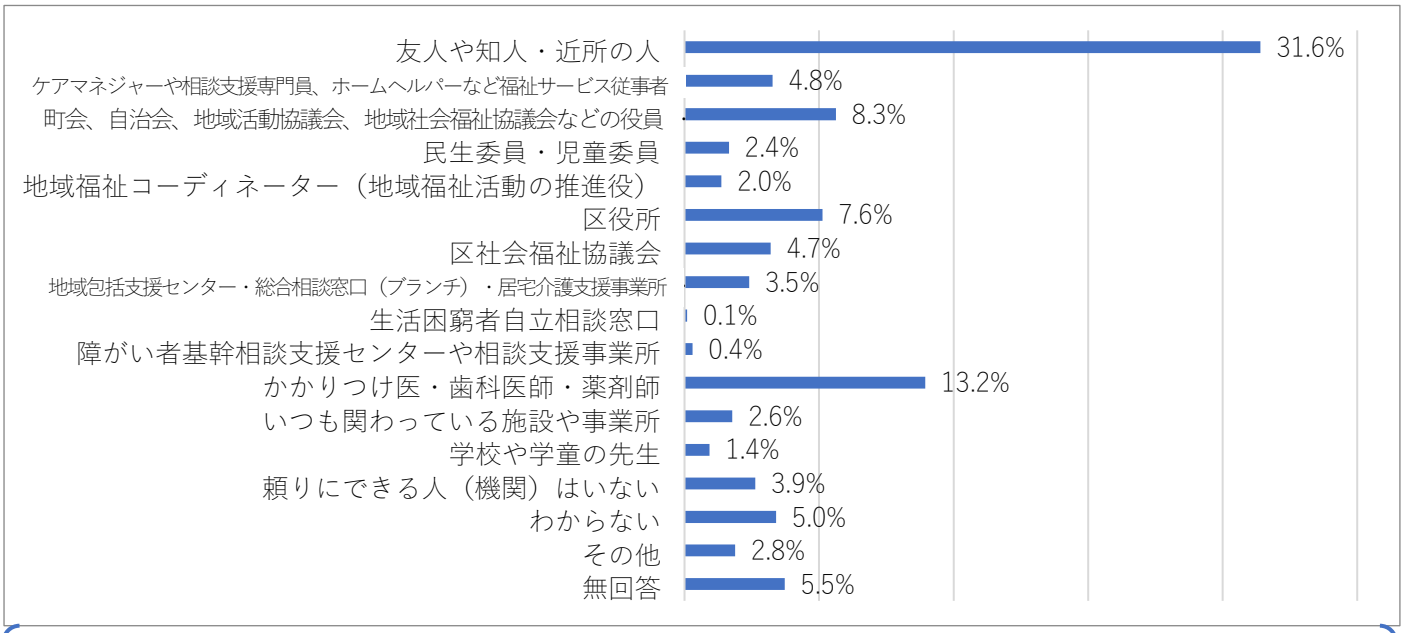
**問２　今後、利用したい支援やサービスはありますか。（回答はいくつでも可）**




・「わからない」「無回答」が５３.１％となっている。
・利用したいサービスについては、「区役所の相談窓口」が６.３％で最も多く、次いで「社会保険料などの猶予」が５.９％「配食サービス」が５％の順になっている。

利用した支援やサービス及び今後利用したい支援やサービスについて、「区役所の相談窓口」の回答が最も多かったことから、行政からの情報提供やアプローチを、希望または期待していることがうかがえる。

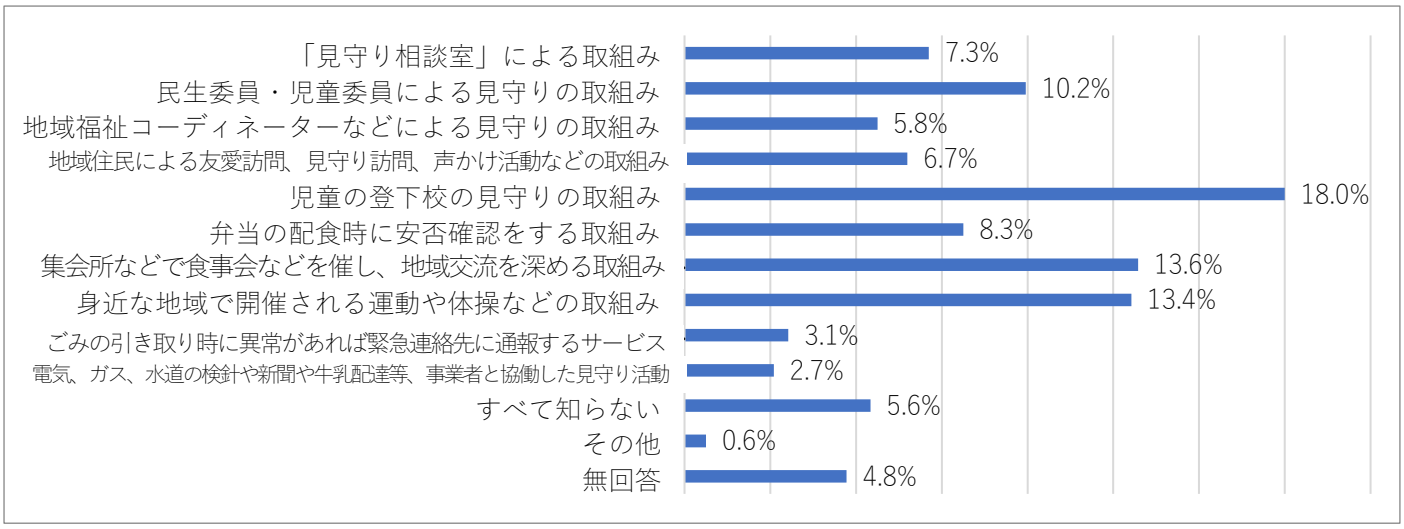
**問３　お住まいの地域で困っていること、悩んでいること、または不安なことを相談できる人（機関）はだれですか。（回答はいくつでも可）**




・「友人や知人・近所の人」が３１.６％で最も多く、次いで「かかりつけ医・歯科医師・薬剤師」が１３.２％「町会・自治会、地域活動協議会、地域社会福祉協議会などの役員」が８.３％の順になっている。

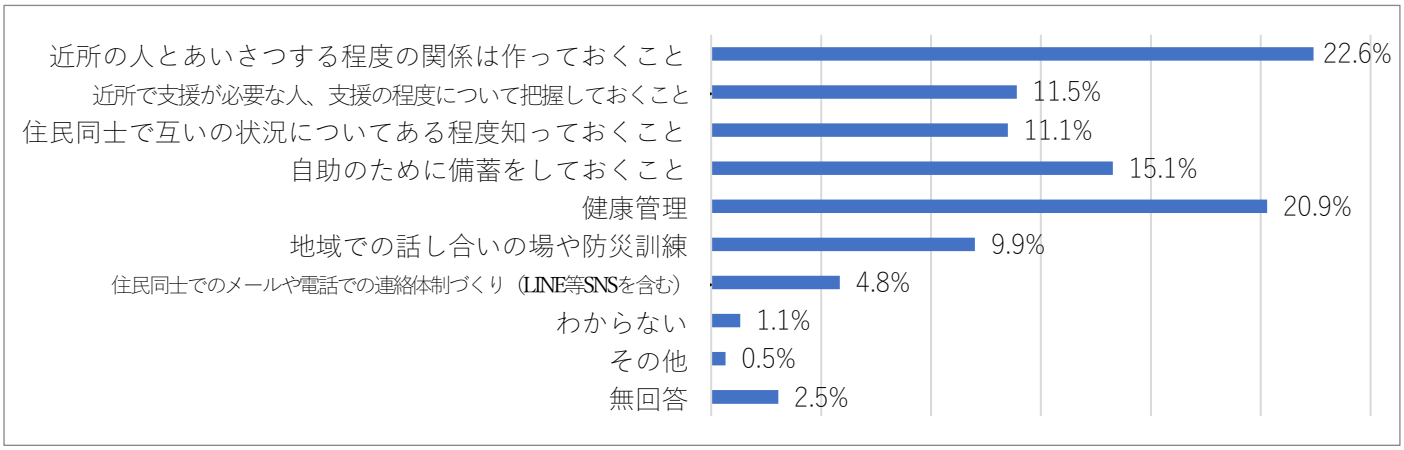
緊急事態宣言下でもほぼ同じ回答結果であり、住民対象（事業対象者向け）と比較しても同様であった。
回答結果から、普段の暮らしの中でのつながりの大切さを、改めて感じられた。

**問４　お住まいの地域においては、様々な形で手助けが必要な人や気がかりな人を対象とした見守り活動等が行われていますが、あなたが知っている取組みはどれですか。（回答はいくつでも可）**



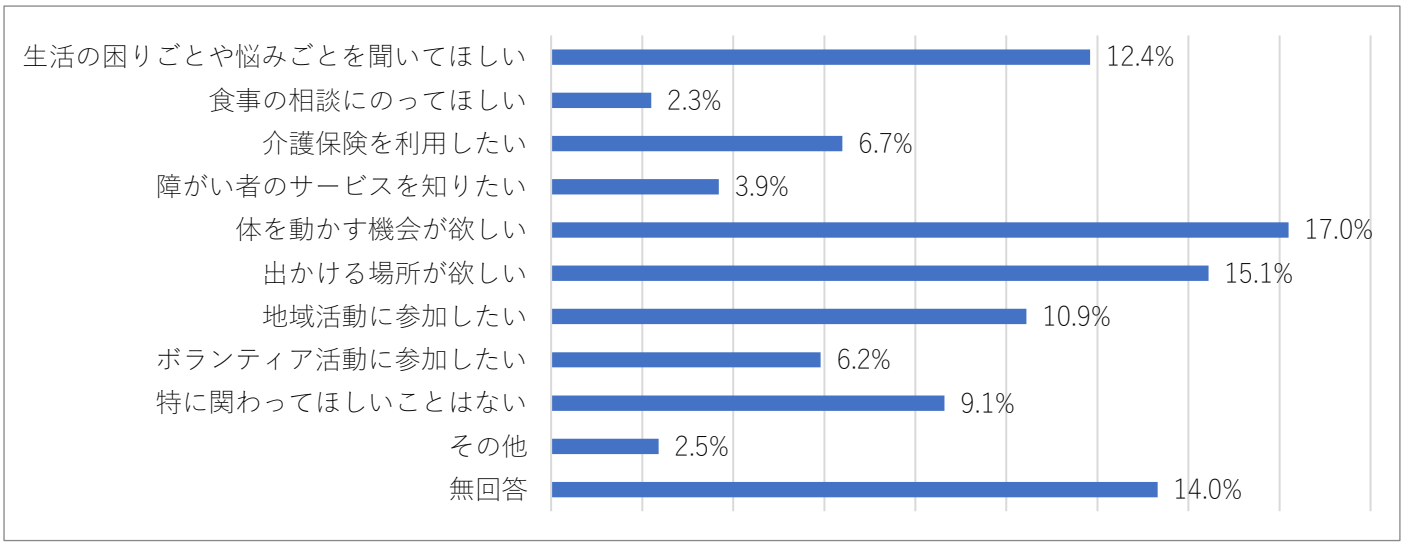

・「児童の登下校の見守りの取組み」が１８％で最も多く、次いで「集会所などで食事会などを催し、地域交流を深める取組み」が１３.６％、「身近な地域で開催される運動や体操などの取組み」が１３.４％の順になっている。

**問５　今回のような感染症や災害などで地域の住民同士で支え合いが求められる場面を想定して、普段からどのようなことが必要であると思いますか。（回答はいくつでも可）**




・「近所の人とあいさつする程度の関係は作っておくこと」が２２.６％で最も多く、次いで「健康管理」が２０.９％「自助のために備蓄をしておくこと」が１５.１％の順になっている。

**問６　今後、皆さんがお住いの区の社会福祉協議会に関わってほしいことはどんなことですか。**
**（回答はいくつでも可）**




・「体を動かす機会が欲しい」が１７％で最も多く、次いで「出かける場所が欲しい」が１５.１％、「生活の困りごとや悩みごとを聞いてほしい」が１２.４％の順になっている。

今後、社会福祉協議会に関わってほしいことについて、健康の維持や孤立への不安解消のためにも、運動や外出の機会の需要が高いことがわかった。介護予防、サロンや居場所の再開に向け、新しい生活様式を踏まえた取組み支援が必要である。

# 小学生対象

# 調査結果集計

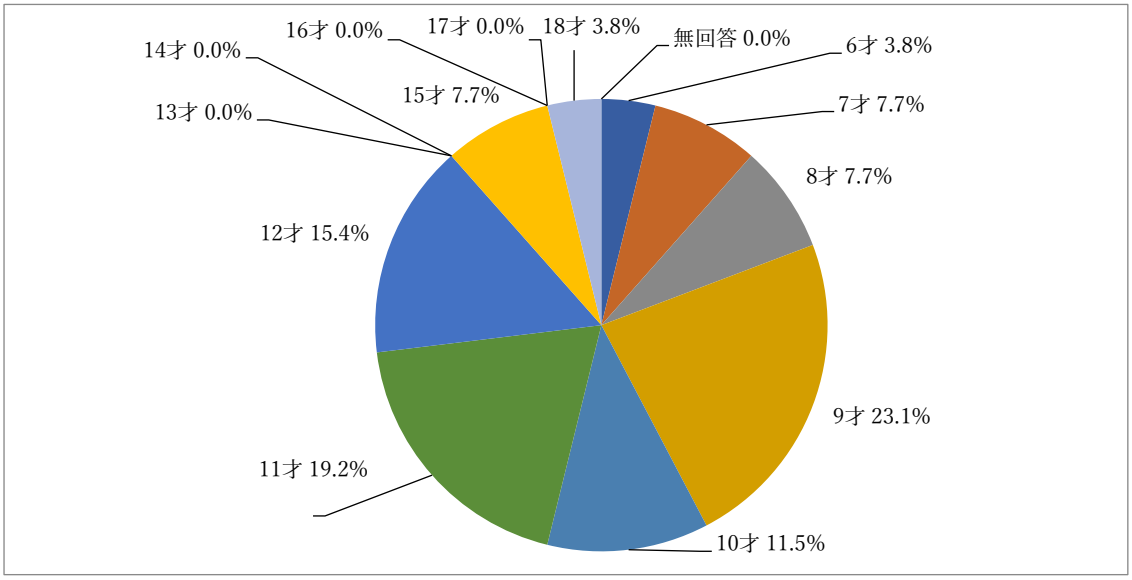
あなたについて教えてください

【回答者の属性】

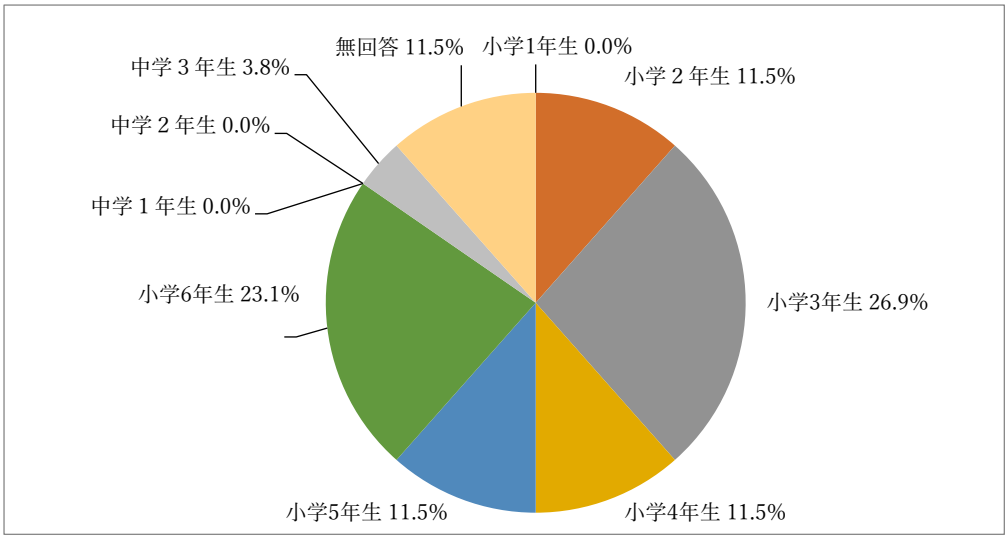
| 同居人 | お父さん | お母さん | おじいさん | おばあさん | 兄弟姉妹 | その他 | 無回答 | 回答人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 6才 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 1 |
| 7才 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 8才 | 1 | 2 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| 9才 | 4 | 6 | 1 | 1 | 6 | 0 | 0 | 6 |
| 10才 | 3 | 3 | 1 | 1 | 3 | 0 | 0 | 3 |
| 11才 | 4 | 5 | 0 | 1 | 4 | 0 | 0 | 5 |
| 12才 | 2 | 3 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 4 |
| 13才 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 14才 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 15才 | 1 | 2 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| 16才 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 17才 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 18才 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 無回答 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | | | | | | | | |
| 合計 | 17 | 25 | 2 | 3 | 22 | 2 | 0 | 26 |

1．何才ですか？（回答は１つ）

【年齢】

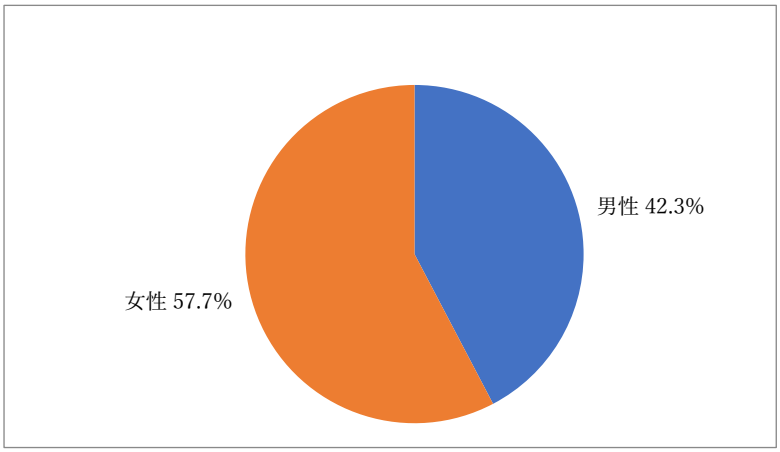


【学年】




※「こども食堂を利用しているこどもたち」を対象に調査したため、小学生以上の回答も含んでいる。

２．性別は？（回答は１つ）

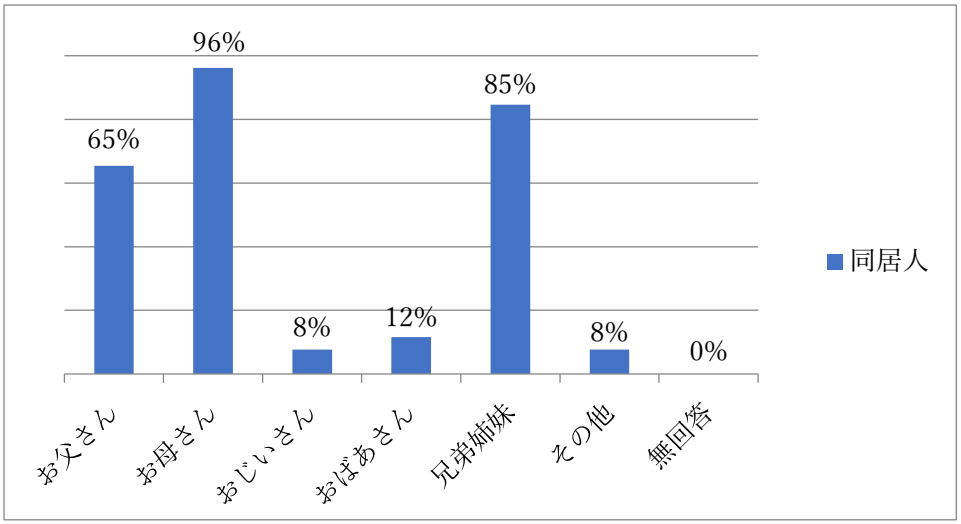



３．何区に住んでいますか？

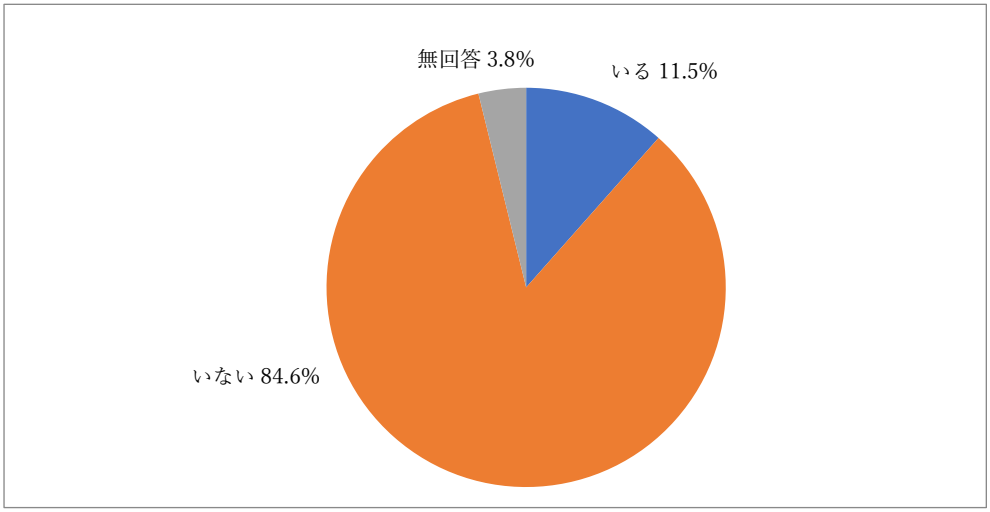
| お住いの区 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 北 | 0 | 0% | 東淀川 | 0 | 0% |
| 都島 | 0 | 0% | 東成 | 2 | 8% |
| 福島 | 1 | 4% | 生野 | 4 | 15% |
| 此花 | 2 | 8% | 旭 | 2 | 8% |
| 中央 | 0 | 0% | 城東 | 0 | 0% |
| 西 | 0 | 0% | 鶴見 | 6 | 23% |
| 港 | 0 | 0% | 阿倍野 | 1 | 4% |
| 大正 | 0 | 0% | 住之江 | 0 | 0% |
| 天王子 | 0 | 0% | 住吉 | 3 | 12% |
| 浪速 | 1 | 4% | 東住吉 | 0 | 0% |
| 西淀川 | 2 | 8% | 平野区 | 0 | 0% |
| 淀川 | 0 | 0% | 西成 | 2 | 8% |
| | | | 無回答 | 0 | 0% |

※調査当時に活動を再開していたこども食堂から回答を得ているため回答区に偏りがある。

4．誰と一緒に住んでいますか？（回答はいくつでも可）

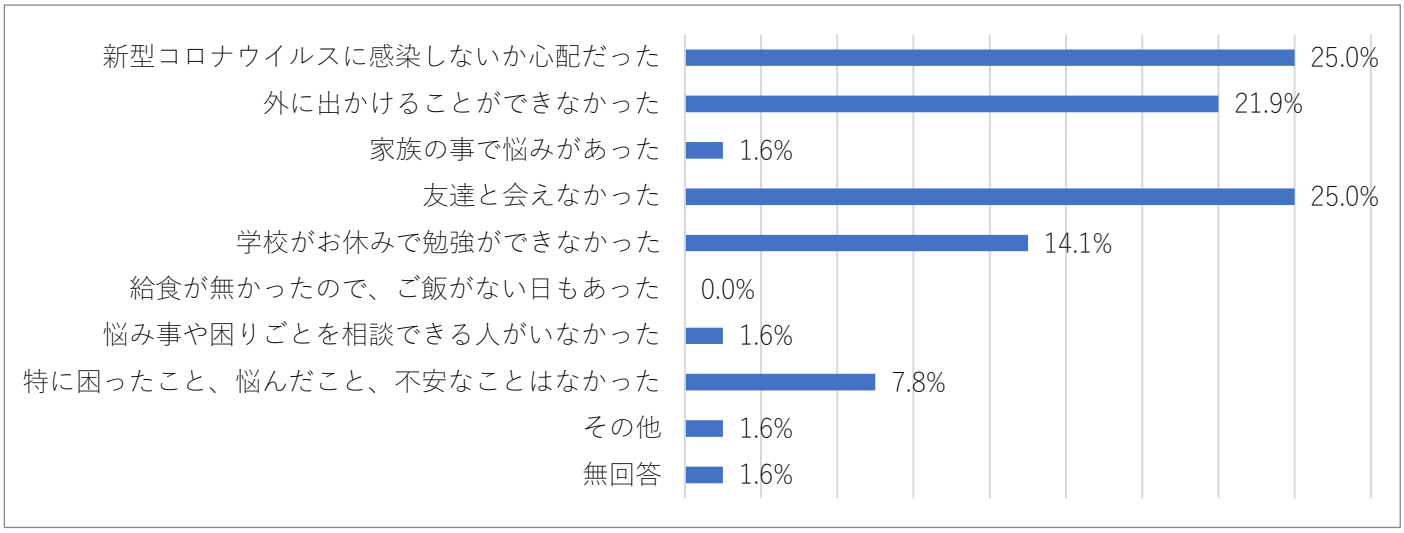



5．誰かの手助けが必要な家族はいますか？（回答は１つ）

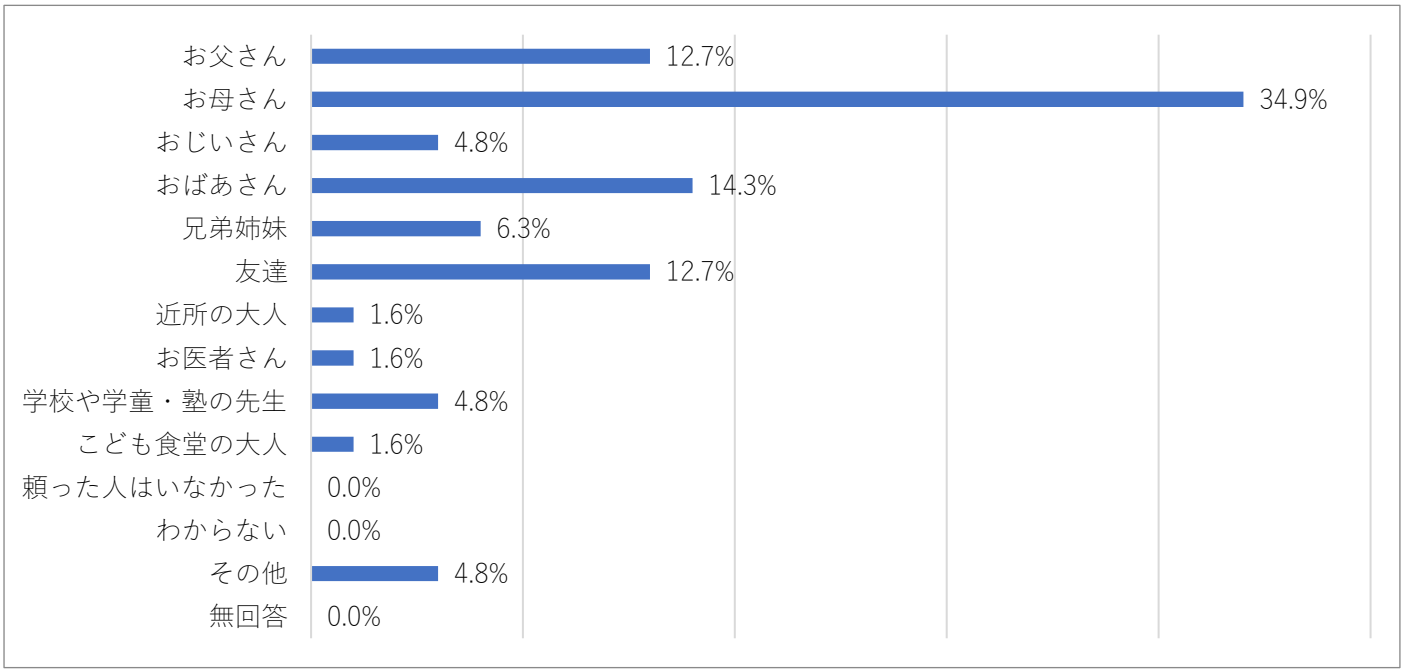


（1）令和２年４月７日から５月21日までの外出をひかえていた間の生活について教えてください。

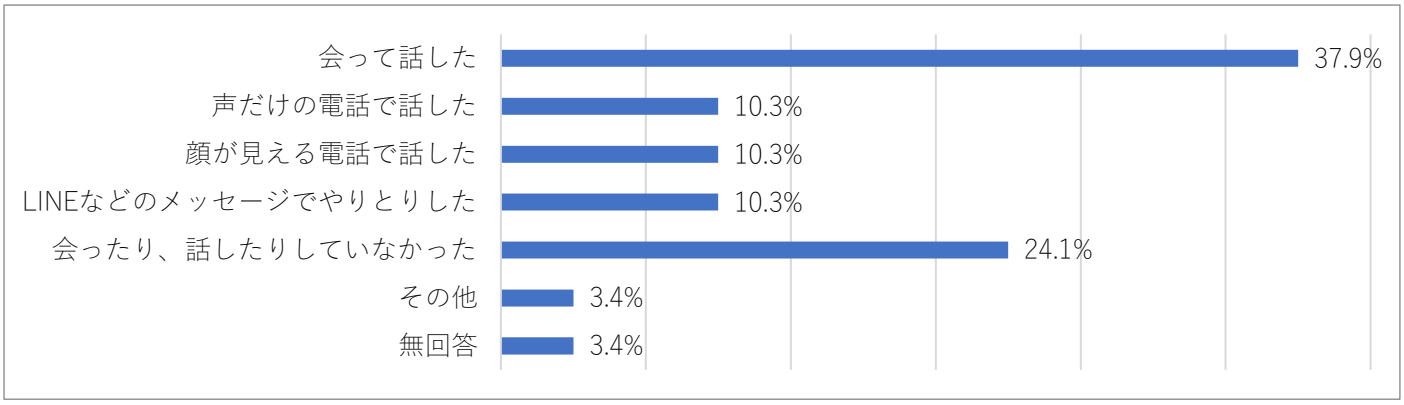
**問１　困ったこと悩んだこと不安に感じたことは何ですか？（回答はいくつでも可）**




**問２　困ったことがあった時に頼ったのは誰ですか？（回答はいくつでも可）**

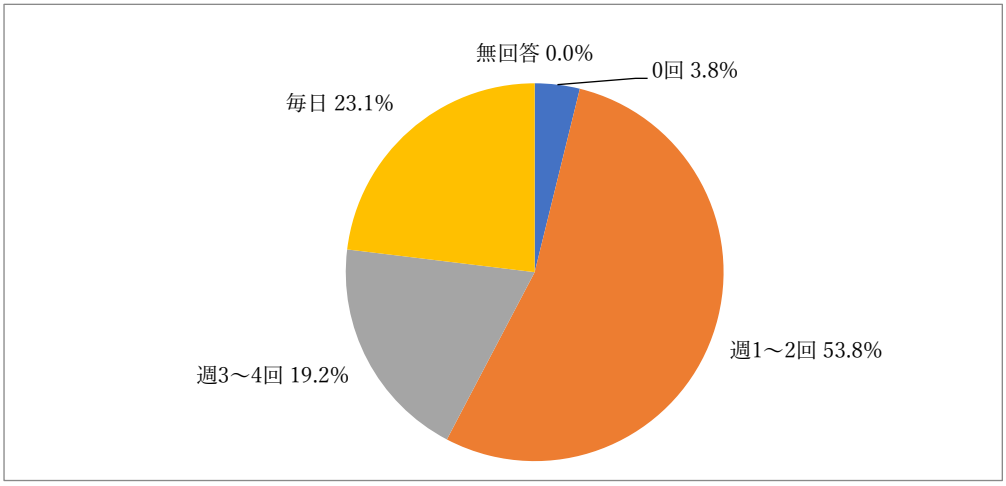


**問３　友だちとはどのように連絡をとっていましたか？（回答はいくつでも可）**

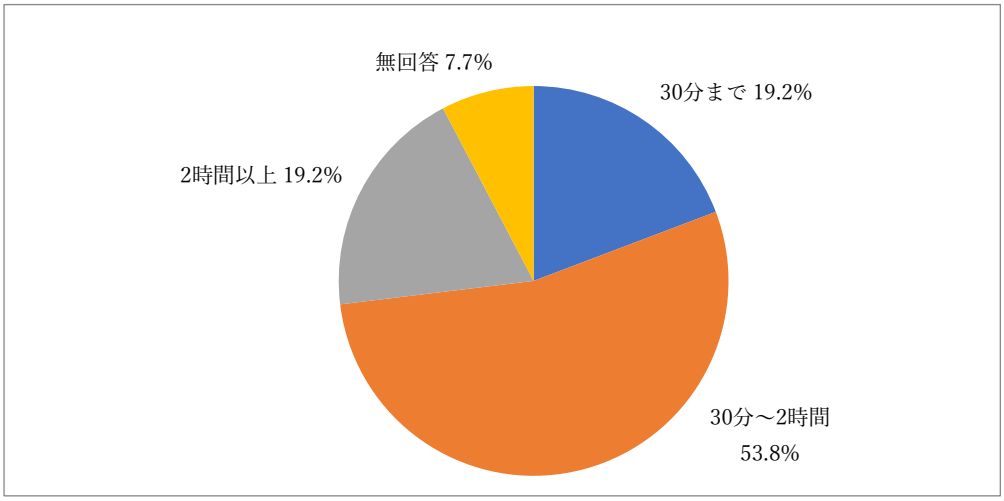



・友達との連絡手段について、「会って話した」が３７.９％、電話や LINE などの通信手段の使用が３０.９％となっているが、「会ったり、話したりしていなかった」が２４.１％いることから、４人に一人は緊急事態宣言下に友達とのつながりが絶たれていたことがわかる。

**問４　どのくらい家の外に出ましたか？（回答は１つ）**

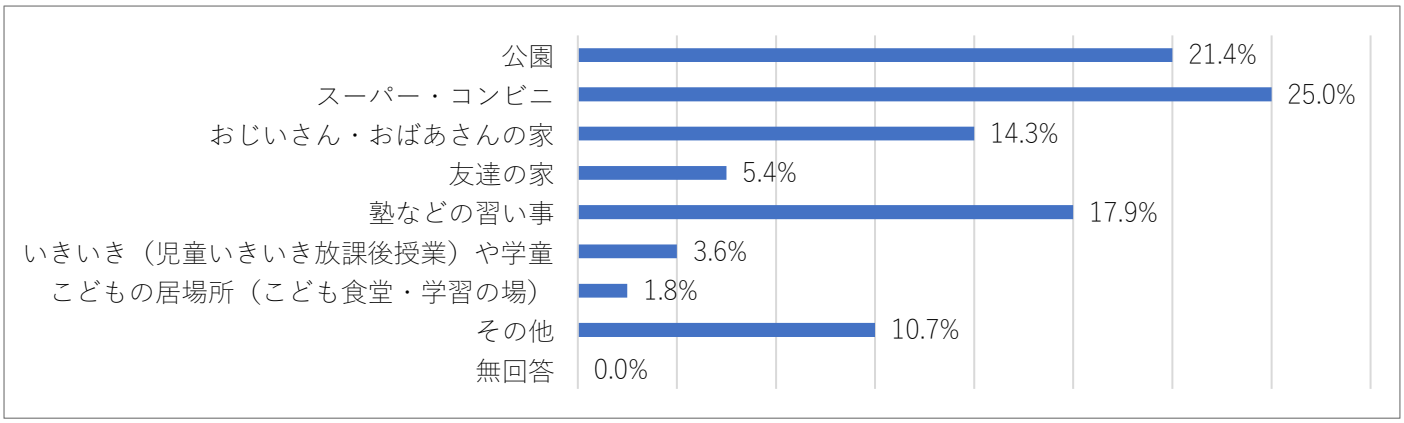



**問５　外に出た人に聞きます。１回にどれくらいの時間、外に出ましたか？（回答は１つ）**



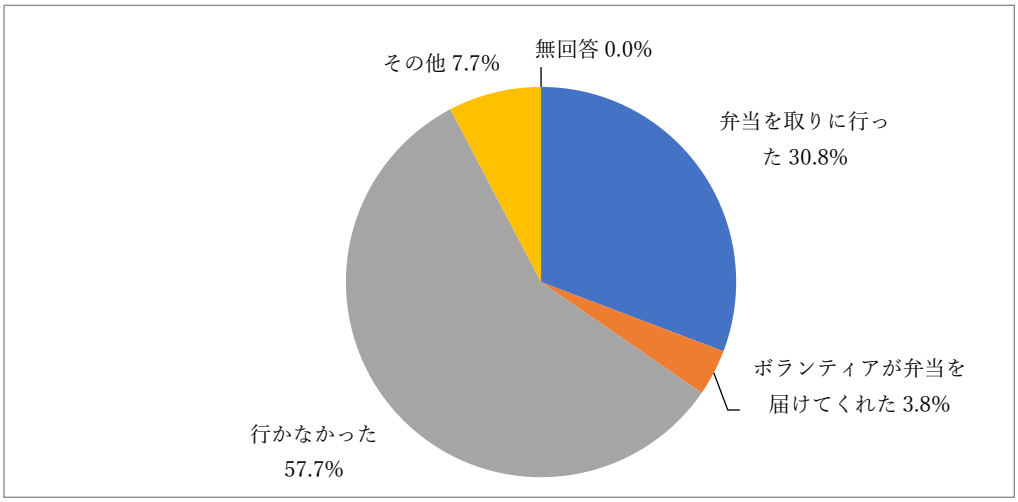

・週に１～２回で３０分～２時間と、非常に制限され、また、こども自身も我慢したことがうかがえる。

**問６　次のうち出かけた場所はありますか？（回答はいくつでも可）**

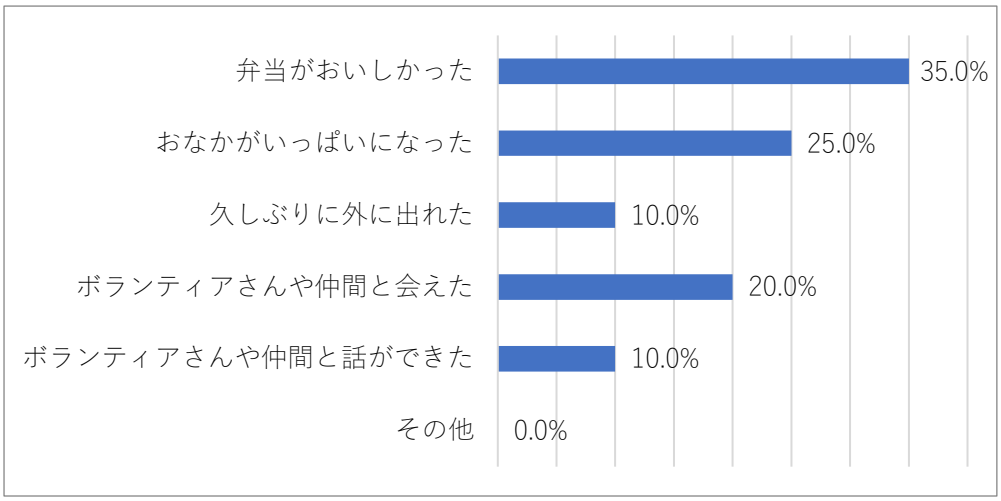



・「スーパー・コンビニ」が２５％で最も多く、次いで「公園」が２１.４％、「塾などの習い事」が１７.９％の順になっている。
・一方、友達の家は５.４％となっており、友達と遊ぶ際には外出時間の制限だけでなく、外出場所にも制限があったことがうかがえる。

**問７　緊急事態宣言の間にこども食堂に行きましたか。（回答は１つ）**



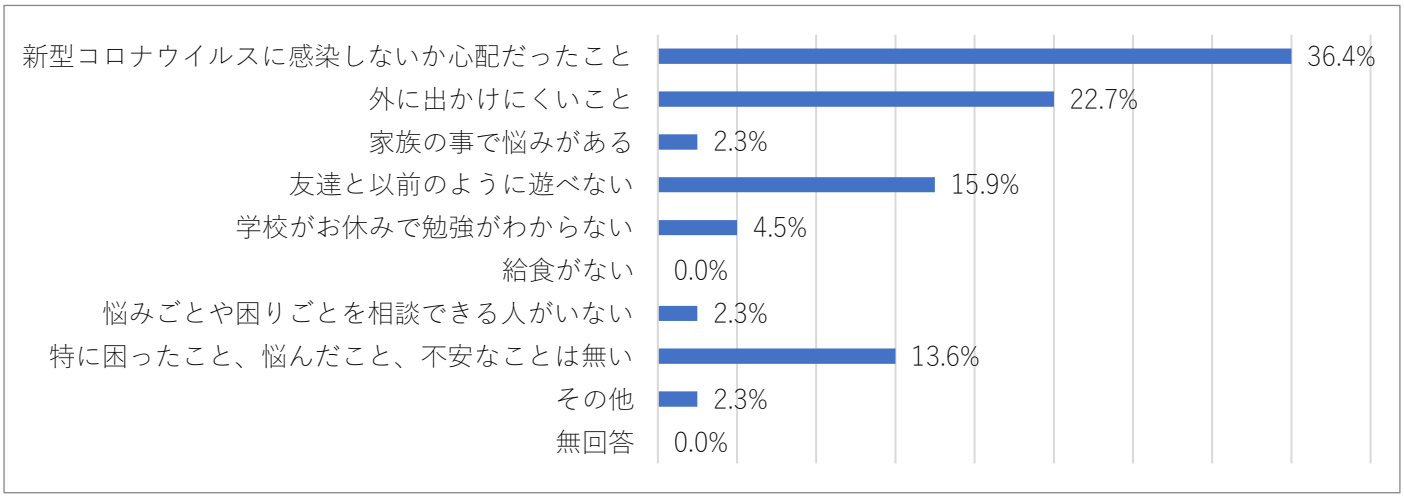
**問８　問７で、①の「こども食堂まで弁当を取りに行った」または②の「ボランティアさんが弁当を家まで届けてくれた」と答えた方にお聞きします。その時うれしかったことは何ですか。（回答はいくつでも可）**




・「弁当がおいしかった」「おなかがいっぱいになった」と、弁当に対してうれしさを感じている回答が６０％となっている。
・「ボランティアさんや仲間と会えた」「ボランティアさんや仲間と話ができた」と、人とつながる機会が得られたことにうれしさを感じている回答が３０％となっている。

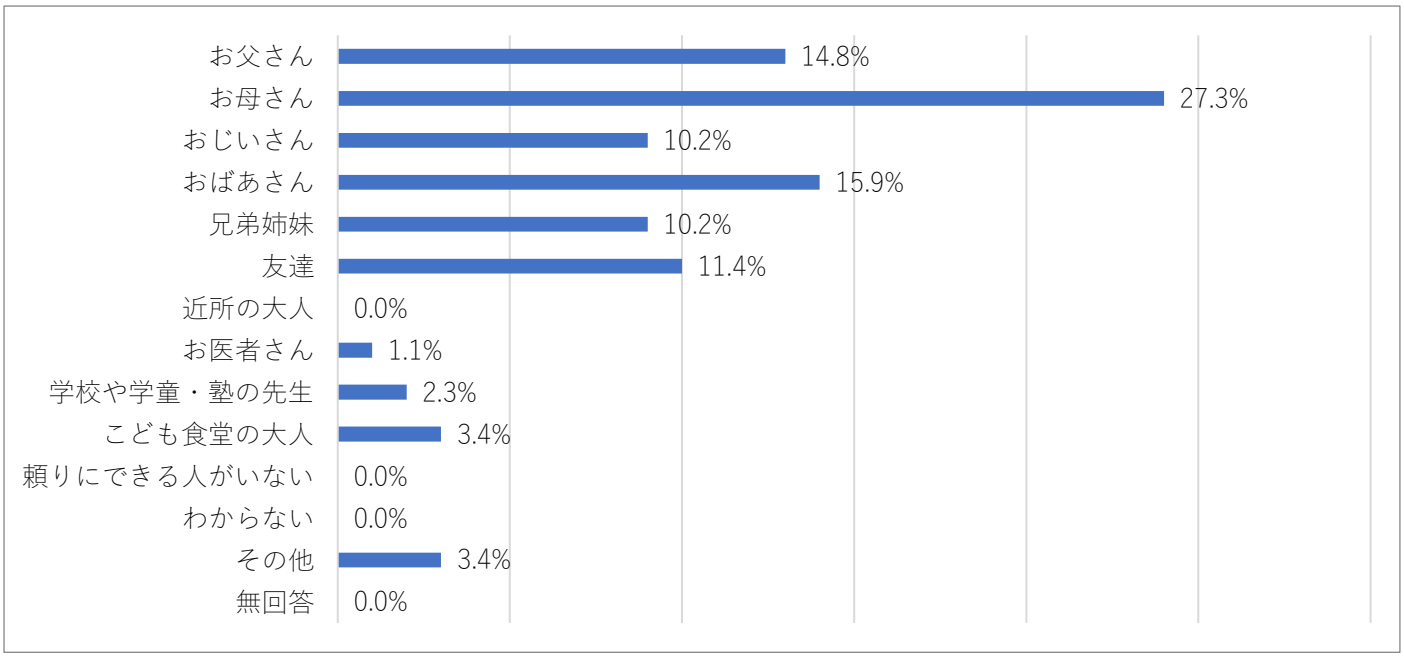
**（２）今の生活について教えてください。**

**問１　今、困っていること、悩んでいること、不安に感じていることは何ですか？（回答はいくつでも可）**



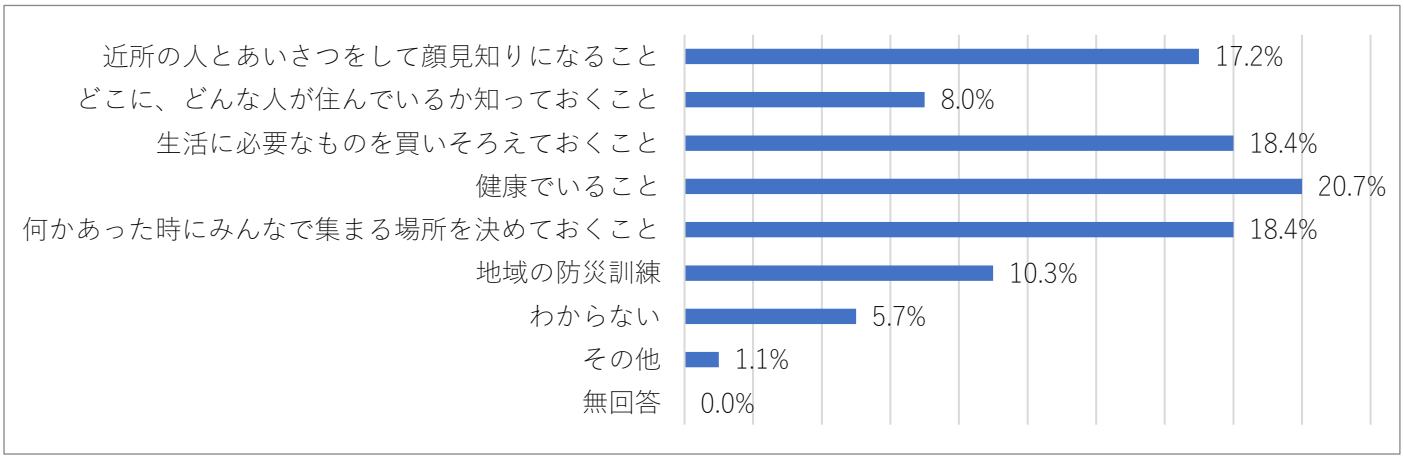

・「新型コロナウイルスに感染しないか心配だったこと」が３６.４％で最も多く、次いで「外に出かけにくいこと」が２２.７％、「友達と以前のように遊べない」が１５.９％となっており、緊急事態宣言が解除された後も、外出の機会や人と関わる機会が制限されていることがわかる。

**問２　困ったことがあった時に頼りたいのは誰ですか？（回答はいくつでも可）**




・緊急事態宣言下と比較して、家族以外の人との関りについては「学校や学童・塾の先生」と「こども食堂の大人」の割合がそれぞれで入れ替わっている。緊急事態宣言下では、学校が休校になったことから、困った時に頼る先に変化がみられたと思われる。

**問３　今回のような感染症や災害などでは、地域で住んでいる人たち同士で支え合いが必要になることがあります。普段からどのようなことをしておけばいいと思いますか？**




・「健康でいること」が２０.７％で最も多く、次いで「生活に必要なものを買いそろえておくこと」「何かあった時にみんなで集まる場所を決めておくこと」が同率で１８.４％となっている。
・普段からの備えとして、住民対象の調査結果と同様「健康でいる」の回答が最も多かった。また、「生活に必要なものを買いそろえておくこと」「何かあった時にみんなで集まる場所を決めておくこと」の回答が続き、防災意識が高まっていることがわかる。

**問４　学校やこども食堂が再開した今の気持ちを自由に書いてください。**

・学校に行って友達に会えることがうれしい
・勉強ができることがうれしい
・外に出られるようになってうれしいが、以前のようにあそべない
・友人と話すことができた

※回答より一部抜粋

# 活動者（団体）対象

# 調査結果集計

皆様の活動についてお伺いします。

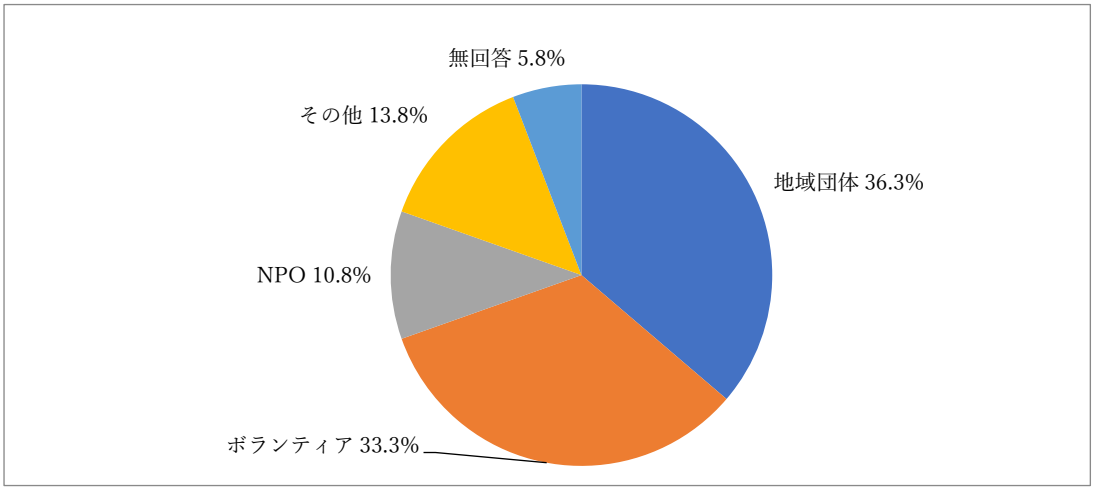
## 1．回答者の属性

| 対象者 | 乳幼児･親子 | 中学生以下の学生 | 障がい者 | 高齢者 | 外国人 | 住民全般･多世代 | その他 | 無回答 | 回答人数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 地域団体 | 26 | 26 | 19 | 0 | 6 | 46 | 4 | 5 | 87 |
| ボランティア | 17 | 16 | 0 | 37 | 2 | 15 | 5 | 8 | 80 |
| NPO | 10 | 12 | 13 | 11 | 5 | 7 | 4 | 2 | 26 |
| その他 | 13 | 16 | 13 | 7 | 6 | 9 | 5 | 1 | 33 |
| 無回答 | 5 | 2 | 3 | 0 | 0 | 6 | 0 | 4 | 14 |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 71 | 72 | 48 | 55 | 19 | 83 | 18 | 20 | 240 |

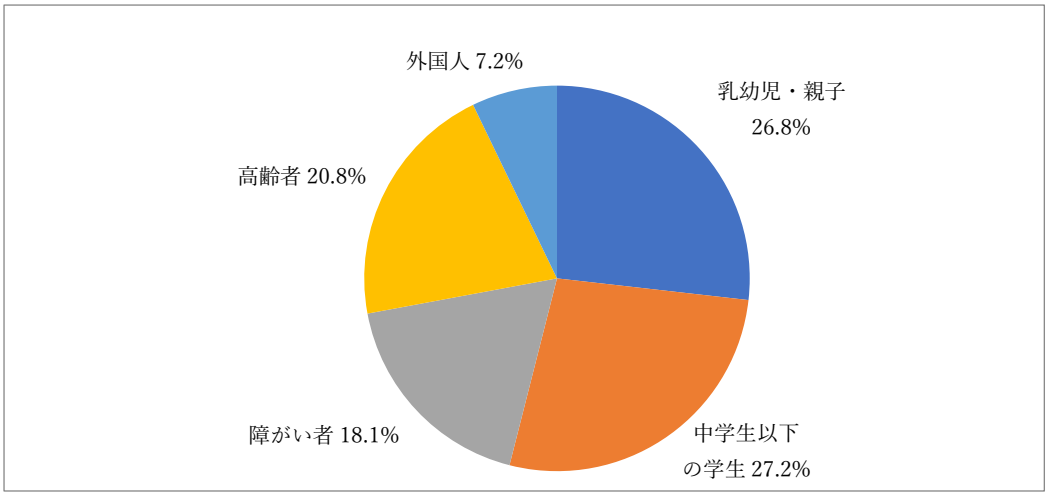
## 1．活動区

| お住いの区 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 北 | 10 | 4% | 東淀川 | 13 | 5% |
| 都島 | 8 | 3% | 東成 | 2 | 1% |
| 福島 | 12 | 5% | 生野 | 6 | 3% |
| 此花 | 10 | 4% | 旭 | 10 | 4% |
| 中央 | 4 | 2% | 城東 | 2 | 1% |
| 西 | 9 | 4% | 鶴見 | 10 | 4% |
| 港 | 12 | 5% | 阿倍野 | 19 | 8% |
| 大正 | 10 | 4% | 住之江 | 11 | 5% |
| 天王寺 | 8 | 3% | 住吉 | 16 | 7% |
| 浪速 | 7 | 3% | 東住吉 | 11 | 5% |
| 西淀川 | 12 | 5% | 平野 | 12 | 5% |
| 淀川 | 11 | 5% | 西成 | 14 | 6% |
| | | | 無回答 | 1 | 0% |

## 2．活動団体種別（回答は１つ）

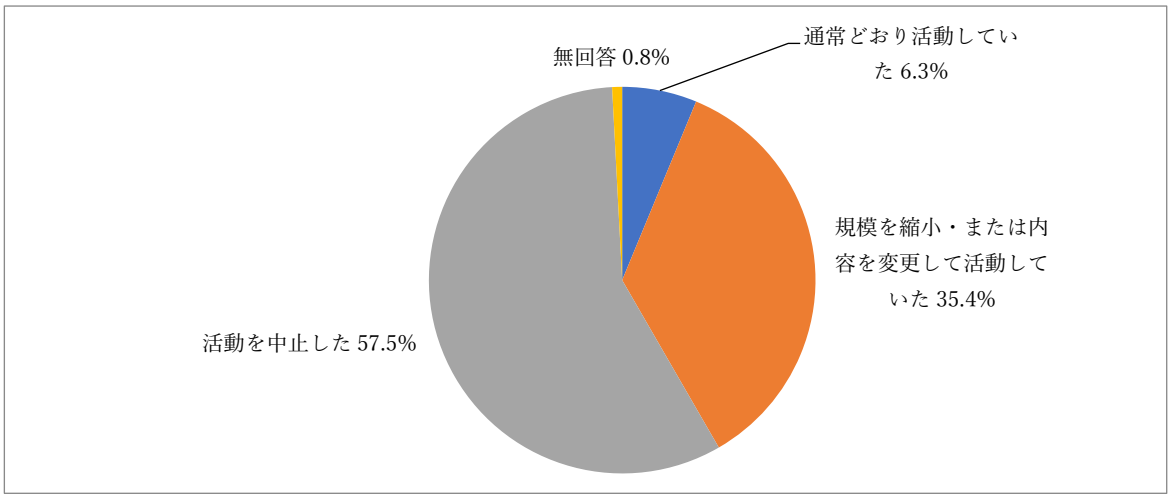


３．主な活動対象者（回答は１つ）




（１）緊急事態宣言下※令和２年４月７日~5 月 21 日（外出自粛期間）のあなたの主たる活動についてお伺いします。

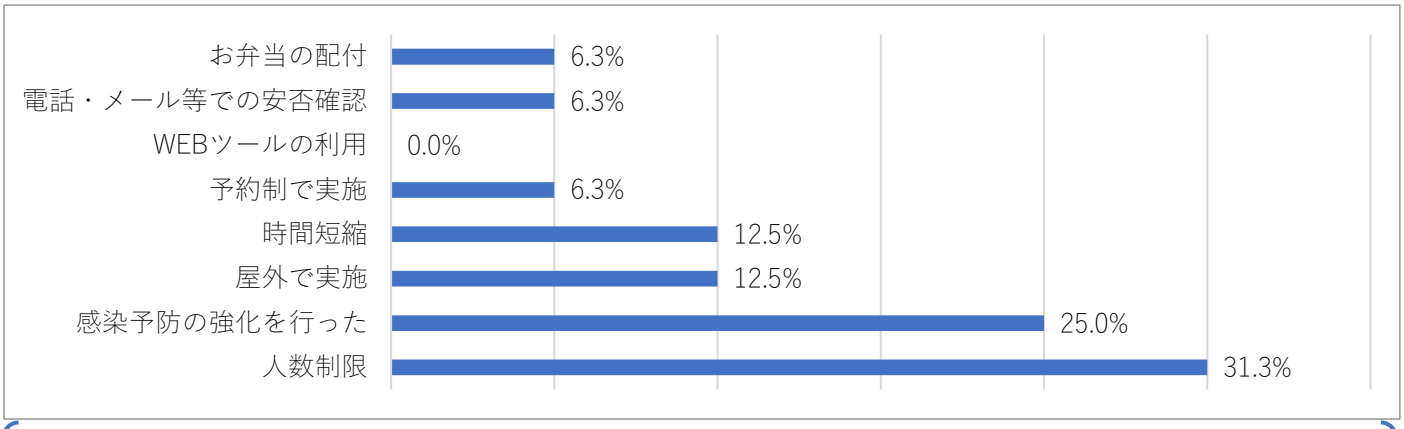
問１　緊急事態宣言中の活動状況について（回答は１つ）




・「活動を中止した」が５７.５％となり半数以上を占めている。
・３５.４％が規模を縮小・変更するなど、様々な感染症対策を講じながら活動を継続していた。

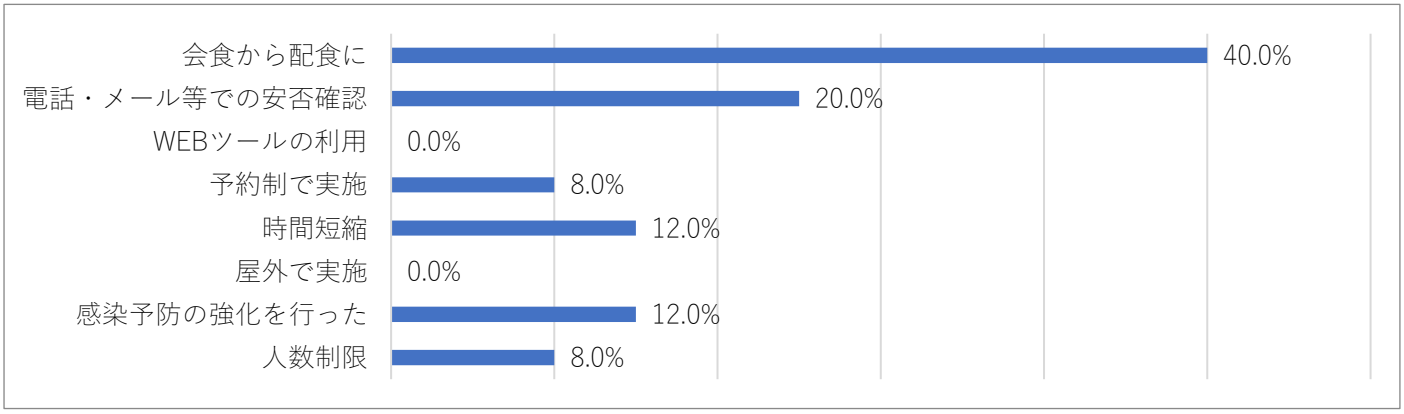
**問２　問１で①「活動していた」または②「規模を縮小して活動していた」と回答された方にお聞きします。活動方法を工夫して実施したことはありますか。（回答はいくつでも可）**

**【ふれあい喫茶】**



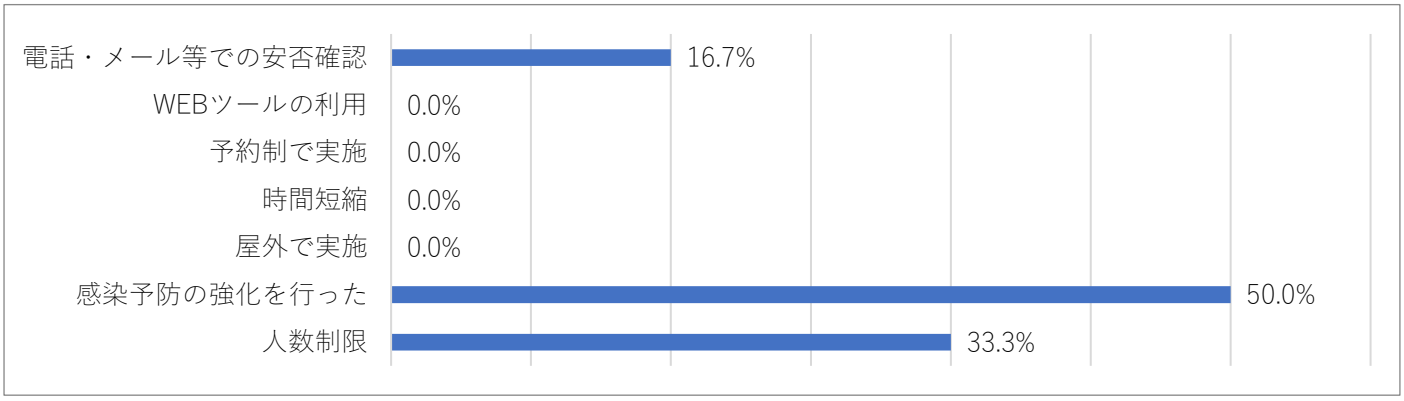

・「人数制限」が３１.３％で最も多く、次いで「感染予防の強化を行った」が２５％となっており、次に「時間短縮」「屋外で実施」が１２.５％となっている。

**【食事サービス】**



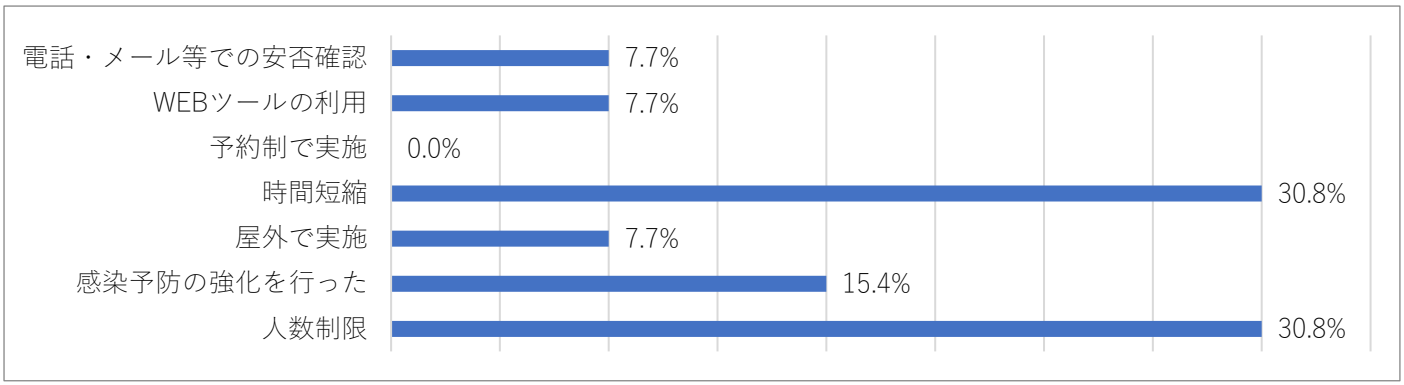

・「会食から配食に」が４０％で最も多く、次いで「電話・メール等での安否確認」が２０％となっている。

**【子育てサロン】**



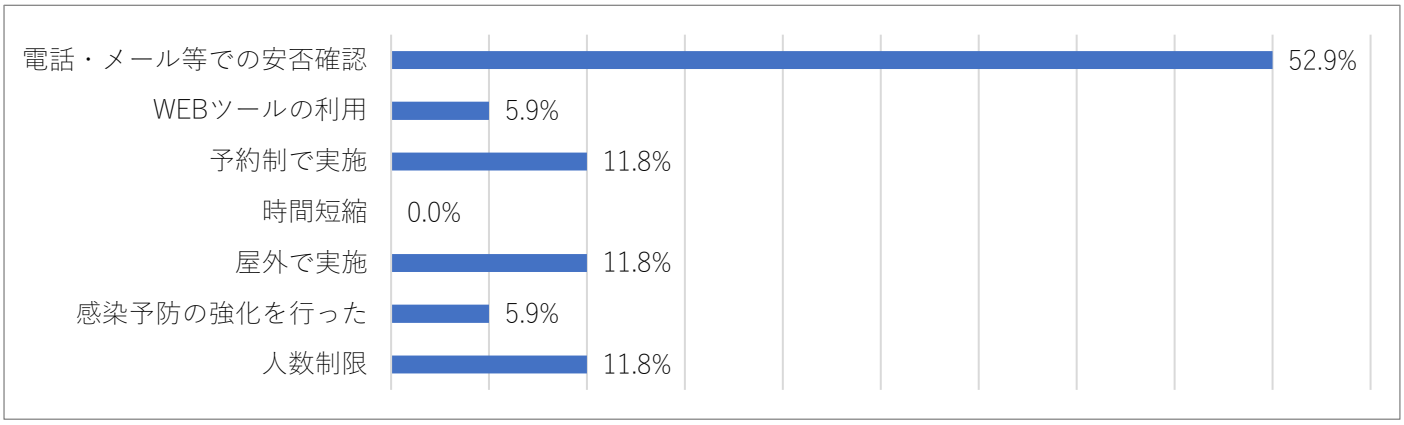

・「感染予防の強化を行った」が５０％で最も多く、次いで「人数制限」が３３.３％、「電話・メール等での安否確認」が１６.７％となっている。

**【百歳体操】**



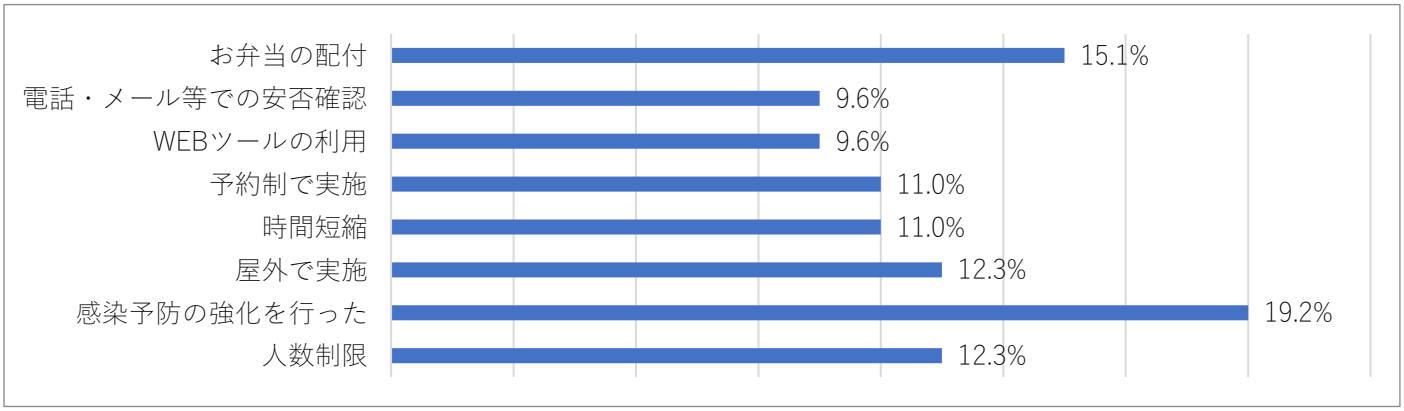

・「時間短縮」「人数制限」の回答が同率で３０.８％で最も多く、次いで「感染予防の強化を行った」が１５.４％となっている。

**【見守り活動】**



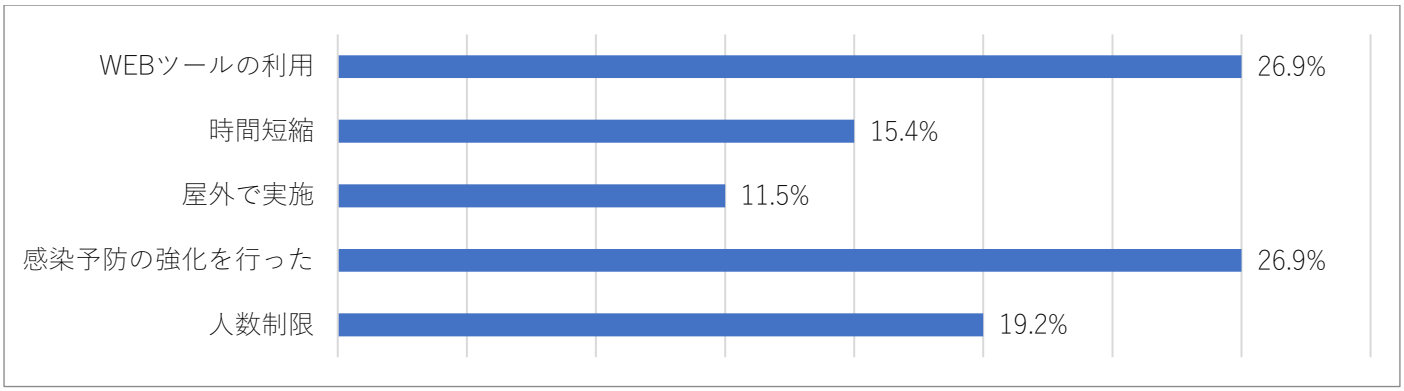

・「電話・メール等での安否確認」「WEB ツールの利用」といった、対面以外の方法で見守り活動を行った回答が５８.８％となっている。

**【こども食堂等こどもの居場所活動】**



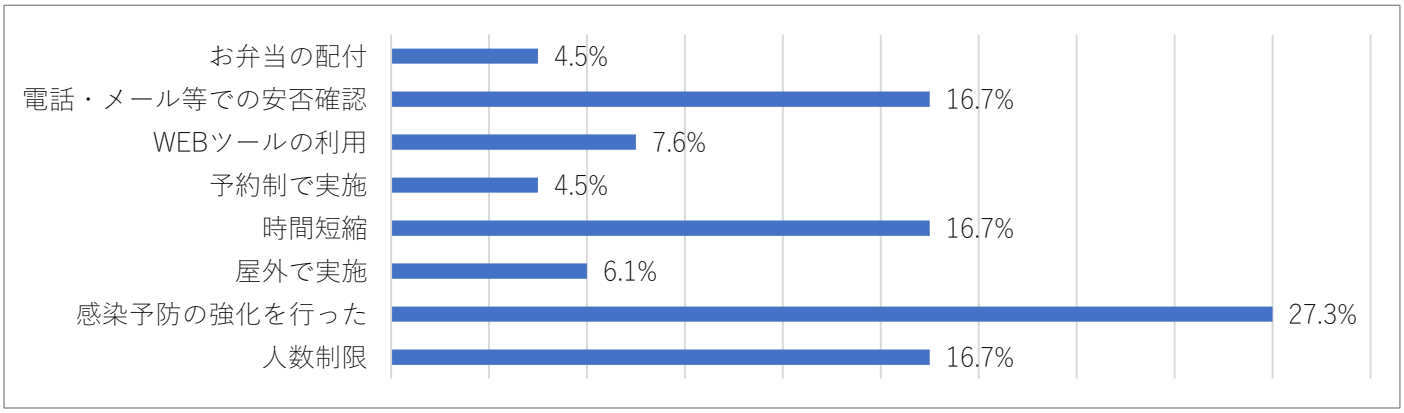

・「感染予防の強化を行った」が１９.２％で最も多く、次いで「お弁当の配付」が１５.１％、「屋外の実施」が１２.３％となっている。

**【ボランティア団体】**




・「WEB ツールの利用」「感染予防の強化を行った」が同率で２６.９％となっており最も多く、次いで「人数制限」が１９.２％となっている。

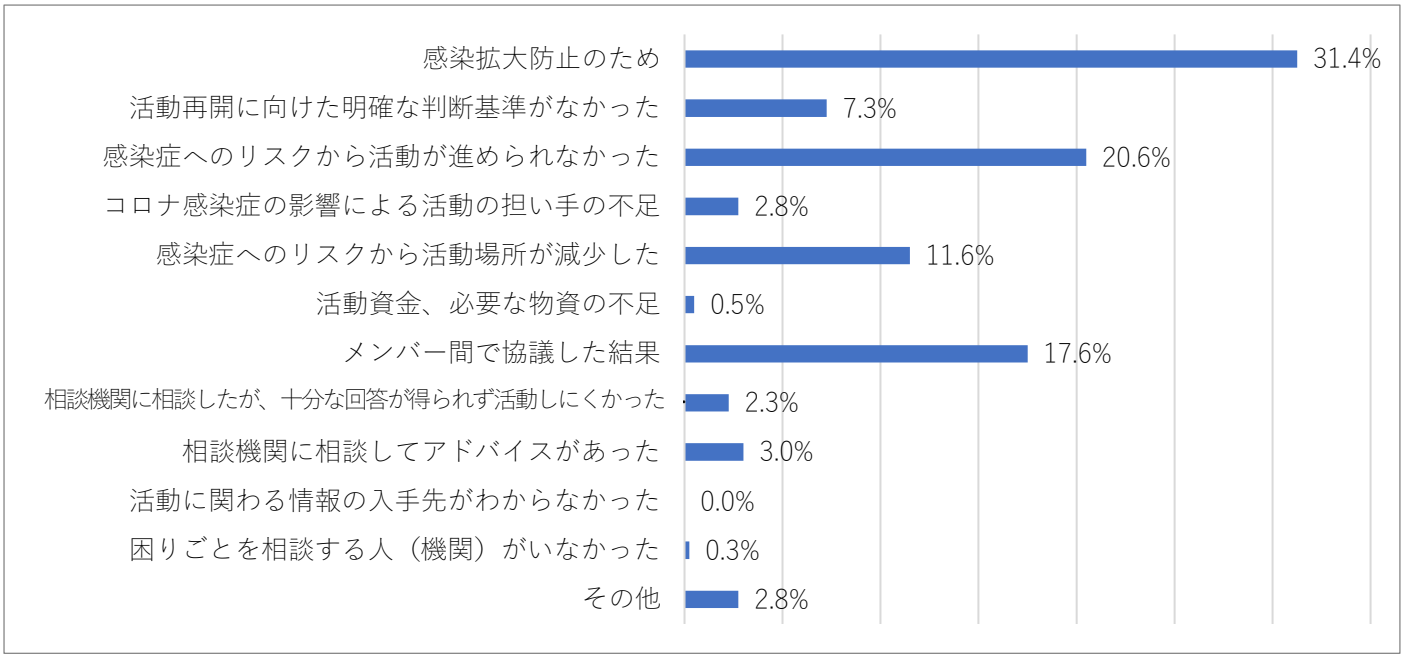
**【その他の活動】**




・「感染予防の強化を行った」が２７.３％で最も多く、次いで「電話・メール等での安否確認」「時間短縮」「人数制限」が同率で１６.７％となっている。

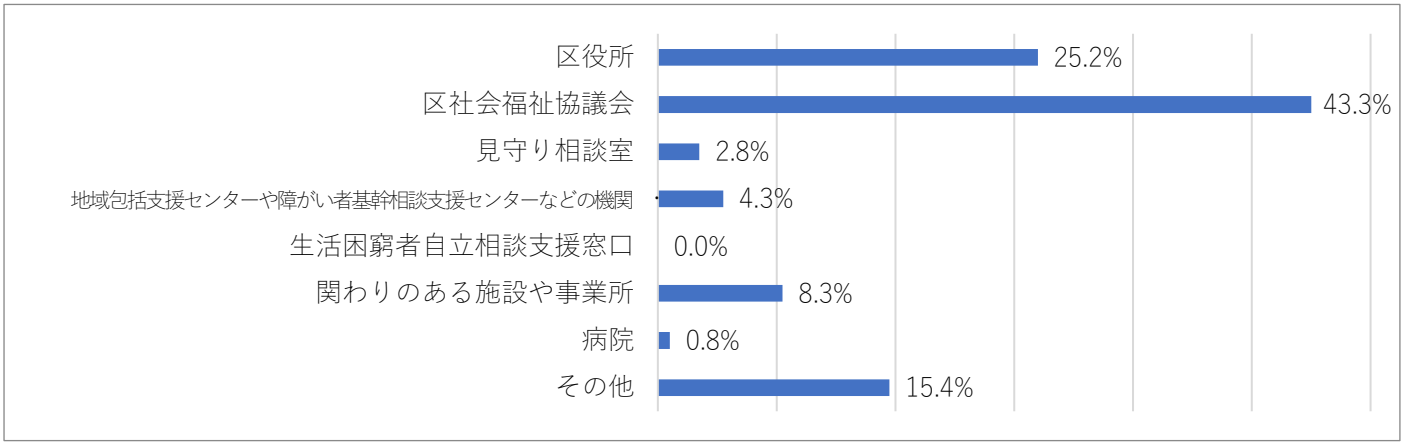
感染予防の強化を図り、活動を継続したことがわかる一方、感染予防をしたうえでの活動が難しい場合や、人数制限により来ることができなかった人に対しては、電話・メール等での安否確認をするなど、つながりを絶やさない努力を活動者がしていたことがうかがえる。

**問３　問１で「活動を中止した」と回答された方にお聞きします。活動を中止した理由は何ですか（回答はいくつでも可）**

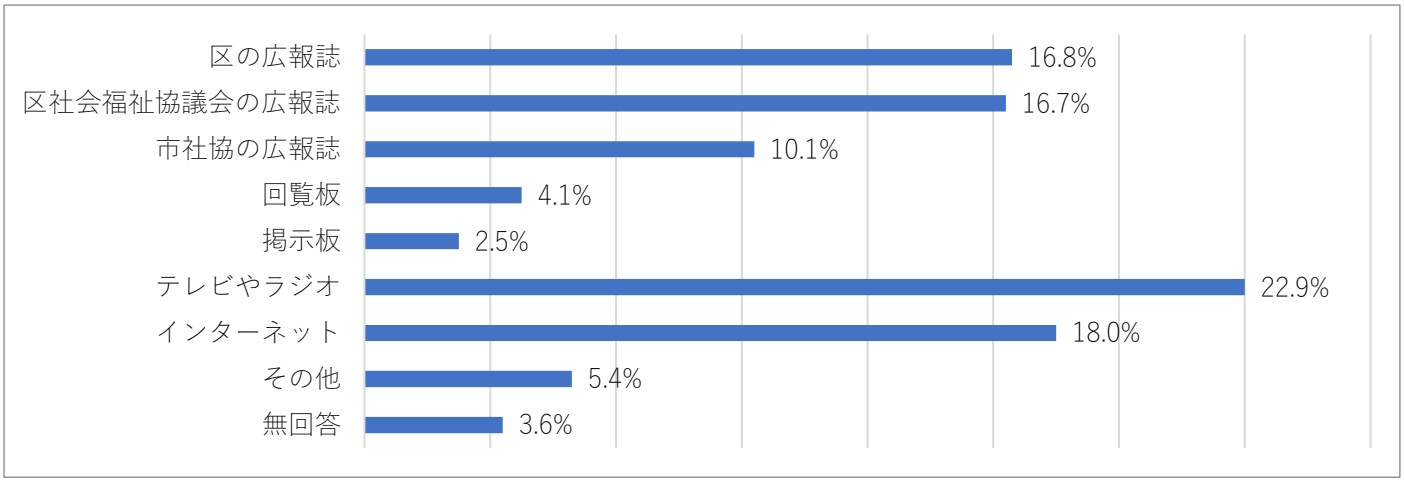



・「感染拡大防止のため」が３１.４％で最も多く、次いで「感染症へのリスクから活動が進められなかった」が２０.６％、「メンバー間で協議した結果」が１７.６％となっている。

**問４　活動ができない期間にどこかの機関等に相談しましたか（回答はいくつでも可）**



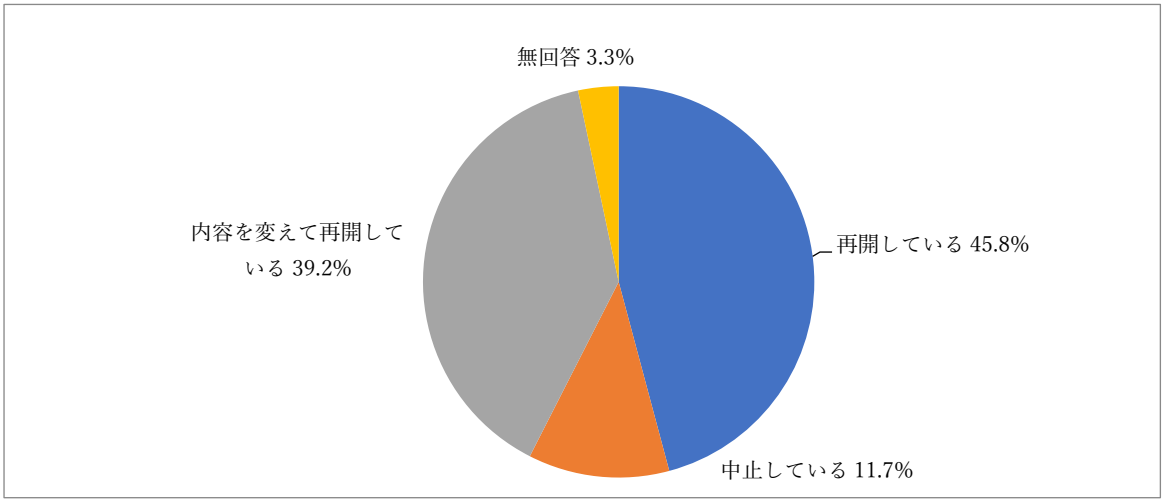
**問５　外出自粛期間中、どのように情報収集をしましたか（回答はいくつでも可）**




・「テレビやラジオ」が２２.９％で最も多く、次いで「インターネット」が１８％、「区の広報誌」が１６.８％となっている。
・「区の広報誌」「区社会福祉協議会の広報誌」「市社協の広報誌」が４３.６％となっており、活動者にとってインターネットの利用が広がる一方、各種広報誌のような紙媒体も重要な情報源となっていることがうかがえる。

**（2）現在、今後のあなたの主たる活動についてお伺いします。**

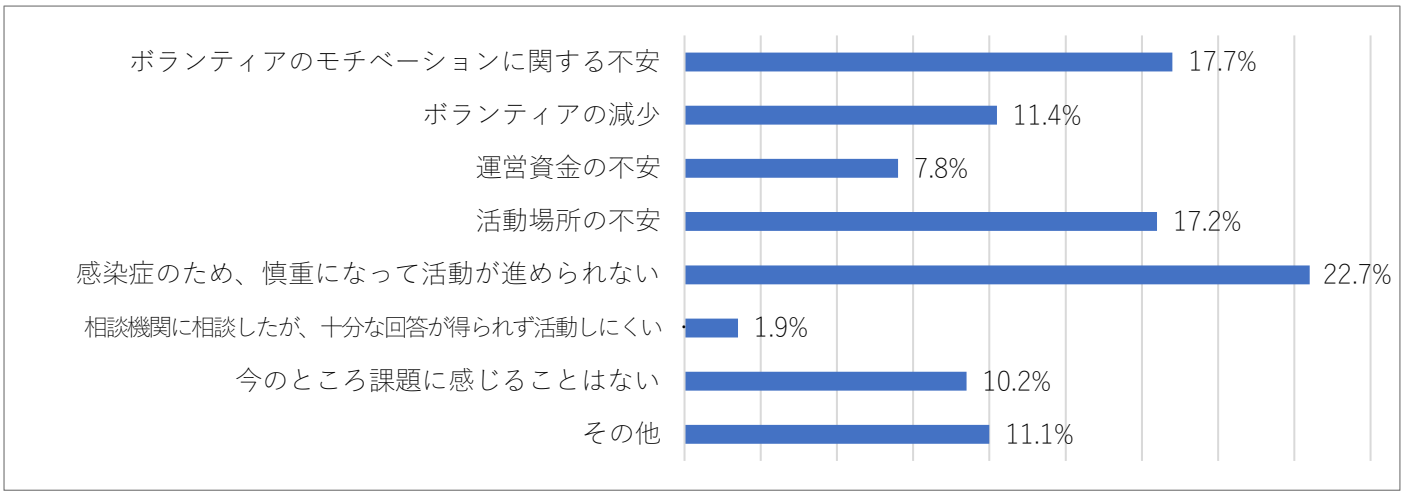
**問１　現在、活動を再開していますか（回答はひとつ）**




・８５％が再開、または内容を変えて再開している。
・緊急事態宣言下での活動については５７.５％が中止であったが、現在、今後の活動について「活動を再開している」「形態を変更して再開している」が８５％を占めていることから、調査時期に感染者数が減少したことが要因の一つと思われる。

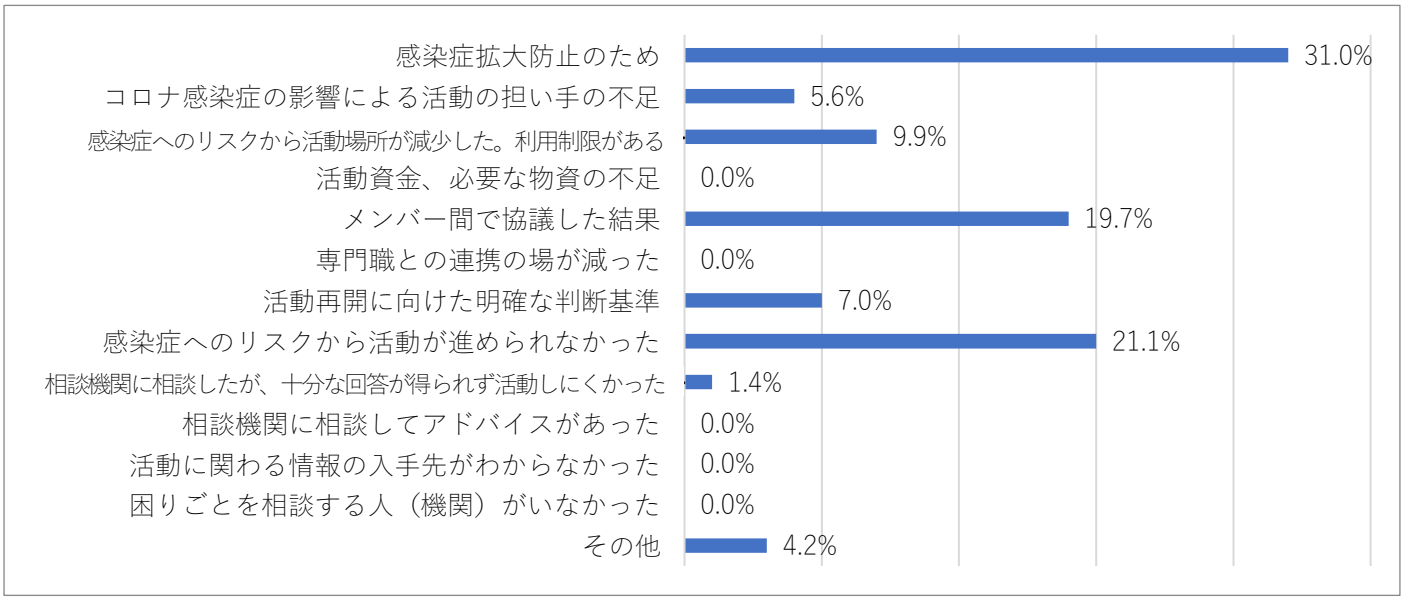
今後も新型コロナウイルス感染症の状況によって、活動も揺れ動くと思われるが、活動者の活動再開への思いがうかがえる。

**問２　問１で活動を「再開している」「形を変えて再開している」と回答された方にお聞きします。活動を進めていくにあたってどのような課題を感じていますか（回答はいくつでも可）**



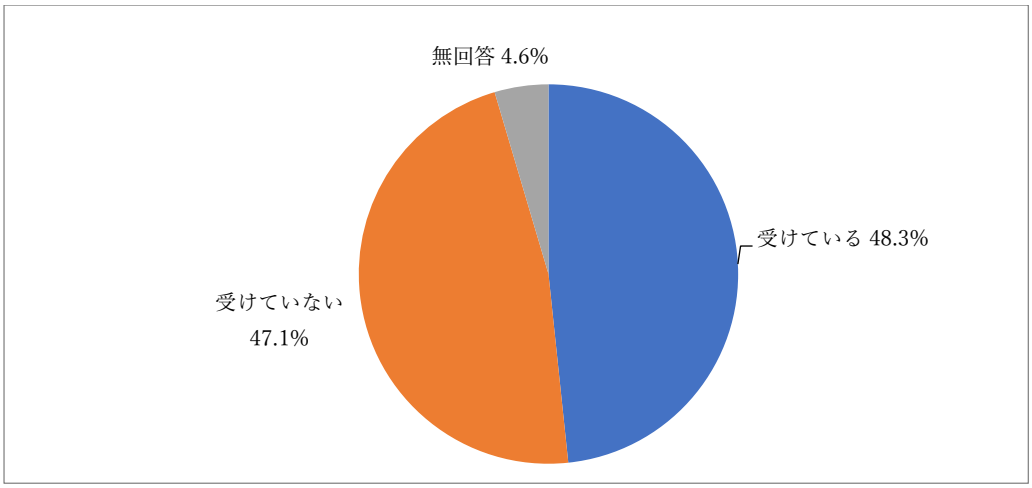

・「感染症のため、慎重になって活動が進められない」が２２.７％で最も多く、次いで「ボランティアのモチベーションに関する不安」が１７.７％、「活動場所の不安」が１７.２％となっている。

**問３　問１で活動を「中止している」と回答された方にお聞きします。活動を再開できない要因は何ですか（回答はいくつでも可）**

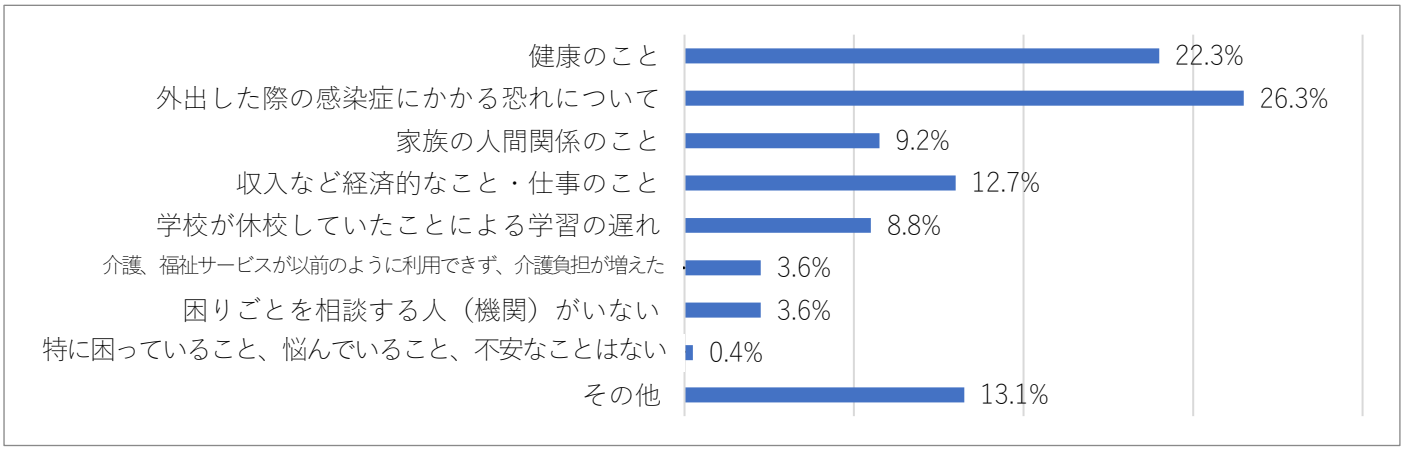



・「感染症拡大防止のため」が３１％で最も多く、次いで「感染症へのリスクから活動が進められなかった」が２１.１％、「メンバー間で協議した結果」が１９.７％となっている。

**問４現在、活動の対象者やメンバー等からの相談を受けていますか　（回答は１つ）**



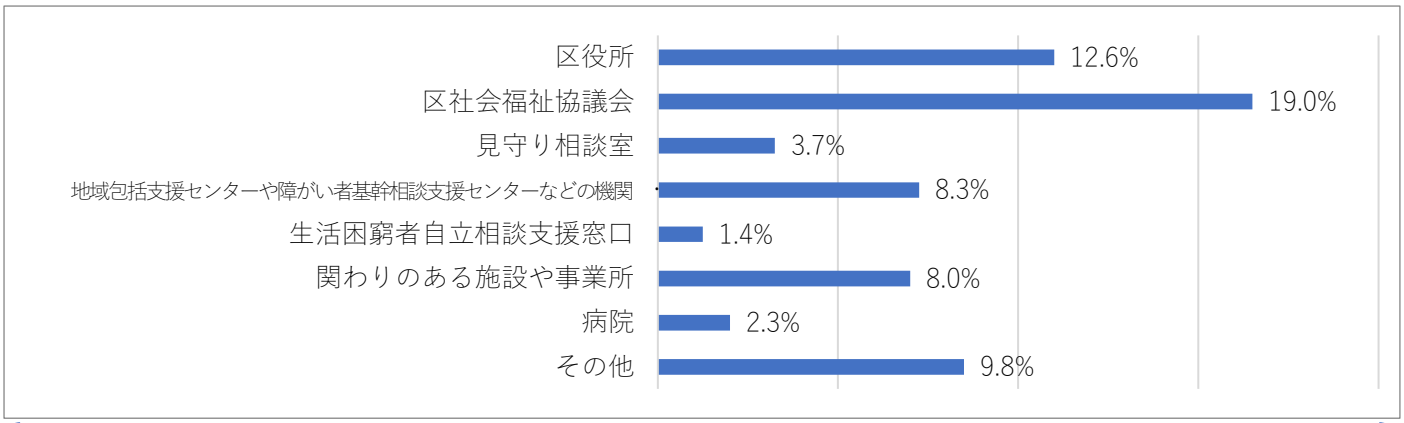

**問５　問４で「受けている」と回答された方にお聞きします。どのような相談を受けましたか**
**（回答はいくつでも可）**




・「外出した際の感染症にかかる恐れについて」が２６.３％で最も多く、次いで「健康のこと」が２２.３％、「収入など経済的なこと・仕事のこと」が１２.７％となっている。

活動の対象者やメンバー等からの相談内容としては「外出した際の感染症にかかる恐れについて」「健康のこと」が多いことから、新しい生活様式を踏まえた活動再開への支援が必要であると思われる。

**問６　対象者等から相談を受けた際、どこに相談、またはつなぎましたか（回答はいくつでも可）**




・「区社会福祉協議会」が１９％で最も多く、次いで「区役所」が１２.６％、「地域包括支援センターや障がい者基幹相談支援センターなどの機関」が８.３％となっている。

つなぎ先として「区社会福祉協議会」が最も多いことから、引き続き、コロナ禍での活動について、活動者のモチベーションを高めるための、寄りそった支援が必要である。

**問７　今後、安心して活動を続ける、再開するにあたり、必要だと思う支援は何ですか（自由記述）**

・新型コロナウイルス感染症に関する正しい情報提供(感染対策について、感染者が出たときの対応について等)
・衛生用品（マスク、消毒液、非接触型温度計、アクリル板等）の提供または、購入のための資金
・密にならないための広い活動場所の提供

※回答より一部抜粋

活動の継続・再開に向けて、安全に活動するための感染症対策を課題とする回答が多くみられた。活動するにあたり「どこまで感染症対策をすればよいのか」「感染症予防の対策を万全にしても感染者が出るかもしれない」等、活動者が不安に感じており、責任の所在も含めて再開に踏み切れない要因の一つと考えられる。安心、安全に活動ができるよう、行政等の関係機関とも連携し、活動再開に向けた支援を考える必要がある。

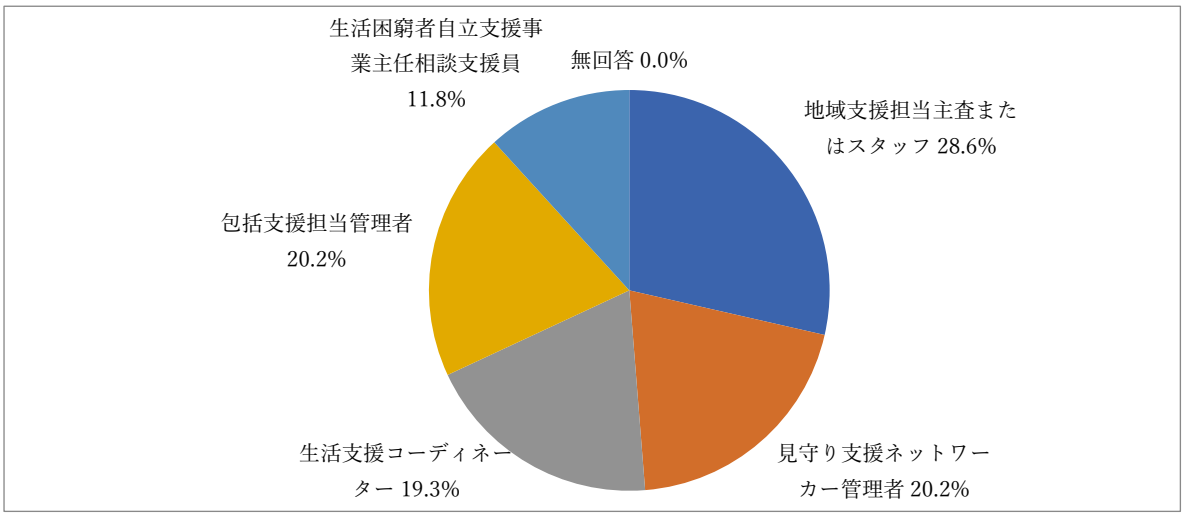
# 区社協職員対象

# 調査結果集計

## １．回答者の属性

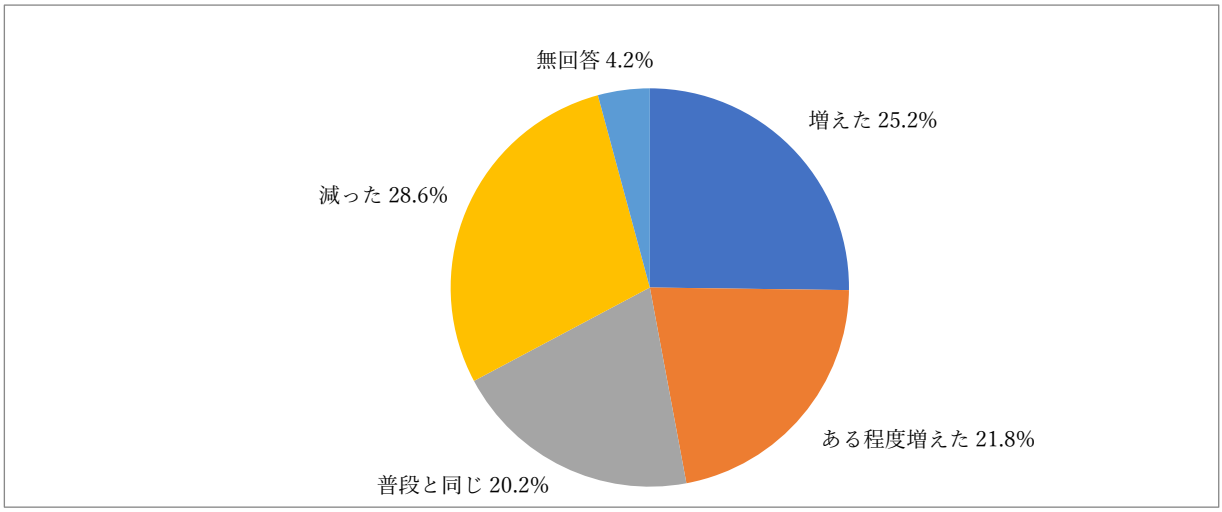
| 職種 | 回答人数 |
|---|---|
| 地域支援担当主査またはスタッフ | 34 |
| 見守り支援ネットワーカー管理者 | 24 |
| 生活支援コーディネーター | 23 |
| 包括支援担当管理者 | 24 |
| 生活困窮者自立支援事業主任相談支援員 | 14 |
| | |
| 合　計 | 119 |

【職種】（回答は１つ）



（1）緊急事態宣言下（令和２年４月７日～5 月 21 日外出自粛期間）について回答してください。

問１　地域住民や関係団体からの相談が増えましたか。（回答は１つ）




・「増えた」が２５.２％で最も多く、次いで「ある程度増えた」が２１.８％となっており、全体の約半数が増えたと回答した。

問２　特に増えた相談内容は何ですか。　問１で①増えた、②ある程度増えたと回答した場合のみ回答（自由記述）

・経済問題に関すること　３２件
・地域活動に関すること　２０件
・支援者等の見守りの方に関すること　８件

問３　担当している業務を行う中で、一番の課題は何でしたか（自由記述）

・支援者などの見守り方に関すること　２７件
・業務負担が大きくなったこと　２５件
・地域活動に関すること　２３件

「活動中止で、地域とのつながりをどう保つか（地域住民からの相談、情報収集・発信の場面の減少）」「対面での活動を控えなければならない影響（訪問の制限、会議の減少、活動者からの相談、活動の場の減少）」など、コロナ禍での地域の中での見守り方や、また、職員としてのつながり方に関する回答が多くみられた。
「コロナ禍でのフレイル予防に必要である社会参加につなげられない」等の感染症対策を講じた居場所やサロン等の再開支援に関する回答も多くみられた。

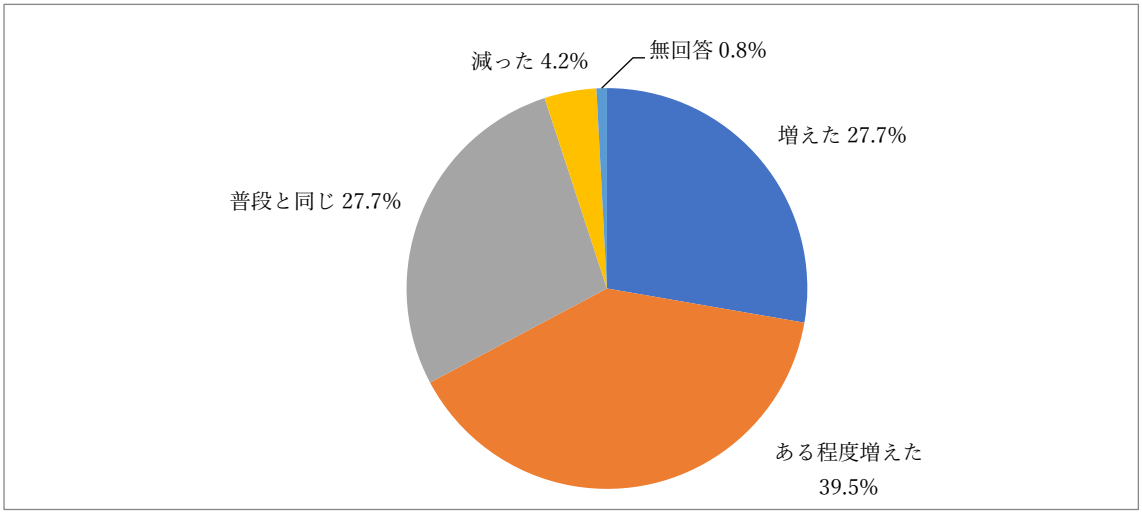
**問４　その課題をきっかけに新しく発見したり、つながった社会資源や連携先はありましたか（自由記述）**

・新たなつながり方の工夫として、オンラインツールの活用
・既存の関係機関との連携を強化して、自粛期間中でも活動できることを模索した
・ICT の活用により、若い世代とのつながりができた
・新しい生活様式を取り入れた地域福祉活動の再開を進める中で、課題をきっかけに新たな発見やつながりもみられた。
・新たな社会資源や情報発信先の開拓
・緊急小口資金・総合支援資金などの貸付の相談で関わった人が各種事業に関わってくれるようになった（ダンス講師や介護予防など）

※回答より一部抜粋

**（2）現在、今後について回答してください。**

**問１　緊急事態宣言解除後、相談が増えましたか（回答は１つ）**




・「ある程度増えた」が３９.５％、「増えた」が２７.７％となっており、全体の約７０％が増えたと回答していることから、緊急事態宣言下と比較して相談が増えたと感じる職員が多いことがわかる。

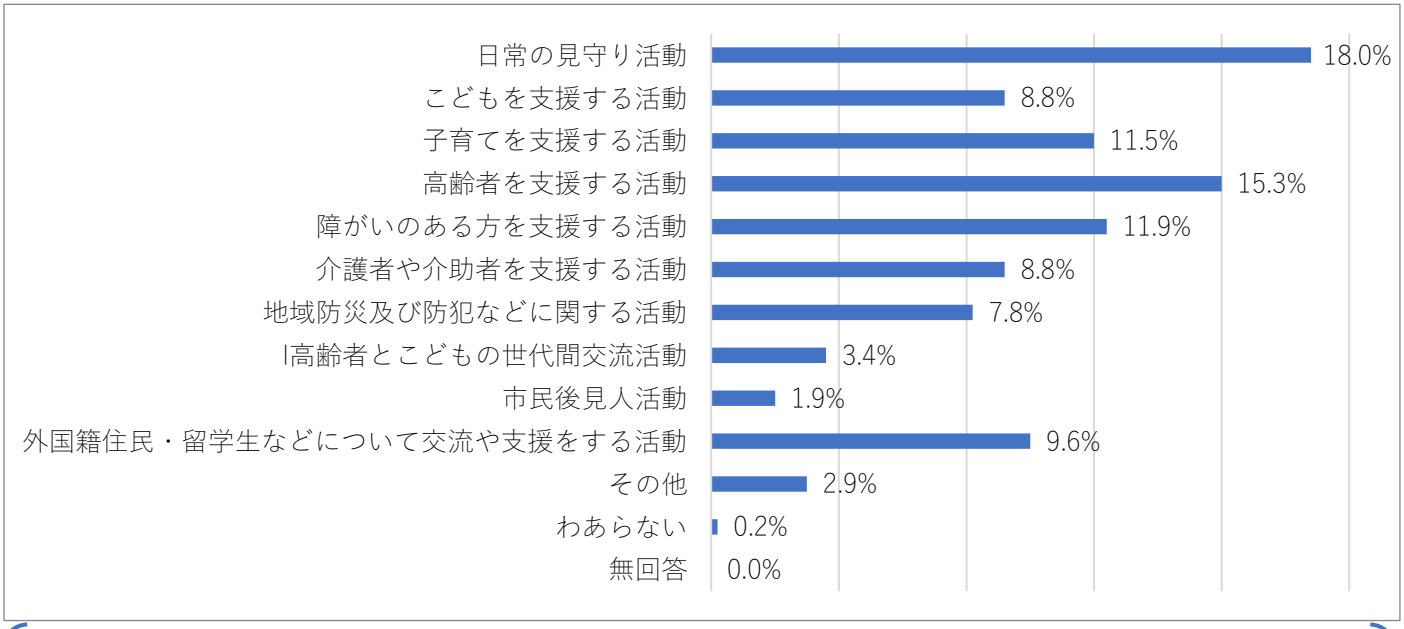
社協職員として、状況や対象者に合わせた支援が展開できるよう、日頃から地域住民とのつながりづくりを拡げるための取組みや、相談しやすい環境づくりを展開していかなくてはならない。

**問２　特に増えた相談内容は何ですか。問１で①増えた、②ある程度増えたと回答した場合のみ回答（自由記述）**

・地域活動に関すること　　２８件
・経済問題に関すること　　２４件
・介護相談に関すること　　１０件

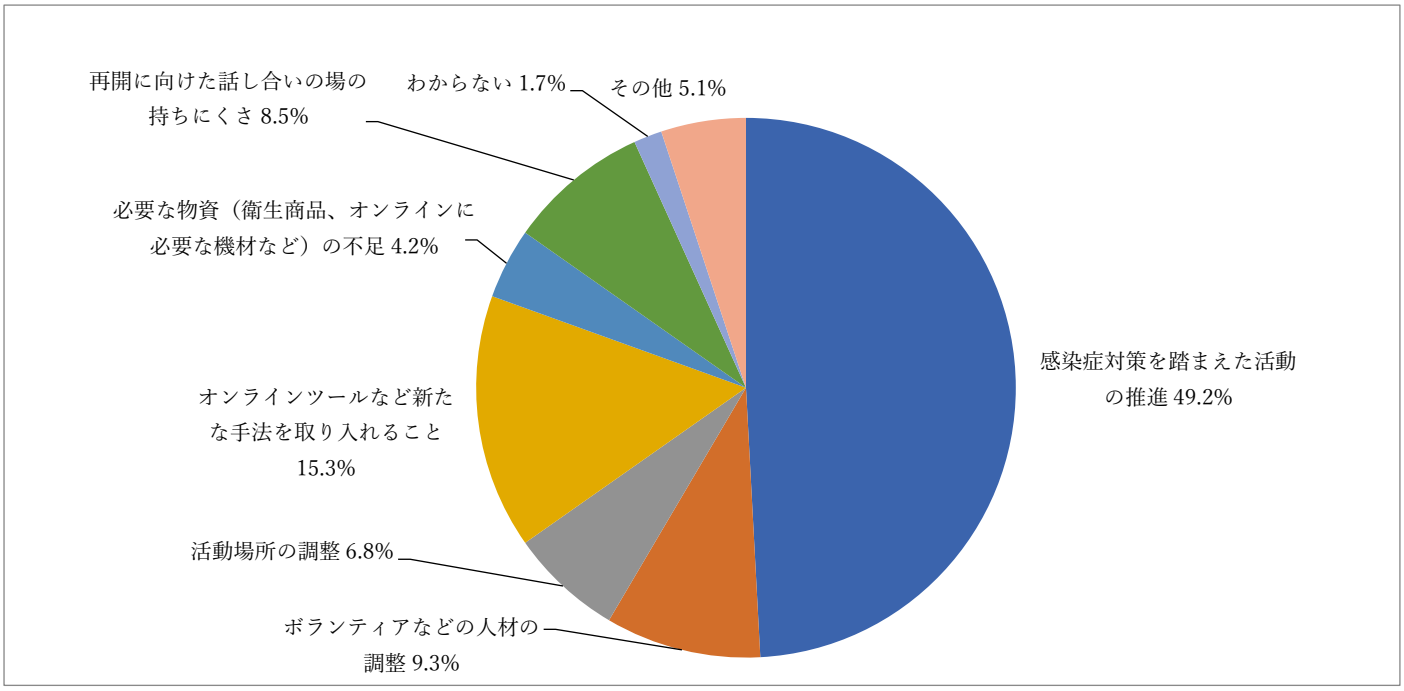
緊急事態宣言解除後の特に増えた相談内容については、地域活動に関する回答が最も多く、次いで経済問題に関することとなっている。
また、権利擁護に関する相談、体調・病状の悪化や、それに伴う介護相談が増加したという回答も多くあった。

**問３　新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中で、区・地域のどのような福祉活動、さらに支援が求められると感じていますか。（回答はいくつでも可）**




・「日常の見守り活動」が１８％で最も多く、次いで「高齢者を支援する活動」が１５.３％、それ以外は同じ割合で幅広い回答になっている。社協として広く課題を受け止め、各種別の相談支援機関等と連携して支援につなげる必要がある。

**問４　新しい生活様式を取り入れた地域福祉活動の再開がすすめられていますが、その中で何が一番課題であると思いますか。（回答は１つ）**




・「感染症対策を踏まえた活動の推進」が４９.２％で最も多く、次いで「オンラインツールなど新たな手法を取り入れること」が１５.３％となっている。コロナ禍で一気に、オンラインツールなど新たな手法を取り入れることが進み、地域活動においてもオンラインの積極的導入が進められていることがわかる。

**問５　なぜそれを一番課題に感じましたか（自由記述）**

・話し合いの場が持ちにくくなった
・活動者の方には高齢の方も多く、オンラインツールの活用に慣れていない
・感染対策をしても、感染リスクがあることでボランティアに負担や不安が生まれることのジレンマ

※回答より一部抜粋

**問６　外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業について、効果があったこと、改善すべきことなど自由に記載してください（自由記述）**

〇効果があったこと
・会うきっかけになり、安否確認、状態把握等、変化を見ることができ、必要に応じて支援につなぐことができた
・集まらなくてもつながるためのツールになった
・事業をきっかけに地域福祉活動者の機運が高まり、活動の再開につながった
・チラシを見て社協への問い合わせや相談につながった

〇改善すべきこと
・地域によって特性があるので、実情に合った柔軟な実施方法を検討してほしかった
・丁寧に事業を進めるために、準備期間がもう少しほしかった

※回答より一部抜粋

**問７　今後、検討している、またはやってみたいと思っている地域に向けた取組みがありますか（自由記述）**

・オンラインツール等 ICT の活用に関すること　３１件
・オンライン以外の新たな形での活動再開・再開に向けた取組み　１８件
・情報発信、情報収集（情報弱者への支援も含む）　１４件

オンラインツールの活用を地域に普及させるための講座開催などの回答もみられ、社協職員のスキルアップを図っていくことも必要である。
住民対象（事業対象者向け）及び、住民対象向け（無作為）の回答（１）－問４で、住民に情報が届いていないことがわかることから、発信の方法を検討をするべきであると考えられる。

# 各地域福祉活動再開状況

令和２年１２月末現在

| | | | ふれあい喫茶 | | | | | | | | 食事サービス | | | | | | | | 子育てサロン | | | | | | | | １００歳体操 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 区名 | 地域数 | 実施数 | 再開 | | 再開予定 | | 未定 | | 中止 | 実施数 | 再開 | | 再開予定 | | 未定 | | 中止 | 実施数 | 再開 | | 再開予定 | | 未定 | | 中止 | 実施数 | 再開 | | 再開予定 | | 未定 | | 中止 |
| 1 | 北 | 19 | 17 | 1 | 6% | | 0% | 16 | 94% | | 14 | 1 | 7% | | 0% | 13 | 93% | | 14 | | 0% | | 0% | 14 | 100% | | 17 | | 0% | | 0% | 17 | 100% | |
| 2 | 都島 | 9 | 7 | | 0% | | 0% | 7 | 100% | | 9 | 4 | 44% | | 0% | 5 | 56% | | 9 | 1 | 11% | | 0% | 8 | 89% | | 7 | 3 | 43% | | 0% | 4 | 57% | |
| 3 | 福島 | 10 | 10 | 1 | 10% | | 0% | 9 | 90% | | 10 | 8 | 80% | | 0% | 2 | 20% | | 9 | 1 | 11% | | 0% | 8 | 89% | | 10 | 9 | 90% | | 0% | 1 | 10% | |
| 4 | 此花 | 10 | 12 | 1 | 8% | 2 | 17% | 9 | 75% | | 5 | 5 | 100% | | 0% | | 0% | | 6 | 3 | 50% | | 0% | 3 | 50% | | 18 | 8 | 44% | 4 | 22% | 6 | 33% | |
| 5 | 中央 | 17 | 14 | 6 | 43% | | 0% | 8 | 57% | | 15 | 13 | 87% | | 0% | 2 | 13% | | 15 | 8 | 53% | | 0% | 7 | 47% | | 10 | 5 | 50% | | 0% | 5 | 50% | |
| 6 | 西 | 14 | 14 | | 0% | 1 | 7% | 13 | 93% | | 14 | 11 | 79% | | 0% | 3 | 21% | | 14 | 10 | 71% | | 0% | 4 | 29% | | 14 | 12 | 86% | | 0% | 2 | 14% | |
| 7 | 港 | 11 | 11 | | 0% | | 0% | 11 | 100% | | 10 | 9 | 90% | 1 | 10% | | 0% | | 11 | 11 | 100% | | 0% | | 0% | | 11 | | 0% | | 0% | 11 | 100% | |
| 8 | 大正 | 10 | 10 | 1 | 10% | | 0% | 9 | 90% | | 11 | 11 | 100% | | 0% | | 0% | | 10 | | 0% | | 0% | 10 | 100% | | 10 | 5 | 50% | | 0% | 5 | 50% | |
| 9 | 天王寺 | 9 | 9 | | 0% | 2 | 22% | 7 | 78% | | 9 | 9 | 100% | | 0% | | 0% | | 9 | 3 | 33% | | 0% | 6 | 67% | | 9 | 5 | 56% | 1 | 11% | 3 | 33% | |
| 10 | 浪速 | 12 | 12 | 2 | 17% | | 0% | 10 | 83% | | 14 | 14 | 100% | | 0% | | 0% | | 8 | 2 | 25% | | 0% | 6 | 75% | | 13 | 12 | 92% | | 0% | 1 | 8% | |
| 11 | 西淀川 | 14 | 12 | 2 | 17% | 1 | 8% | 9 | 75% | | 8 | 7 | 88% | 1 | 13% | | 0% | | 14 | 1 | 7% | | 0% | 13 | 93% | | 9 | 2 | 22% | | 0% | 7 | 78% | |
| 12 | 淀川 | 18 | 18 | 3 | 17% | 15 | 83% | | 0% | | 17 | 5 | 29% | | 0% | 12 | 71% | | 18 | | 0% | | 0% | 18 | 100% | | 39 | 25 | 64% | | 0% | 14 | 36% | |
| 13 | 東淀川 | 17 | 16 | 1 | 6% | 1 | 6% | 14 | 88% | | 17 | 10 | 59% | | 0% | 7 | 41% | | 17 | 3 | 18% | 1 | 6% | 13 | 76% | | 17 | 9 | 53% | | 0% | 8 | 47% | |
| 14 | 東成 | 11 | 11 | 5 | 45% | 1 | 9% | 5 | 45% | | 10 | 9 | 90% | | 0% | 1 | 10% | | 11 | | 0% | | 0% | 11 | 100% | | 10 | 5 | 50% | | 0% | 5 | 50% | |
| 15 | 生野 | 19 | 17 | 1 | 6% | | 0% | 16 | 94% | | 19 | 7 | 37% | 1 | 5% | 11 | 58% | | 16 | 4 | 25% | | 0% | 12 | 75% | | 19 | 10 | 53% | 3 | 16% | 6 | 32% | |
| 16 | 旭 | 10 | 10 | | 0% | 1 | 10% | 9 | 90% | | 4 | 0 | 0% | 1 | 25% | 3 | 75% | | 10 | | 0% | | 0% | 10 | 100% | | 10 | 2 | 20% | | 0% | 8 | 80% | |
| 17 | 城東 | 16 | 16 | 2 | 13% | | 0% | 14 | 88% | | 16 | 5 | 31% | | 0% | 10 | 63% | 1 | 16 | | 0% | | 0% | 16 | 100% | | 16 | 13 | 81% | | 0% | 3 | 19% | |
| 18 | 鶴見 | 12 | 12 | 2 | 17% | 1 | 8% | 9 | 75% | | 7 | 4 | 57% | | 0% | 3 | 43% | | 12 | | 0% | | 0% | 12 | 100% | | 10 | 7 | 70% | | 0% | 3 | 30% | |
| 19 | 阿倍野 | 10 | 10 | 3 | 30% | 3 | 30% | 4 | 40% | | 10 | 6 | 60% | 1 | 10% | 3 | 30% | | 10 | | 0% | | 0% | 10 | 100% | | 11 | 4 | 36% | | 0% | 7 | 64% | |
| 20 | 住之江 | 14 | 14 | 5 | 36% | | 0% | 9 | 64% | | 13 | 8 | 62% | | 0% | 5 | 38% | | 14 | 2 | 14% | | 0% | 12 | 86% | | 13 | 9 | 69% | | 0% | 4 | 31% | |
| 21 | 住吉 | 10 | 18 | 4 | 22% | | 0% | 14 | 78% | | 37 | 34 | 92% | | 0% | 3 | 8% | | 12 | 5 | 42% | 1 | 8% | 6 | 50% | | 30 | 18 | 60% | | 0% | 12 | 40% | |
| 22 | 東住吉 | 14 | 13 | 5 | 38% | 2 | 15% | 6 | 46% | | 12 | 10 | 83% | 2 | 17% | | 0% | | 14 | 6 | 43% | 6 | 43% | 2 | 14% | | 8 | 3 | 38% | | 0% | 5 | 63% | |
| 23 | 平野 | 22 | 24 | 4 | 17% | 18 | 75% | 2 | 8% | | 25 | 21 | 84% | 4 | 16% | | 0% | | 11 | 2 | 18% | 2 | 18% | 7 | 64% | | 22 | 3 | 14% | 1 | 5% | 18 | 82% | |
| 24 | 西成 | 16 | 16 | 1 | 6% | | 0% | 15 | 94% | | 14 | 6 | 43% | | 0% | 8 | 57% | | 7 | 1 | 14% | | 0% | 6 | 86% | | 18 | 10 | 56% | | 0% | 8 | 44% | |
| | 合計 | 324 | 323 | 50 | 15% | 48 | 15% | 225 | 70% | 0 | 320 | 217 | 68% | 11 | 3% | 91 | 28% | 1 | 287 | 63 | 22% | 10 | 3% | 214 | 75% | 0 | 351 | 179 | 51% | 9 | 3% | 163 | 46% | 0 |

※地域数と実施数が異なる活動があるのは、地域内で複数か所実施している、または、実施していない活動があるため。

＜まとめ＞

１　令和２年４月７日～令和２年１１月３０日の調査期間における新型コロナウイルス感染症による住民生活・地域福祉活動等への影響

新型コロナウイルス感染症の影響により、住民にとって日常生活を変えざるを得ない状況となった。さらに、緊急事態宣言下では、各区・地域で継続されてきたさまざまな地域福祉活動が中止や延期となり、人が集まりふれあう場を開くことが困難になった。また、コロナ禍において、感染症を恐れ、自分自身の健康や暮らしにも不安を感じることで、外出の機会が減り、高齢者にとってはフレイルの進行にもつながったことから、社会的な問題としてとりあげられてきた。

しかし、緊急事態宣言が解除されて以降は、各区・地域では、人とのつながりを絶やさないため、制限の中でもさまざまな工夫を凝らしながら、新しい生活様式を踏まえた地域福祉活動が少しずつ進められている。

今回の調査結果から、緊急事態宣言下と緊急事態宣言解除後におけるコロナ禍のさまざまな住民の意識や行動に関する状況及び各区・地域における、コロナ禍での活動再開・休止の実態が見えてきた。

２　社協としての地域に向けた役割や支援策等について

（１）**「暮らしの中でのつながりの大切さを伝える」**

コロナ禍で気軽に人とつながることができない状況の中、家族や親戚以外の相談先として、友人や知人・近所の人という回答が最も多かった。コロナ禍であってもなくても、普段の暮らしの中で住民同士がつながれるよう、つながりの機会や活動を絶やさないため、市・区社協として住民の気づきや思いを大切にしながら、支援を展開していかなくてはならない。

（２）**「住民や活動者の不安や状況等を把握し、必要な支援につなげる」**

緊急事態宣言と宣言解除後においては、感染症予防のための物資や情報不足の期間もあったことから、外出の機会が減り、閉じこもりがちになることで、体調への不安を感じている方が多かった。新型コロナウイルス感染症の影響で、対面を避けなければならない、集まることが難しい等の制限がある中でも身体面・精神面のケア、また孤立を防ぐためのつながる方法を展開する必要がある。市・区社協においては、住民の不安解消や活動者の意欲を高めていくための情報や手法を広く発信し続け、地域や活動主ごとの状況把握や特色に合わせた活動再開、また新規活動の立ち上げ等の提案や支援につなげていく必要がある。

（３）**「広域から狭域への支援へつなげるための情報把握と共有」**

各種地域福祉活動の中止や延期が続いたが、宣言解除後の活動再開状況においては活動形態により差が見られた。調査期間が短かったことから、今後の状況変化について、広域的な実態把握や分析をおこない、区・地域単位への支援に活用できるよう、市・区社協との共有を図る必要がある。

（４）**「情報を得る手段が限られていたり、情報ツールを十分活用することが困難な方に対しても、きめ細やかな対応で情報を届ける」**

事業対象者向け（高齢者等）と住民向け（無作為）の外出期間中の情報収集の手法について、両方ともテレビやラジオの次に家族・友人という回答が最も多かった。また、年代に限らず広報誌等の紙媒体で情報収集しているという回答は高齢者や活動者向けの回答でも多かったことから、インターネット等のＩＣＴの活用の普及が拡がる中、広報誌等の幅広い世代へ情報提供するために、市・区社協においてさまざまな情報ツールを活用する必要がある。

３　今後に向けて

今回の調査については、調査期間が令和２年１０月から１１月の期間であり、緊急事態宣言下と宣言解除後の混乱と不安の中での調査となった。

緊急事態宣言解除後の調査結果から、活動の種別によって再開を試みる活動者も少しずつ増えてきたことがわかった。再開された活動においては、集まることが難しい中、集まらなくてもできる活動に切り替えたり、集まる活動であってもソーシャルディスタンスや感染症予防を講じて再開したり、活動者が参加者や利用者の思いを汲み取ったうえでの活動再開が進められてきた。今後も活動を継続していくにあたり、新型コロナウイルス感染症の状況に合わせた環境整備等も必要になってくる。今後、社会福祉協議会として、住民や活動者等の状況や思いを把握し、各区・地域単位でのきめ細やかな支援を展開しなければならない。

また、社会福祉協議会職員の調査において、コロナ禍での相談件数が増えたと回答したのは、新しい生活問題に関する相談が増えたことが影響していると推察される。また、住民向けの調査では、困った時に相談する先については友人、知人、近所の人という回答が多かったが、コロナ禍での困り事の内容により、相談先が変わっている。とりわけ、日常的に支えたり支えられたりする関係性が構築されている地域においては、災害時・非常時においてもその関係性が活かされていたと思われる。

今後は、コロナの影響により、ますます複合的な課題を抱える人・世帯が増え、潜在化したままの人も多数存在すると思われる。社会福祉協議会としては、住民に最も近い機関、頼られる存在となり、行政や関係機関等との連携により、地域のつながりや相談窓口につながる体制づくりなどを強化していくことが必要である。

参考

# 調査表

# 新型コロナ「これまで」と「これから」に関する調査

■　ご回答にあたって　■

・新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という。）がどのように皆さまの生活に影響を与えたのか、現在、今後の展望についてもお聞かせください。

・回答は直接調査票に○をご記入ください。

## ☆　あなたご自身のことについてお伺いします。

- 年齢（１９歳以下／２０歳代／３０歳代／４０歳代／５０歳代／６０歳代／７０歳代　８０歳代／９０歳以上）
- 性別（男性／女性／無回答）
- お住いの区（　　区）
- 世帯（単身／夫婦のみ／二世代（親と子）／三世代（親と子と孫）／その他）
- ご家族の中に日常生活で手助けが必要な方はおられますか（いる／いない／無回答）
- 職業（学生／会社員・団体職員・公務員／自営業／パート・アルバイト等／専業主婦・主夫／無職／その他）

## （1）　緊急事態宣言下（令和２年４月７日～５月２１日　外出自粛期間）の生活についてお伺いします。

問１　あなたが生活するうえで困ったこと、悩んだこと、または不安に感じていたことはどのようなことですか。（回答はいくつでも可）

①コロナ禍での体調管理について

②買い物などで外出した際の感染の恐れ

③家族と長時間一緒にいることで起こるトラブル

④収入など経済的なこと・仕事のこと

⑤学校が休校していて勉強できなかったこと

⑥介護、福祉サービスの休止や利用の自粛により、家族の負担が増えたこと

⑦困りごとを相談する人（機関）がいないこと

⑧特に困ったこと、悩んだこと、または不安なことはなかった

⑨その他（　　）

**問２**　家族や親類以外で頼りにした人（機関）はだれですか。（回答はいくつでも可）

①友人や知人、近所の人

②町会、自治会、地域活動協議会、地域社会福祉協議会などの役員

③民生委員・児童委員

④地域福祉コーディネーター（主に地域福祉会館などで地域福祉活動を推進している方）

⑤区役所

⑥区社会福祉協議会

⑦地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）

⑧生活困窮者自立相談支援窓口

⑨障がい機関相談支援センターや相談支援事業所

⑩ケアマネジャーや相談支援専門員、ホームヘルパーなど福祉サービス事業者

⑪かかりつけ医・歯科医師・薬剤師

⑫いつも関わっている保育所や障がい施設や事業所の職員

⑬学校などの教育機関

⑭頼りにできる人（機関）はいなかった

⑮わからない

⑯特に頼りたいことはなかった

⑰その他（　　）

**問３**　外出自粛期間、どのように情報収集をしましたか。（回答はいくつでも可）

①家族・友人　②区の広報紙　③区社会福祉協議会の広報誌　④回覧板

⑤町内の掲示板　⑥テレビやラジオ　⑦インターネット

⑧その他（　　）

**問４**　コロナ禍での困りごとに対して何か新たに支援やサービスを利用しましたか。（回答は１つ）

①利用した　　②利用していない　　③利用できる支援やサービスがわからなかった

**問５**　問4 で「利用した」と回答された方にお聞きします。どのようなサービスや支援を利用しましたか。（回答はいくつでも可）

①緊急小口資金・総合支援資金などの金銭支援

②住居確保給付金などの家賃補助

③社会保険料などの猶予

④生活困窮者自立相談支援窓口

⑤区役所の相談窓口

⑥区社会福祉協議会の相談窓口

⑦地域包括支援センター・障がい者機関相談支援センターなど相談窓口

⑧介護保険サービス

⑨障がい福祉のサービス

⑩民間の配食サービス

⑪区社会福祉協議会の配食サービス

⑪SNS などによる相談

⑫その他（　　）

**問６**　大阪市社会福祉協議会と各区社会福祉協議会が実施している「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業」を知っていますか。（例：外出自粛期間中に閉じこもりがちになっている高齢者や障がい者宅への配食やタオル等の啓発物品の配付による安否確認など）（回答は１つ）

①知っている

②知らない

③わからない

問７　問６で「知っている」と回答された方にお聞きします。この事業ではさまざまな活動者が対象者への安否確認等の活動を実施しています。ご自身が事業対象者からうれしかったこと等お聞きになった内容はありますか。（ご自身がうれしかった内容についてもご回答ください）（回答はいくつでも可）

①地域のボランティアや業者が弁当を届けてくれたこと

②地域役員やボランティアが啓発物品を届けてくれたこと

③民生委員が電話や訪問してくれたこと

④社会福祉協議会の職員が電話や訪問してくれたこと

⑤その他、外出自粛期間中にうれしかったことを記入してください

（　　）

## (2)　現在と今後の生活についてお伺いします。

問１　生活するうえで困っていること、悩んでいること、または不安に感じていることはどのようなことですか。（回答はいくつでも可）

①コロナ禍での体調管理について

②買い物などで外出した際の感染の恐れ

③家族と長時間一緒にいることで起こるトラブル

④収入など経済的なこと・仕事のこと

⑤学校が休校していたことによる学習の遅れ

⑥介護、福祉サービスが以前のように利用できず、家族の負担が増えたこと

⑦困りごとを相談する人（機関）がいないこと

⑧特に困っていること、悩んでいること、または不安なことはない

⑨その他（　　）

問２　今後、利用したい支援やサービスはありますか。（回答はいくつでも可）

①緊急小口資金・総合支援資金などの金銭支援

②住居確保給付金などの家賃補助

③社会保険料などの猶予

④生活困窮者自立相談支援窓口

⑤区役所の相談窓口

⑥区社会福祉協議会の相談窓口

⑦地域包括支援センター・障がい者機関相談支援センターなど相談窓口

⑧介護保険サービス

⑨障がい福祉のサービス

⑩配食サービス

⑪SNS などによる相談

⑫わからない

⑬その他（　　）

**問３**　お住まいの地域で困っていること、悩んでいること、または不安なことを相談できる人（機関）はだれですか。（回答はいくつでも可）

①友人や知人、近所の人

②ケアマネジャーや相談支援専門員、ホームヘルパーなど福祉サービス事業者

③町会、自治会、地域活動協議会、地域社会福祉協議会などの役員

④民生委員・児童委員

⑤地域福祉コーディネーター（地域福祉活動の推進役）

⑥区役所

⑦区社会福祉協議会

⑧地域包括支援センター・総合相談窓口（ブランチ）・居宅介護支援事業所

⑨生活困窮者自立相談支援窓口

⑩障がい者機関相談支援センターや相談支援事業所の職員

⑪かかりつけ医・歯科医師・薬剤師

⑫いつも関わっている施設や事業所

⑬学校や学童の先生

⑭頼りにできる人（機関）はいない

⑮わからない

⑯その他（　　）

**問４**　お住まいの地域においては、様々な形で手助けが必要な人や気がかりな人を対象とした見守り活動等が行われていますが、あなたが知っている取組みはどれですか。

（回答はいくつでも可）

①「見守り相談室」による取組み

②民生委員・児童委員による見守りの取組み

③地域福祉コーディネーターなどによる見守りの取組み

④地域住民による友愛訪問、見守り訪問、声かけ活動などの取組み

⑤児童の登下校の見守りの取組み

⑥弁当の配食時に安否確認をする取組み

⑦集会所などで食事会などを催し、地域交流を深める取組み

⑧身近な地域で開催される運動や体操などの取組み

⑨ごみの引き取り時に異常があれば緊急連絡先に通報するサービス

⑩電気、ガス、水道の検針や新聞や牛乳配達等、事業者と協働した見守り活動

⑪すべて知らない

⑫その他（　　）

**問５**　今回のような感染症や災害などで地域の住民同士で支え合いが求められる場面を想定して、普段からどのようなことが必要であると思いますか。

（回答はいくつでも可）

①近所の人とあいさつする程度の関係は作っておくこと

②近所で支援が必要な人、支援の程度について把握しておくこと

③住民同士で互いの状況についてある程度知っておくこと

④自助のために備蓄をしておくこと

⑤健康管理

⑥地域での話し合いの場や防災訓練

⑦住民同士でのメールや電話での連絡体制づくり（LINE等SNSを含む）

⑧わからない

⑨その他（　　）

問６　今後、皆さんがお住いの区の社会福祉協議会に関わってほしいことはどんなことですか。（回答はいくつでも可）

①生活の困りごとや悩みごとを聴いてほしい
②食事の相談にのってほしい
③介護保険を利用したい
④障がい者のサービスを知りたい
⑤身体を動かす機会が欲しい
⑥出かける場所が欲しい
⑦地域活動に参加したい
⑧ボランティア活動に参加したい
⑨特に関わってほしいことはない
⑩その他（　　）

問７　お住いの区の社会福祉協議会に対するご意見・ご要望がありましたらご自由にお書きください。

［　　］

ご協力ありがとうございました。
お手数ではございますが、１１月３０日（月）までに返信用封筒にて切手を貼らずにそのまま投函してください。
ご協力いただきました回答は、統計資料の作成以外には使用いたしません。

本調査に関するお問合せ先

大阪市社会福祉協議会　地域福祉課（担当：西口、島﨑）

TEL　06-6765-5606
FAX　06-6765-5607

# 「新型コロナウイルス感染症」についてのアンケート

このアンケートは、「新型コロナウイルス感染症」が流行してからのあなたの様子をききます。

どんなことに困っているか、どんな思いでいるかを教えてください。

ぜひ、アンケートに協力してください。

## ☆　あなたについて教えてくだい

- 何才ですか？　（　　才／　　年生）
- 性別は？　（　男　／　女　／　答えたくない　）
- 何区に住んでいますか？（　　区）
- 誰と一緒に住んでいますか？

　①お父さん　　②お母さん

　③おじいさん　　④おばあさん

　⑤兄弟姉妹　　⑥その他（　　）

- 誰かの手助けが必要な家族はいますか？（　いる　／　いない　）

## （1）　令和２年４月７日から５月２１日までの外出をひかえていた間の生活について教えてください。

問１　困ったこと悩んだこと不安に感じたことは何ですか？（いくつでも○をしてください）

①新型コロナウイルスに感染しないか心配だったこと

②外に出かけることができなかったこと

③家族のことで悩みがあったこと

④友達と会えなかったこと

⑤学校がお休みで勉強ができなかったこと

⑥給食が無かったので、ご飯がなかった日もあったこと

⑦悩みごとや困りごとを相談できる人がいなかったこと

⑧特に困ったこと、悩んだこと、不安なことはなかった

⑨その他（　　）

問２　困ったことがあった時に頼ったのは誰ですか？（いくつでも○をしてください）

①お父さん　　②お母さん

③おじいさん　　④おばあさん

⑤兄弟姉妹　　⑥友達

⑦近所の大人　　⑧お医者さん

⑨学校や学童、塾の先生　　⑩こども食堂の大人

⑪頼った人はいなかった　　⑫わからない

⑬その他（　　）

問３　友だちとはどのように連絡をとっていましたか？（いくつでも○をしてください）

①会って話した　　②声だけの電話で話した

③顔が見える電話で話した　　④LINE などのメッセージでやりとりした

⑤会ったり、話したりしていなかった

⑥その他（　　）

問４　どのくらい家の外に出ましたか？（4月7日～5月21日の間）（１つ○をしてください）

①１回も出なかった　　②週に１～2回

③週に３～４回　　④ほぼ毎日

問５　外に出た人に聞きます。1回にどれくらいの時間、外に出ましたか？（１つ○をしてください）

①毎日３０分まで　　②毎日３０分～２時間　　③毎日２時間以上

問６　次のうち出かけた場所はありますか？（回答はいくつでも可）

①公園　　②スーパー・コンビニ

③おじいさん、おばあさんの家　　④友達の家

⑤塾などの習い事　　⑥いきいき（児童いきいき放課後授業）や学童

⑦こどもの居場所（こども食堂・学習の場）

⑧その他（　　）

**問7**　緊急事態宣言の間にこども食堂に行きましたか。

①こども食堂まで弁当を取りに行った

②ボランティアさんが弁当を家まで届けてくれた

③行かなかった（または、知らなかった）

④その他（　　）

**問8**　問7で、①の「こども食堂まで弁当を取りに行った」または②の「ボランティアさんが弁当を家まで届けてくれた」答えた方にお聞きします。その時うれしかったことは何ですか。（回答はいくつでも可）

①弁当がおいしかったこと

②おなかがいっぱいになったこと

③久しぶりに外に出れたこと

④ボランティアさんや仲間と会えたこと

⑤ボランティアさんや仲間と話ができたこと

⑥その他、うれしかったことを記入してください

（　　）

## （2） 今の生活について教えてください

問１ 今、困っていること、悩んでいること、不安に感じていることは何ですか？（いくつでも○をしてください）

①新型コロナウイルスに感染しないか心配だったこと

②外に出かけにくいこと

③家族のことで悩みがある

④友達と以前のように遊べないこと

⑤学校がお休みで勉強がわからないこと

⑥給食が無いこと

⑦悩みごとや困りごとを相談できる人がいないこと

⑧特に困ったこと、悩んだこと、不安なことは無い

⑨その他（　　）

問２ 困ったことがあった時に頼りたいのは誰ですか？（いくつでも○をしてください）

①お父さん　　②お母さん

③おじいさん　　④おばあさん

⑤兄弟姉妹　　⑥友達

⑦近所の大人　　⑧お医者さん

⑨学校や学童、塾の先生　　⑩こども食堂の大人

⑪頼りにできる人がいない　　⑫わからない

⑬その他（　　）

問３ 今回のような感染症や災害などでは、地域で住んでいる人たち同士で支え合いが必要になることがあります。普段からどのようなことをしておけばいいと思いますか？

（いくつでも○をしてください）

①近所の人とあいさつをして顔みしりになること

②どこに、どんな人が住んでいるか知っておくこと

③生活に必要なものを買いそろえておくこと

④健康でいること

⑤何かあった時にみんなで集まる場所を決めておくこと

⑥地域の防災訓練

⑦わからない

⑧その他（　　）

問４　学校やこども食堂が再開した今の気持ちを自由に書いてください。

（　　）

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、大阪市社会福祉協議会 地域福祉課に１１月３０日（月）までに返送してください。

※ 記載していただいた情報は、統計資料の作成以外には使用しません。

本アンケートに関するお問合せ先

大阪市社会福祉協議会　地域福祉課（担当：西口、島﨑）

TEL　06-6765-5606
FAX　06-6765-5607

# 新型コロナ「これまで」と「これから」に関する調査

■　ご回答にあたって　■

・新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という）がどのように皆さまの活動に影響を与えたのか、現在、今後の展望についてもお聞かせください。
・回答は直接調査票に〇を、カッコには具体的な内容を記入してください。
・ご協力いただきました回答は、統計資料の作成以外には使用いたしません。

## ☆　皆さまの活動についてお伺いします。

● 活動区（　　区）
● 活動団体について（地域団体／ボランティア団体／NPO／その他　　）
● 主な活動対象者（乳幼児・親子／中学生以下の学生／障がい者／高齢者／外国人
※　複数回答可　　住民全般・多世代／その他　　）

## （1）　緊急事態宣言下（令和２年４月７日～５月２１日　外出自粛期間）のあなたの主たる活動についてお伺いします。

問１　緊急事態宣言中の活動状況について（回答は１つ）
①通常どおり活動していた　　②規模を縮小、または内容を変更して活動していた
③活動を中止した

問２　問１で①「活動していた」または②「規模を縮小して活動していた」と回答された方にお聞きします。活動方法を工夫して実施したことはありますか（回答はいくつでも可）

◎ ふれあい喫茶：お弁当の配付／電話・メール等での安否確認／WEB ツールの利用
予約制で実施／時間短縮／屋外で実施／感染予防対策の強化を行った
人数制限／その他（　　）
◎ 食事サービス：会食から配食に／電話・メール等での安否確認／WEB ツールの利用
予約制で実施／時間短縮／屋外で実施／感染予防対策の強化を行った
人数制限／その他（　　）
◎ 子育てサロン：電話・メール等での安否確認／WEB ツールの利用／予約制で実施
時間短縮／屋外で実施／感染予防対策の強化を行った／人数制限
その他（　　）
◎ 百 歳 体 操：電話・メール等での安否確認／WEB ツールの利用／予約制で実施
時間短縮／屋外で実施／感染予防対策の強化を行った／人数制限
その他（　　）
◎ 見 守 り 活 動：電話・メール等での安否確認／WEB ツールの利用／予約制で実施
時間短縮／屋外で実施／感染予防対策の強化を行った／人数制限
その他（　　）

◎ こども食堂：お弁当の配布／電話・メール等での安否確認／WEB ツールの利用
等こどもの　予約制で実施／時間短縮／屋外で実施／感染予防対策の強化を行った
居場所活動　人数制限／その他（　　）
◎ ボランティア団体：WEB ツールの利用／時間短縮／屋外で実施
感染予防対策の強化を行った／人数制限
その他（　　）
◎ その他の活動　（活動の名称：　　）
：お弁当の配布／電話・メール等での安否確認／WEB ツールの利用
予約制で実施／時間短縮／屋外で実施／感染予防対策の強化を行った
人数制限／その他（　　）

問３　問１で「活動を中止した」と回答された方にお聞きします。活動を中止した理由は何ですか（回答はいくつでも可）

①感染症拡大防止のため
②活動再開に向けた明確な判断基準がなかった
③感染症へのリスクから活動が進められなかった
④コロナ感染症の影響による活動の担い手の不足
⑤感染症へのリスクから活動場所が減少した（使用できなかった。活動利用場所からの利用制限があったなど）
⑥活動資金、必要な物資（衛生商品など）の不足
⑦メンバー間で協議した結果
⑧相談機関に相談したが、十分な回答が得られず活動しにくかった
⑨相談機関に相談してアドバイスがあった
⑩活動に関わる情報の入手先がわからなかった
⑪困りごとを相談する人（機関）がいなかったこと
⑫その他（　　）

問４　活動ができない期間にどこかの機関等に相談しましたか（回答はいくつでも可）

①区役所（区保健福祉センター）
②区社会福祉協議会
③見守り相談室
④地域包括支援センターや障がい者機関相談支援センターなどの機関
⑤生活困窮者自立相談支援窓口
⑥関わりのある施設や事業所
⑦病院
⑧その他（　　）

問５　外出自粛期間中、どのように情報収集をしましたか（回答はいくつでも可）

①区の広報紙　　②区社会福祉協議会の広報誌
③市社協の広報誌（大阪の社会福祉、COMVO など）

④回覧板　　⑤掲示板
⑥テレビやラジオ　　⑦インターネット
⑧その他（　　）

（2）　現在、今後のあなたの主たる活動についてお伺いします。

問１　現在、活動を再開していますか（回答は１つ）
①再開している　　②中止している
③内容を変えて再開している（　　）

問２　問１で活動を「再開している」「形を変えて再開している」と回答された方にお聞きします。活動を進めていくにあたってどのような課題を感じていますか（回答はいくつでも可）
①ボランティアのモチベーションに関する不安
②ボランティアの減少
③運営資金の不安
④活動場所の不安
⑤感染症のため、慎重になって活動が進められない
⑥相談機関に相談したが、十分な回答が得られず活動しにくい
⑦今のところ課題に感じることはない
⑧その他（　　）

問３　問１で活動を「中止している」と回答された方にお聞きします。活動を再開できない要因は何ですか（回答はいくつでも可）
①感染症拡大防止のため
②コロナ感染症の影響による活動の担い手の不足
③感染症へのリスクから活動場所が減少した。使用できない。活動利用場所からの利用制限がある
④活動資金、必要な物資（衛生商品など）の不足
⑤メンバー間で協議した結果
⑥専門職との連携の場が減った
⑦活動再開に向けた明確な判断基準
⑧感染症へのリスクから活動が進められなかった
⑨相談機関に相談したが、十分な回答が得られず活動しにくかった
⑩相談機関に相談してアドバイスがあった
⑪活動に関わる情報の入手先がわからなかった
⑫困りごとを相談する人（機関）がいなかったこと
⑬その他（　　）

問４　現在、活動の対象者やメンバー等からの相談を受けていますか(回答は１つ)

①受けている　　②受けていない

問５　問４で「受けている」と回答された方にお聞きします。どのような相談を受けましたか（回答はいくつでも可）

①健康のこと
②外出した際の感染症にかかる恐れについて
③家族の人間関係のこと
④収入など経済的なこと・仕事のこと
⑤学校が休校していたことによる学習の遅れ
⑥介護、福祉サービスが以前のように利用できず、介護負担が増えたこと
⑦困りごとを相談する人（機関）がいないこと
⑧特に困っていること、悩んでいること、または不安なことはない
⑨その他（　　）

問６　対象者等から相談を受けた際、どこに相談、またはつなぎましたか（回答はいくつでも可）

①区役所（区保健福祉センター）
②区社会福祉協議会
③見守り相談室
④地域包括支援センターや障がい者機関相談支援センターなどの機関
⑤生活困窮者自立相談支援窓口
⑥関わりのある施設や事業所
⑦病院
⑧その他（　　）

問７　今後、安心して活動を続ける、再開するにあたり、必要だと思う支援は何ですか（自由記述）

［　　］

ご協力ありがとうございました。
お手数ではございますが、大阪市社会福祉協議会 地域福祉課に１１月３０日(月)までに返信、または返送用封筒にて切手を貼らずに返送してください。

本調査に関するお問合せ先
大阪市社会福祉協議会　地域福祉課（担当：西口、島﨑）
TEL　06-6765-5606
FAX　06-6765-5607

# 新型コロナ「これまで」と「これから」に関する調査

■　回答にあたって　■

・新型コロナウイルス感染症（以下、「感染症」という）がどのような影響を与えたのか、現在の状況、今後の展望についても回答してください。
・回答は直接調査票に〇を、カッコには具体的な内容を記入してください。
・１１月３０日（月）までに返送してください。

氏名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（　　区）

● 職種について（回答は１つ）

①地域支援担当主査またはスタッフ
②見守り支援ネットワーカー管理者
③生活支援コーディネーター
④包括支援担当管理者
⑤生活困窮者自立支援事業主任相談支援員

## （1）　緊急事態宣言下（令和２年４月７日～5月21日　外出自粛期間）について回答してください。

問１　地域住民や関係団体からの相談が増えましたか。(回答は１つ)
①増えた　②ある程度増えた　③普段と同じ　④減った

問２　特に増えた相談内容は何ですか。①②と回答した場合のみ回答。(自由記述)

［　　］

問３　担当している業務を行う中で、一番の課題は何でしたか。(自由記述)

［　　］

問４　その課題をきっかけに新しく発見したり、つながった社会資源や連携先はありましたか。(自由記述)

［　　］

（2）　現在、今後について回答してください。

問１　緊急事態宣言解除後、相談が増えましたか。(回答は１つ)

①増えた　　②ある程度増えた　　③普段と同じ　　④減った

問２　特に増えた相談内容は何ですか。①②と回答した場合のみ回答。(自由記述)

［　　］

問３　新型コロナウイルス感染症の影響が継続する中で、区・地域のどのような福祉活動、さらに支援が求められると感じていますか。(回答はいくつでも可)

①日常の見守り活動
②こどもを支援する活動
③子育てを支援する活動
④高齢者を支援する活動
⑤障がいのある方を支援する活動
⑥介護者や介助者を支援する活動
⑦地域防災及び防犯などに関する活動
⑧高齢者とこどもの世代間交流活動
⑨市民後見人活動
⑩外国籍住民・留学生などについて交流や支援をする活動
⑪その他（　　）
⑫わからない

問４　新しい生活様式を取り入れた地域福祉活動の再開がすすめられていますが、その中で何が一番課題であると思いますか。(回答は１つ)

①感染症対策を踏まえた活動の推進
②ボランティアなどの人材の調整
③活動場所の調整

④オンラインツールなど新たな手法を取り入れること
⑤必要な物資（衛生商品、オンラインに必要な機材など）の不足
⑥再開に向けた話し合いの場の持ちにくさ
⑦わからない
⑧その他（　　）

問５　なぜそれを一番課題に感じましたか。（自由記述）

［　　］

問６　外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業について、効果があったこと、改善すべきことなど自由に記載してください。

［　　］

問７　今後、検討している、またはやってみたいと思っている地域に向けた取組みがありますか。（自由記述）

［　　］

ご協力ありがとうございました。
大阪市社会福祉協議会 地域福祉課に１１月３０日（月）までに返送してください。

本調査に関するお問合せ先
大阪市社会福祉協議会　地域福祉課（担当：西口、島﨑）
TEL　06-6765-5606
FAX　06-6765-5607
E-mail　soudan@shakyo-osaka.jp